

6559 15-4-1

緑丘

1968 No 61

43年度 第1号

外人講師特集号(Ⅲ)



小樽風景
尾形圭介

小樽商大
同窓会誌

SINCE 1876



結論が出ました—

「★サッポロビールは 最初のうまさを持続する」

●雑味・雑臭がないから うまさを持続

ビールの味の総仕上げは濾過の工程が受けもちます。サッポロビールは独自の方法で雑味・雑臭を完全に除去、味の純度がずば抜けて高いのです。

何杯飲んでも最初のうまさ味わえる——サッポロビールだけの秘訣です。

六月七日午後六時から東京ステーションホテル二階宴会場に於て社団法人緑丘会の第二八回通常総会が開催された。

全国各支部より支部長はじめ有志の顔触れが見られ出席者約一八六名(議案)

一、昭和四十二年度の事業報告
一、昭和四十二年取支決算および財産目録承認の件

一、昭和四十三年取支予算承認の件など一氣に可決された。

なお次回通常総会開催地の件は理事長一任となった。

引き続き関西緑丘会の各支部は次の予定で総会を開催することに決した。

緑丘会大阪支部 六月十日(月)
緑丘会京都支部 六月十一日(火)

第28回通常総会開かる

社団法人 緑丘会

緑 丘

全 国 版

(通巻)No. 61号
(43年度 1号)

〔緑丘〕編集部
兵庫県西宮市清水町1の16
墓目英三内
(緑丘会大阪支部)
大阪市北区梅田八番地
新阪急ビル8階
サッポロビル(株)内

緑丘会神戸支部 六月十二日(水)

名古屋支部役員の顔触れ
若がえり人事

支部長 浜井清一氏(昭二二)
名古屋支部は四月二十三日の総会に於て支部役員の改選があり、支部長に昭和十二年卒浜井清一氏が決定した。

そして今までの支部役員経験者を相談役として新しい支部が誕生したのであるが、この若がえり人事によって活発な支部活動が期待され、全国の緑丘会支部も注視の的であり、その活躍がこの緑丘を通じて皆さんに発表できることを期待する。

名古屋支部

名古屋市昭和区桜山町三一五八
東和金属株式会社内



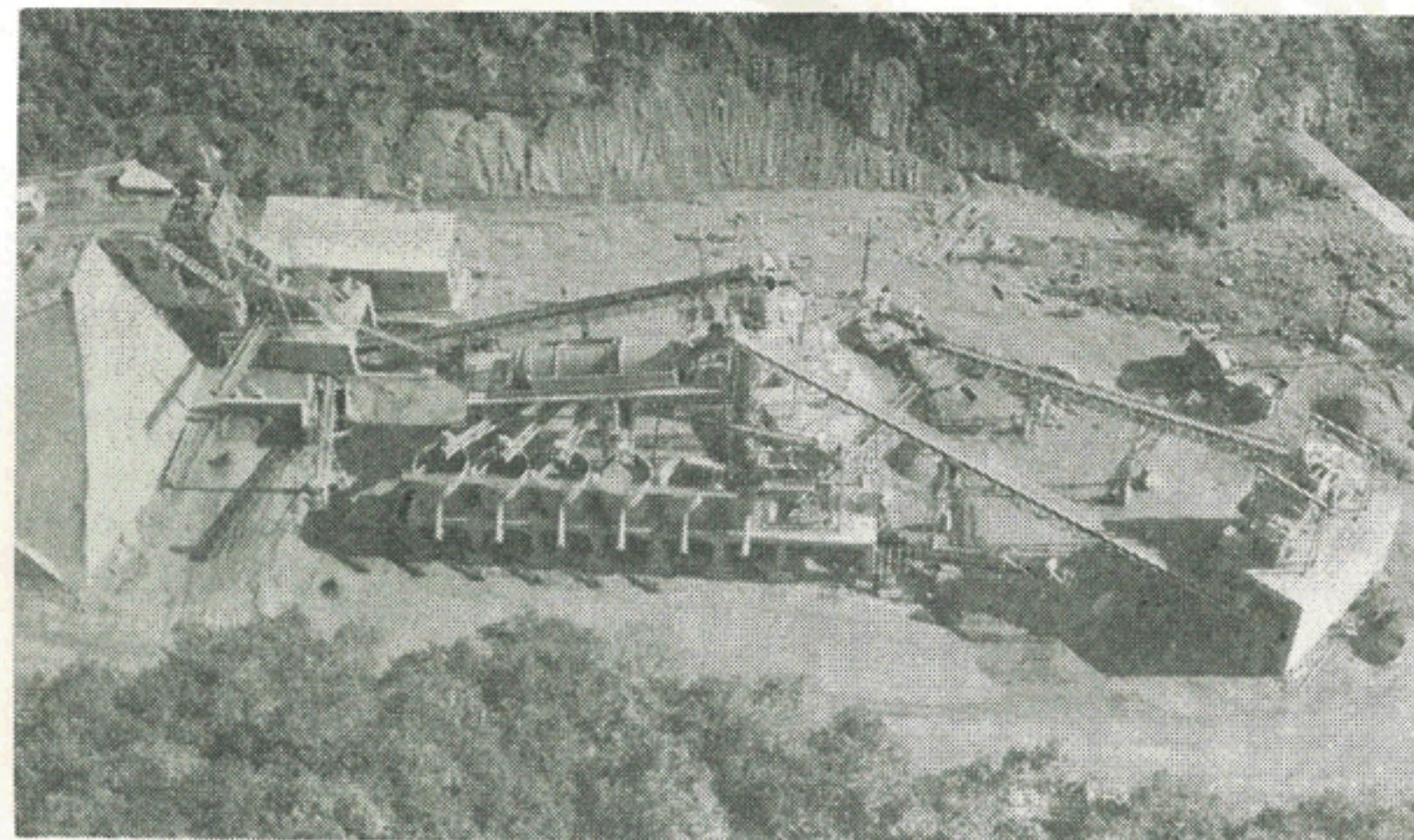
skin dew

朝と お休み前に
5分間だけさいてください
スキン・デューに含まれた
天然の成分コラーゲンが
あなたのお肌に
栄養としめり気を与え
1日中うるおいを
たもちます



Paris • London • New York
Helena Rubinstein
ヘレナ・ルビンスタイン
取締役社長 加地幸一 (大12)

国土総合開発に貢献する



KYC フラント

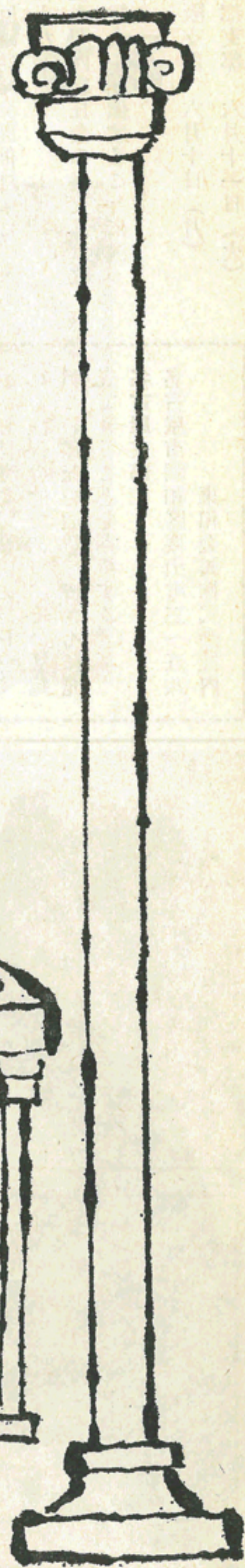
一営業品目一 砕石プラント アスファルトプラント バッチャースケール
砂利撰別プラント クラッシャー ベルトコンベアー
バッチャープラント コンクリートミキサー

KYC光洋 機械工業株式会社

代表取締役社長 奥村正美(昭17卒業)

本社 大阪市北区南同心町1丁目31番地 電話大阪(358)3521(大代表)

大阪支店 電話大阪(358)3521(大代表)	仙台支店 電話仙台(25)4441~3
東京支店 電話東京(254)5601~5	名古屋営業所 電話名古屋(221)7037~8
広島支店 電話広島(61)5101~3	高松営業所 電話高松(61)4391~3
福岡支店 電話福岡(43)6461~4	鹿児島営業所 電話鹿児島(2)3055・1650
札幌支店 電話札幌(24)9594~6	



外人講師特集

(III)

緑丘の異人さん達 ②

大谷敏治 (大10)

D・B・マッキンノン先生
 次に現われたのは、やせがた、長身、美しいひげをたくわえたアメリカの人、いうまでもないD・B・マッキンノン先生、前の人とはちがって、よく語り、よく手真似、足真似で語り、ジョークをとばし、時に日本語を使い——要するに、賑やかな授業、そして正に、英語のレッスンであった。そしてそれ故に、いやそれなのに、血の気多い学生は、ときに、教室から、集団逃亡した。

ある時、筆者は、クラスの居残り代表とされて教室に残留し、悪童どもはいつせいに逃亡して、こわい教務課長武田英一先生の大目玉をくらったことがある。昨年の、緑丘人のこの人への心づくしは、この邪心なきいたずらの、罪亡ぼしか。筆者も昭和二年以降、その同僚の末席として、いろいろの教示をうけながら、その学恩を正當にアプレシエートしえなかつたことを、いまに恥じなくてはならない。この人、当時、地獄坂を登って緑町第二大通りに曲る角の日本家屋に、奥さん、お子さんと住み、毎日米国旗を、日の丸とともに屋上にかかげていた。のちに緑町洗心橋のほとり、自からの設計になる円形の官舎に住み、その後の運命は

大方ご存知のとおり。
 大正六年九月備外国人教師、昭和十七年三月解職。昭和四十三年八月緑丘教え子の招きにより夫人と共に来日、再び緑丘の講壇に立ち、また全国を旅して、緑丘人と再会、勲三等瑞宝章を受け、十一月帰国。いま米国カリフォルニア州パークレーに悠々自適。長寿を祈る。

ウィルヘルム・フット先生
 この頃、商業算術という学課があった。はじめ志摩清一郎教授の担当であったが、やがて長身赫顔、前額のはげあがった外人になった。ウィルヘルム・フットさん、ドイツの人である。うまい英語で、外国貿易取引の、見積書やインボイスの作成、計算、外国為替の換算やら、為替のアービトリション（為替裁定）の計算、複利計算、年金計算など

どをやる。英語で説明し、計算をやらせる。これは苦が手であった。まず内容そのものが判らない。換算表 Conversion Table なんてものも、初めてのお目見えである。第一、数学が不得手で高商をえらんだものもいた。みんなぶうぶう言いはしたものの、この先生、人柄に愛嬌があつて割合に出席率はよかつた。

この先生に特技があつた。ピアノをよくし、歌をうたわれた。そこで翌年大正八年に、校友会の外国語部のなかに、コーラスをやるグループができたとき、そしてその翌年大正九年秋、学校の年中行事——全小樽の行事の華のひとつ、高商外語劇の宵に、（この年からはじめて二晩興行になった）このグループが、はじめてコーラスを発表するきっかけとなった。このことは緑丘校友会の、

文化的生活の一片、音楽部の神代史にもなるうから、フットさんにふれてすこし詳しく書きしるそう。

北辺の新風

当時、緑丘が、日本に第五番目のとして全国に高等商業学校が五つしかなかったこと、高等学校すら、まだ七つしかなかったことは、前述した。商科大学はまだなかった、東京高商に専攻部があつただけ。大学にも、商学部経済学部というものは、まだない。東京帝国大学にも、京都帝国大学にも、経済学部はまだない。法学部の講座のなかに、経済学、経済史といった講座があつただけ。早稲田の政経は、天野為之、塩沢貞昌博士の経済学の講義はあつても、学課としては政の方に重みがおかれ、慶応義塾の理財という名がめだつたくらい。だから天下の英才、経済・商業を志すものは全国五つの高商をめざす。それに、この頃、北海道に、総人口も少なかったとはいへ、中学校も少なかった。庁立は札幌に二、あと函館・小樽・旭川に一校ずつ、私立が札幌に一つ。商業学校が函館・小樽そして根室に一校ずつ。だから、緑丘へ集る若人は、文字どおり全国から集つた。東北、関東、北陸、中部、関西、中国、四国、九州、地元北海道よりは、内地の人たちが多かった。現に、筆者らのクラスには、九州鹿児島、四国の高知、朝鮮（当時）から渡来の人もいた。東京からの、しゃれ者が、上級生にも、同級生にもおつて、言葉どおり僻地の地小樽——当時東京から津軽海峡をこえて所要時間二十八時間、青森では、船舟のつて連絡船にの

り移つたという——に、これらの人が、新風をもたらしつた。その小樽、これは北海道の繁華第一、道路こそ前述のとおり天下の嶮であつたが、当時まだ盛漁をつづけた鯨漁業の中心であり、また、北海道一円、樺太一帯への物資の集散地、東京・大阪との取引も多く、また北陸とは、魚粕肥料、石炭・木材の移出、米・薬工品の移入と、それにとりまなう海運・金融、要するに横浜以北第一の港、加えて大正三年（一九一四年）第一次世界大戦勃発以来の、日本の享受した景気は、この港にも及んで、パンカー・コールの積取港、輸出豆類、木材類、海産物の輸出地として、ヨーロッパ復航同盟のターミナル・ポートとして、この港に、毎月出入する外国船は、ブルー・フアネル、P・アンド・O、グレン・ライン、ステーツ・ラインと、坂本教授の口吻をかりれば、小樽の水はロンドン、アムステルダムに通じていたのである。したがつて、当時の小樽は、なかなかしゃれた町で、たとえば、年に一度来る大歌舞伎は、まず小樽で舞台をあげるし、嬌斜の巷は、東京以北、小樽を粋中の粋として、札幌の泥くささの遠くおよばぬところと——これは、緑丘大方の諸先輩の、体験されたところ、いや伝承したところであろう。

音楽の熱風

しかし、こと、ヨーロッパ風の文化、芸術にいたつては、ことに、こゝとヨーロッパ風の音楽にいたつては、「歌うことなき街の悲しさ」は当時の小樽のみではない。簡単にいって、当時の小樽、人口十二、三万

ピアノを備えた家庭は、かぞえることができたし、またレコードによる音楽もまさに His Master's Voice のレコードが、小樽にはいつてきた頃であつた。当時、音楽といへば、女学校（庁立一、私立一）の音楽、唱歌の時間のそれで、緑丘学園にもピアノがまだなかつた。（札幌は、開拓使時代以来のキリスト教的ふんい気で、教会の人たち、大学の人たちを中心にした音楽があり、札幌混声合唱団がもうあつた。（洋画の会黒百合会も）。

緑丘の西洋風音楽らしいものは、多分東京くだりの人たちのコーラスではなかつたか。一方に、寮中心に尺八の会があるのに対して、前述マッキンノン先生のお宅に集つた英語の好きな人たちが、先生といつしよに、歌つた、おうちの集りのあとや遠足のときなどに。歌は、フォスター（Stephen Collins Foster 1826-64）のものや、One Hundred Most Popular Songs のなかのものなど。上級生であつた松本金次郎さんや、鹿又羊五君らが、声高らかに、Old Folks at Home, Old Black Joe や My Old Kentucky Home を歌つてゐるのを、うらやましく思つたものである。（この鹿又羊五氏、東京くだりの伊達者、すばらしいバリトンの持ち主で、また英語の達人、筆者入学の年の秋の外語劇の折、暗誦された Patric Henry（米国の愛国者、雄弁家）の「我れに自由を与えよ、しからずんば死を」のスピーチの英語暗誦など、どぎもを抜かれた思いであつた。この時の英語の上演が大友養七さん、

公認会計士 鈴木啓介事務所

所長 鈴木啓介 (昭13)

豊橋市駅前大通3丁目113の2

電話 豊橋 <0532> (53) 4 3 5 1

大村孝悌さん主演の *Macbeth* 指導は、中村和之雄教授。そして松本金次郎さん、村田、秀島、深沢さんらの *Three Homes*、新入一年生は、ただびっくりして観ていた。

筆者らのクラスにも、音楽の好きな連中がいた。札幌から来た西村久蔵（札幌郊外キリスト村の村長、サッポロ・ニシムラの創立者、亡）、砥上朝雄（横浜正金銀行、北陸銀行、現在神戸）、岡藤丑彦（キリストの僕、独立伝導、在静岡）当時みな熱烈な求道者として、教会に通って讚美歌からはいつて音楽好き。そして偶然同じ寮にいた。別の寮に、遠山清（亡）、朝鮮郵船常務、京城高商講師、海運論）という東京くんだりも、一風変わった仁で、名門関成高校の出身、相当の家庭の子弟ながら、人づきあいが悪い、第一、とても一週六日は学校へ出席できんといつて水曜日はきつと休む、年中足袋をはくしゃれ者で、夏冬の休み明けに出てくるとき、越中禅を大量にもつてきて、使ったのは、ためて小包でお袋さんのところへ送ってやる——母親ひとりの家庭であった。この仁が東京お茶の水の音楽学校分教場に通つて声楽を本格的に勉強した音楽好き。

ら間室守親さん（大東京火災海上元常務取締役）、広瀬勤十郎さん（新発田商業高校校長）が、参加してくださった。名もないグループ、しかし、筆者が二年生の時外国語部の幹事になったので、部長中村和之雄先生のお許しをえて、部のなかに有志グリーン・クラブとして置いて、毎週学校内で、また花園町のNやTの下



大正八年十一月第七回外国劇の前後、音楽愛好者集つて、コーラスの練習をした。指導はW・フット先生（ドイツ人、商業数学その他担任）、長谷川先生（庁立高等女学校音楽教師）。当時学校にピアノなく、ベビー・オルガンを用い、また練習はしばしば、仲間

宿で練習した。指導は最初は、庁立女学校の、長谷川なにかしという女の先生、そして、フット先生。とにかくピアノがない、ベビー・オルガンで、声は悪くても、発声をちゃん（コーリュー・ブンゲンをやつていた）ハローニーを大切に、やつて

このグループが二年生の 大正八年の下宿を用う。公開のあてもなく、ただ音楽をとおしての交わりをたのしんだ。写真はおそらく、当時三年生広瀬勤十郎さんの送別のためか。この日、フット先生所用にて来らず、やむなく後に加う。なお仲間のうち、砥上朝雄君をかく。

夏の末、村瀬玄先生（簿記・会計学）着任。夫人が、東京音楽学校出身であられることが、すぐに知れた。そこで無理にお願いして、コーラスの指導をお願いした。うれしいことであつた。この年の外語劇は十一月にあって二年の英語は、長谷川慶三郎先生の指導で *Merchant of Venice* を上演した、このプログラムで、なにを歌つたか、記憶のない。どうもまだ発表といつた段階のものでは、なかつたらしい。

もうすこし書くと、村瀬夫人の指導は、大正九年にもつづいた。そしてこの大正九年一月、高島佐一郎教授（経済学、国際金融論）が帰朝され、すぐに、あの難解な「国際金融論」の名講義があつたが、ある時、「今度デーゲンというスイス人が来る、ドイツ語の先生だ。音楽のうまい人だ」と、仰しやる。その年大正九年三月、東京音楽学校卒業演奏の

一行小樽に来る。プリマドンナ長門美保子嬢。同年、筆者ら第三年目の学生として外国語部幹事、本格的コーラスをやるうと、村瀬夫人、デーゲンの指導で練習をつづけ、秋の外語劇に、シューマンのトロイメライを歌い、大いに喝采されて気よくした。この時、高浜年尾氏（俳人、ホトトギス主幹）すばらしいバスで参加され、その他、大竹正雄氏

（北海製缶、計理士）直島一郎氏（亡、満洲重工業）ら加入。それに当時二年生の河村正雄君らのヴァイオリンのデュエットがあつた。ともあれ、この秋、音楽熱にわかに校内、市内にみなぎつた。

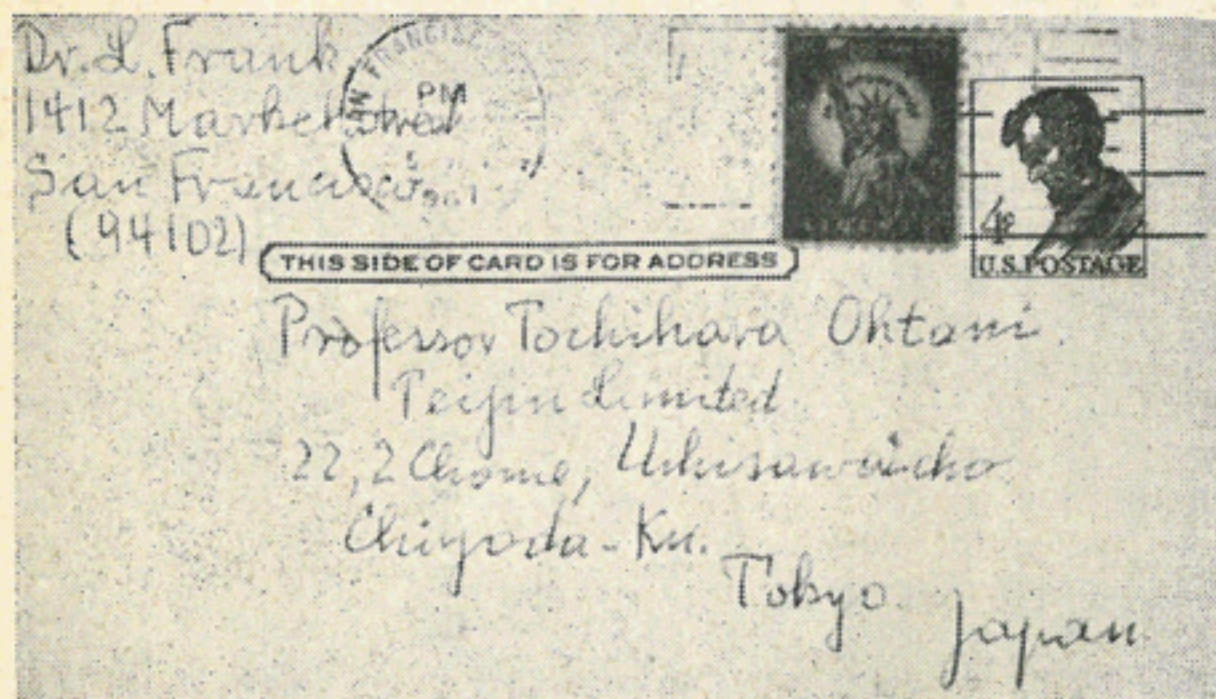
大正十年三月、筆者ら緑丘を去る。（ピアノ購入の確約を教務課からえて）しかし、音楽好きの熱風、村瀬夫人、デーゲンの指導のもとに急激に発展し（同時に外国語劇も）、大正十三年、市内公園館で、公開演奏会が開かれ、翌大正十四年、部長村瀬先生ご夫妻デーゲン先生ご夫妻引卒のもとに小樽高商音楽部の演奏旅行が、帯広、旭川に開かれた。この頃は、コーラスはもうな



大正十四年十月十四・十五の両日、小樽高商音楽部第一回公開演奏旅行（この前年大正十三年、小樽市内公園館にて公開演奏を開く、マンドリン合奏のほか高浜年尾君独唱あつて、全市の音楽愛好者をよこばす）。この公開演奏は十五日は帯広、十六日は旭川。写真は帯広、引卒は、部長村瀬玄教授、同夫人、夫人を助けて指導したJ・A・デーゲン先生夫妻。村瀬夫人の右は、帯広支部長中島論三郎氏（当時、北陸銀行支店長、その他、前列は大休卒業生）参加学生生約三〇名、演奏はマンドリン合奏のみ。この第二日、十四日、旭川演奏の日、いわゆる軍事教練事件おこり、部長村瀬教授急遽帰郷された。

なかつたので、大正八年、九年のこの音楽熱を高めた機運醸成に、かかげの支えとなつたもの、いわば前述グリーン・クラブの連中に、パトロネージを与えた奇特の仁のことを、逸するわけにはいかない。その人は、名を鈴木市次郎といひ、その頃、年齢——さう三十四、五位か、地獄坂を登つて、右手へ曲がるあたり、たしか法華宗のお寺があるが、その手前右側に、石段をのぼつて二階

爽かな剃り心地
 緑丘人のおヒゲ剃りには
資生堂スーパー・ポアン
 —— ステンレス替刃 ——



1412 Market Street
San Francisco, 3. January 1967

Dear Mr. Ohtani,

Thank you very much for your letter and remembrance! You were my best student at the college! With greetings and best wishes for you, Sincerely,
Dr. Louis Frank.

る。大正二年四月講師として来任。大正十五年、新設山梨高等工業学校に転出。のち消息をきかなかつた。四、五年前——サン・フランシスコにおられる由を風の便りにきいて、ただ、サンフランシスコ、ドクター・フーゴー・フランクとして、クリスマス・カードをおくった。そしてとどいた。返事がきた。

I remember you well. You are my best student. とあった。あとの方は、お上手として、音信不通四十年、いまにおぼえてくださるとはありがたい。かならずしもお幸せではないらしい、ご住所をわかっておく、同地をおとす緑丘人は、訪ねてあげてください、緑丘特色の一、

渡辺初代校長の策とはいえ、実際上は日本に創始の商品学、商品実験の生みの親、ここから後年理学博士小原亀太郎先生も生れ、西田彰三、品川秀三教授、小瀬伊俊教授もあつた、それから石輪工場を実験室とする原価計算、労務管理、工業経営の研究と実践も、こうして生れたのであるから。L・フーゴー・フランク先生よりのはがき

3 January, 1967

Dear Mr. Ohtani:

Thank you very much for your letter and remembrance. You were very best student at the College! With greetings and best wishes for you. Sincerely,

建、ペンキ塗りの洋館風の家に住んでおられた。先代は、小樽に古い船運送、荷役の親方ときいたが、当主鈴木さんは、早稲田かなにかを出られて、大正八、九年の頃は、もうその業はしていなかった。そのお住居の裏手、元、金沢植物園といわれた土地——富岡町の奥の高地、浅草寺の裏手につづく台地——の分譲を扱われて(このところ、筆者には、はっきりしない、しかし、どうも自分所有した土地を分譲されたのではなく、いわば、分譲を取扱った)——巨利をえられたと、伝えられた。(鈴木さんと、まず親交あったのは、前記、砥上、西村の両氏であった)。

この人、その巨利を、嬌斜の巷、柳暗花明のうちに費さず、もっぱら His Master's Voice のレコード蒐集にあてられた。またその頃来樽してリサイタルを開かれた柳兼子夫人の独唱会や、永井夫人のヴァイオリン・リサイタルに、切符を大量に買って、知人、小樽在住の智識人例えれば医師堺善三郎博士やなにかに贈られた。われわれもいつも招待された。この家へまず出入りしたのは、砥上、西村氏、ついで遠山氏、そして筆者ら。毎日、毎日午後学校がすむとその二階に集まる。レコードをきく、話をする、やがておやつ。それはきまって、じゃが芋か、かぼちゃのふかしたものである。あついのを、ほうばりながら、パッパ、リスト、シューマン、ベートーベン——ただし第九はまだなかった。そしてエルマン、シンバリスト、ハイフェッツ、本当に、毎日よくあきませず

集った、またいやがりもせず寄せてくださった。議論は、音楽から、左右田哲学や西田哲学「善の研究」や、シュライエルマツヘルに及んだ。美しい奥さん、いつも丸髪にあげて、細面の、もの言わぬ静かな夫人、お子さんは、太郎さんに次郎さん、そして百合子さん。みな可愛いお子さんであった。主人公が東京へ出張されるときは、砥上君が留守の大将、かれは、その頃から、老成、人の信頼をかちえたのである。こうした交わりが、音楽好きの連中の交わり、音楽熱を、凝縮させるのに、どのように働いたか、察せられよう。後年鈴木さんは、東京へ移られ、栄枯盛衰があつた。夫人は、はやくなくなられ、次郎君は東大在学中亡、長男太郎さんは東大を出ていま某大会社の幹部。しかし鈴木老人は、かならずしも、小田原の隠棲を、独り楽しむといつた心境ではなかつたらしい。数年前、秋のある一夕、当時のグリーン・クラブの在京メンバー、三菱重工の織田淑夫副社長のおつせんで高輪の寮に集まり、村瀬夫人、鈴木老を客として、欲談した。席にある者、織田、遠山、岩瀬、今井、大谷、先輩間室氏——往時をしのび、今時を語り、交互に独り歌いそしてまた声を揃えて歌つた。スナップショットのないのは、大正末期の書生のお年のせい。鈴木老、いまや亡し、村瀬玄先生また亡し。

歌う緑丘人のはしり、鹿又羊五君は、この音楽部の形成史に、再びは登場しない。古代史における、「国ゆずり」の伝承のごときものか。し

かし最近のクラスの集まりに、姿を現わして、老来さびぬ美しいパトリックをきかせてくれた。フット先生のことから、筆は、あまりにもそれた。再び緑丘外人講師伝に、かえらなくてはならない。

ルイス・フランク博士

商品学という学課も、珍らしい学課であった、しかし、商品学、商品実験は、緑丘独特、しかもこれが緑丘独立昇格のクレジットのひとつとなつたことは、緑丘五十年史に詳しく(同書、第四章参照)。この学課を担当したのは、大正二年四月講師として着任のルイス・フランク博士。肩巾の広い、四角な顔に、黒い頭髪短い鼻髭——いかにもドイツの人という型。このベルリン大学の理学博士が、英語で化学の講義をする。苛性曹達、硫酸、塩酸、それから、鉄鋼、石炭、硫安、空中窒素固定法。セルロース・セルロイド。第一、高商にきてからも、こんな学課があるうとは、思いもよらぬ、そのうえ、博士の英語たるや、難解をきわめた。物性、性質のプロパティがポパティである。そのうえ試験の答案を英語で書かねばならぬ。二時間の試験に、英文四、五枚である。英作文のよい練習であつた。学年試験の前に、代表岡田良太郎君が、範囲をまけてくれと、交渉して、だめであつたことを思い出す。詳細は、五九号 MOLE 氏の稿をみられたい。

緑町の小さな官舎におられたそうだが、雪の降ったとき、坊やトミーに、大きな雪掻きの代りに、ご飯のおしゃもじを買い与えたときいて、ほほえましく思ったことを記憶す

日本最初の食品コンビナート 昭和産業



船橋工場

事業部門 製粉・油脂・ぶどう糖・食品・飼料・倉庫



昭和産業株式会社

取締役社長 松本浩三

本社 東京都千代田区内神田2丁目2番1号
支店出張所 大阪・名古屋・札幌・仙台・神戸
広島・福岡・横浜・鹿児島・高松
工場 鶴見・神戸・船橋・上尾・水戸・太田

MAX FACTOR



マックスファクター

北海道販売株式会社

取締役社長 石崎 静夫

本社 札幌市北6条東3丁目 電話大代表(72)1161番
営業所 札幌・函館・室蘭・旭川・帯広・釧路・北見

D. Louis Frank

Dr. L. H. FRANK
1412 Market Street,
San Francisco, 94102,
Cal., U.S.A.

ミス・ケート・バグレイ先生

大正七年五月、筆者らが、すこし
緑丘の生活に馴れた頃、さらにひと
りの外人の先生が加わった。こんど
は女性、ミス・ケート・バグレイ先
生、身分は囑託、中年のイギリス婦
人であった。この先生のごとは「緑
丘」前号外人特集号Iに、佐藤信雄
さんが書いておられるから、詳しく
は書かない。筆者も、その年三月ま
で、札幌一中でのイギリス婦人に
英語を教わっていたから、へえ、ま
たミス・バグレイかと、申し訳ない
が、思ったものだ。授業は——正直
にいうと、面白くもおかしくもな
かった。たしか週に一回、ジュール・
ベルン (Jule Verne 1928—1905)
の「八十日間世界一周」(Le Tour
du Monde en Quatre Vingt
Jours 1873) の物語りを、先生がテ
キストを手にしながら、英語できか
せてくださって、われわれがそれを
聞いて、すぐに自分の英語で再生す
る、といったものであった。佐藤信
雄氏もいっておられるとおり、いつ
も黒っぽい地味な服装で、にこりと
もしない授業。いつのまにか一年が
すぎたらしい。敬虔なイギリス婦人
で、日曜日は「聖なる、主の日」、
たのしみなどの日ではないと仰った
——もっとも当時の小樽に、外国婦
人のための楽しみなどなかった。他

の外人家族とのつきあひもなかった
らしい。

ある日曜日、先生のいかれる聖公
会——水天宮の登り口、左側にあっ
た——に、われわれ悪童が行って、
礼拝のはじまるのを待つまに、ゆか
に足踏みならして "Onward Chri-
stian Soldiers marching to the
front" などと、声はりあげて歌っ
ているところへ、先生が来られて、
讃美歌はマーチではありまさんと、
たしなめられた。イギリスの The
Established Church が日本では聖
公会とは、その頃英語の時間に教っ
ておぼえても、イギリス家庭の、男
女を問わずイギリス人の、自律的ス
トイックな生活や、物の考え方な
どまだ知らなかったのである。「緑
丘五十年史」教官の部によると、先
生は、大正七年五月から、大正十年
三月、筆者らの卒業まで在任され
たことになっているが、そして佐藤信
雄氏らが教ったのであるから、われ
われも、もっと接触した筈だが、二
年生、三年生のときには、ほとんど
接触がない。なんとか方法論とか、
なんとかの本質とかに、うきみや
つした軽佻な学生生活の態度のいた
すところ、このイギリス婦人らしい
先生にすまないことをしたと思う。
先生は、その後七年制武蔵高等学
校——当時、日本のイートン、ラグ
ビー校に在任されたときが、後年
筆者、東京外語に奉職中、この学校
の近くに住み、同校の諸教授にも交
わりをえて、とくにながく同校に在
職されたイギリス人、ジョージ・ケ
ー先生には、外国でも、日本で
も知遇をえていたが、ついバグレイ

先生のことを、何うおりがなく今日
にいたった。いま、この稿をかき
あたり、武蔵高校の名簿をみると、
大正十二年四月就任、昭和五年三月
解任とある。同校の生き字引、八代
教務主任に何うと、その後も日本に
再来したり、帰国したり、終戦後も
来日されたらしいが、自分は事務担
当ゆえよく知らない、との仰せ。い
ずれ長老・名誉教授横井徳治先生か
畏友荒巻教授にでも伺って補いた
い。

永すぎた外国生活

序次で申し訳ないが、このバグレイ
先生と同じ大正七年五月十八日に
緑丘英語教官に就任し、大正九年六
月教授に就任、大正十二年、大阪外
国語学校英語教授に転出された大平
頼母先生のことを付け加えたい。先
生は、昭和四十二年七月十五日亡
くなられ、その記事が、葬儀に参列し
てくださった、墓目英三氏の筆で、
「緑丘」56号ののっているが先生も
篤学、英語に堪能な先生であった。
日本語より英語の方がうまく、教室
で Edmund Burke (一七二九—九
七、英国の政治家・雄弁家・作家)
の "The French Revolution" を講読
で教ったが、先生の日本語が判らな
くて困った——という、英語がよく
判ったというのではさらさらな
い。なにしろ The Hero and Hero
Worship (英雄崇拜論) とならび
無類の、格調高い英文だったから。
この先生、たしか、東北帝国大学農
学部(札幌、のちの北大)を出られ
米国のコーネルか、ジョンズ・ホプ
キンスの大学で遺伝学を専攻、Ph.
D.の学位をとって帰られたばかり、

「緑丘」の申込みは厄介でしょうが振込用紙を
お使い下さっていますすぐお振込下さい。

大正九年十一月第八回外国劇大会、土
・日曜日の両夜にわたって(はじめての
試み、図書館において開かる。この年、
また、はじめての試みとして、男性・コ
ーラス二曲が歌れた。指導は村瀬女教授
夫人千代子先生(東京音楽学校卒業) J

・A・デーゲン先生(スイス人、ドイツ
語教官)、曲は、ドボルザックのトロ
メライと、その他。「歌う人なき小樽
」の悲しみをふきとばして、満堂の喝采
をえた。

母校農学部講師をされたり、札幌
中学に教えたりしておられたが、天
下の名伯楽渡辺龍聖先生のおめがね
に叶って、緑丘へ就任された。しか
し、その modestな人柄と、あまり
にも深い学識を、正しくアプレシエ
ートしえない悪童どもに、愛想をつ
かしてか、大正十二年に新設大阪外
語の英語教授に転出して、英語と商
品学を担当された。

停年退官後数年まで、近畿大学に
教授をしておられた。緑丘関係の会
合には、とくに進んでは、出られな
かったが、緑丘への関心は深いもの
があったらしい。筆者も佐藤信雄氏
同様、またバグレイ先生同様、この
先生にも、中学と緑丘とで教えを受
け、しかも学恩に酬いどころか、
音信不通であったのに、さる昭和三
十年、日本貿易学会の会員として、
台湾・香港の工業化の調査・視察に
月余おもむいて、帰国後、大阪で、
報告会があったおり、高血圧で不自
由な脚で、布施市のお住居から大阪
市内の会場まで来てくださって、拙
い報告「香港的社会的の成立——工業
化を中心として」を、きいてくださ
ったのは、ありがたい。その翌々年
筆者らのクラス、卒業四十五年の集
りを、比叡山延暦寺および洛北の某
所に催したとき、お招きしたが、病
軀であるからと、おいで頂けなかつ
た、その後長逝。

大戦の末期、先生が上京されたた
き、新宿で、その頃もう珍らしい天
ぶらをご馳走して頂いたことがある
が、沖繩への航海で戦死なすった男
のお子さんのことを、いくどか嘆い
ておられた。ひっそりと淋しいご生

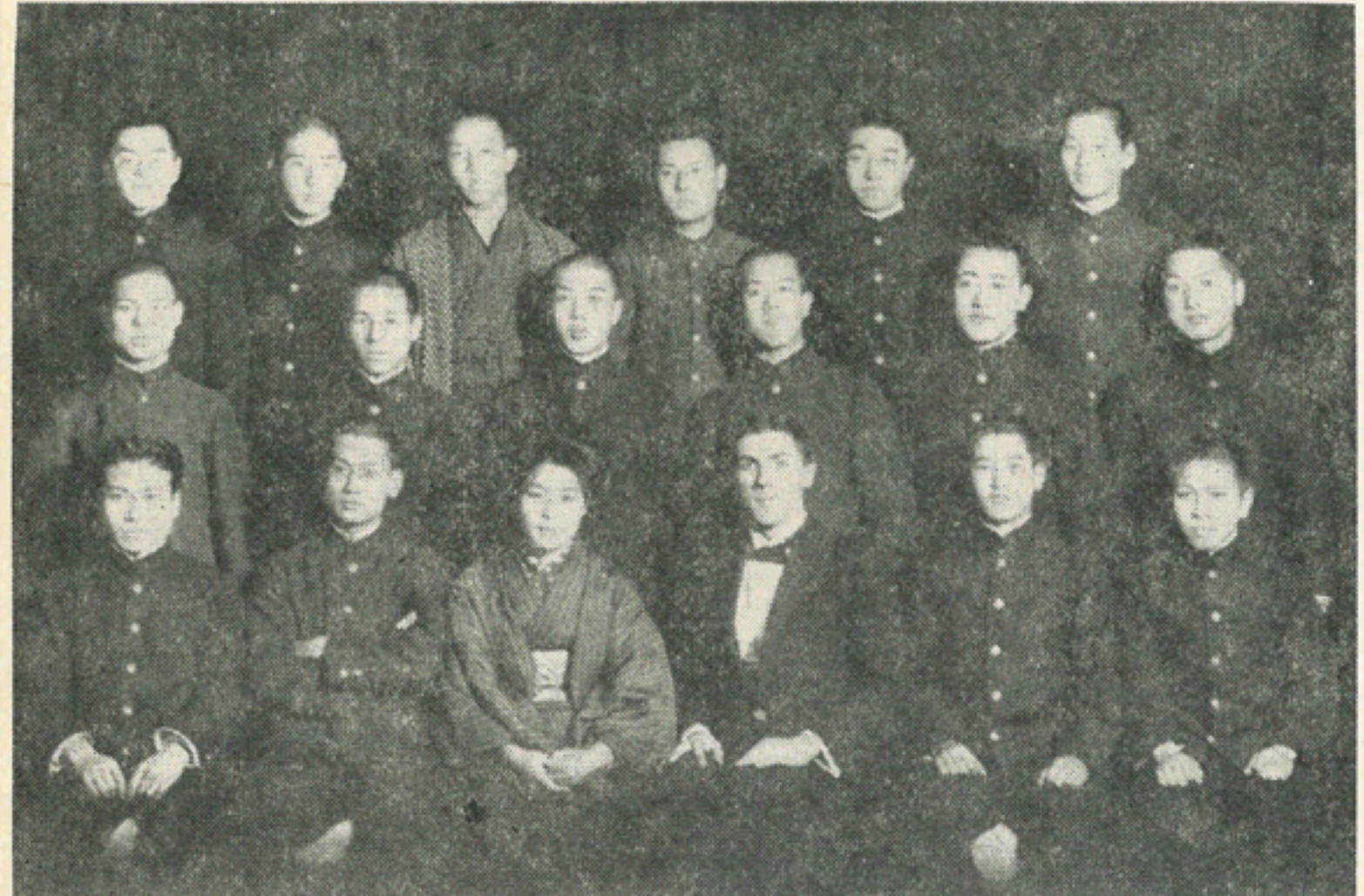
涯であつたらう。先生があまりにも
日本人ばなれした英語の達人であつ
たゆえに、また、この先生のことを
緑丘人の語ること、あまりに少ない
ゆえに、この「緑丘の外人講師伝」
にいて、伝える非礼を、先生、読
者諸賢よ、お許しあれ。それほど先
生は、日本人ばなれしておられた。

N・H・ネフスキー先生

この頃の緑丘には、外国語として
ロシア語、中華民国語(当時は支那
語)、ドイツ語があったが、前者に
は、外人の先生はおられなかった。
しかし、ロシア語には、ベテラン、
田中乙先生がおられ、大正八年歿せ
られると前後して、碩学、卓抜な言
語学者、民俗学者N・H・ネフスキ
ー先生が着任された。この先生につ
いては、緑丘前号に詳しい。外国語
部幹事として、一度四寮裏の官舎へ
伺った時、着物の着流しで、でて来
られた先生におどろき、その流暢な
日本語に、二度おどろいた。後年中
山太郎氏の日本民俗史で、先生のこ
とを知って、三日おどろいたことを
書くにとどめる。

J・A・デーゲン先生

ドイツ語は、ピカさんこと、木村
善太郎先生(東大の銀時計)先生が
文部省督学官に転出後は、スピノ
ザ、エチカの訳者小尾範治先生、そ
して大正九年九月、J・A・デーゲ



- (上段)
 - 玉井 武 (小樽商大教授)
 - 藤女子大
 - 鷹野 正 (俳人・ホトトギス社主)
 - 高浜年尾 (俳人・ホトトギス社主)
 - 大竹正雄 (北海製糖・計理士)
 - 故原 憲一
 - 杉浦助治 (横浜正金銀行・七)
 - (中段)
 - 安田吉助 (安田産業社長)
 - 安田産業社
 - 梶川亨司 (岐阜大学教授)
 - 西村久蔵 (ノッポロ・社長)
 - 織田淑夫 (三菱重工副社長)
 - 遠山 清 (朝鮮郵船常務・亡)
 - 村瀬千代子夫人
 - デーゲン先生
 - (下段)
 - キリスト村々
 - 長・サツポロ
 - 立者
 - 奥村金治
 - 鹿又羊五 (阪急電鉄・琉安協会)
 - 岩瀬豊次 (日本銀行・平和相互銀行)
 - 松本光治 (鉄道省権太)
 - 豊原管理局長
 - (亡)
- 注・この写真、同人のうち、岡藤彦彦はこの時病中

現代病に挑戦する——

日本新薬

脳卒中・心臓病など 今日豊かな暮らしをおびやかす現代病に挑戦
製造薬品の95%を医師専用薬として提供し
みなさまの健康づくりに貢献しています

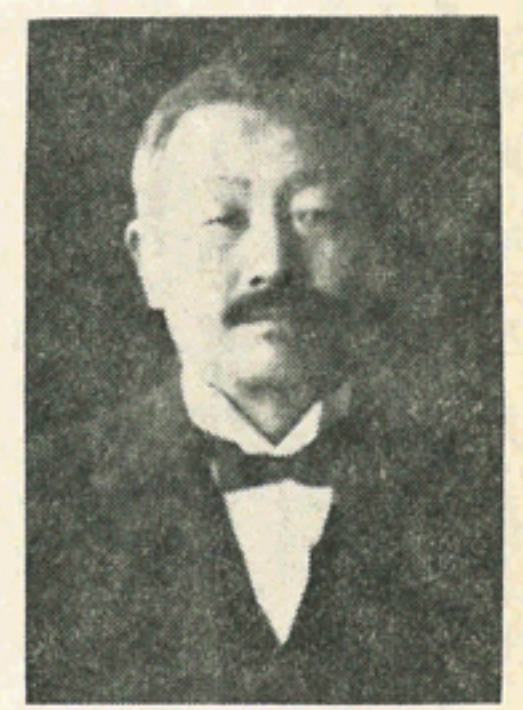
NI-43

日本新薬株式会社 本社/京都市南区西大路八条
取締役社長 森下 弘(大正14年卒)
「成人病の薬」贈呈 郵送料25円切手封入の上(弘)様まで

ン先生が備外国人教師として来任となる。この先生のことには後述する。

関恩福先生

筆者らが在学の大正七年——十年に中国の大人がおられた。関恩福先生。大正二年講師、大正四年いったん解職。大正六年九月講師として再任。大正十一年七月、大阪外国語学校に転出された。お話ししたこともないから、よく知らないが、多分、北京官話。福々しい赤ら顔に、寛大なタークワーツ(大袴文服)をゆつたり着こなして、悠々寛々と校内を歩



生活に写した。(以上列名以外の諸先輩、諸級友を、大人にあらずというのではない。この頃の緑丘生活、およそ若人を大人に仕立てる風があった、そのうち、とくに大人のなかの大人と、少年筆者の眼に映じた芳名を上記する。大方の諸先輩、諸君子、諒とせられんことを)。

特権としての外人教師

筆者が、緑丘在学三ヶ年に、教えを受けた外国人の先生がたは、以上のとおり。あとは、昭和二年四月、筆者が、思いもかけず緑丘の教師陣に名をつらねてからの、同僚——というもおこがましいが、とにかく名簿上はそうなる——の末にあった時代の、とつ国の先生がたのことに

も正当に評価されなかった申し訳なき、学校当局の、そのための配慮、親心の苦勞を、子供たるわれらは知らなすぎたこと、そして、むやみやたらに逃亡脱走しがちであったこと——しかし、これが重要であるのだ——かくもエスケープしながら、しかも緑丘人は、外国語では天下に鳴らした、いや天下が認めてくれたということである。筆者はいつか、M先生にちなむ一文に「エスケープや代返しながらも、各位の(緑丘人の)英語は、すくなくも他の大学・高専の水準よりは、はるかにお上手となつた筈」(マッキンノン先生招待録金募集文の一節)と書き、また先生あての一文に「おかげで、緑丘人は、博犬、国際的な気宇で、やっています」とも書いた。しかし、ま

よびでできる——といったことを計算して、渡辺校長は怖しいから、敬遠して、教務部長かなにかに訴えて、大いに叱られ、首を開かれた後年のマネジャー、経営者たちもいたらしい。

あとになつて、筆者も、東京外語の英米学科におり、大学になつてからは、外人教師の招聘に、議にあずかつて判ったことだが、この外人教師の給与は、大体が、学校自体の日本人教授陣の給与とは、別枠であるらしい。外人を減らしたからとて、それだけ日本人が均霑するとはかぎらない。つまり、外人の多いだけ、校長の手腕のあるところ、その学校の株である。

讀者諸賢は、これまでの列伝でもまた今後の列伝でも、外人の先生がたのタイトルに、備外国人教師とか、講師とか、嘱託とか、あるのに気がつかれたであろう。備外国人教師というのは、文部省との契約による外国人教師の意味で、これは身分も教授なみ、俸給も、日本人教官と同等か、それこそ校長の腕で、学校の格と、それこそ校長の腕で、文部省から、とつてくる。戦後、各大学とも、この枠がなくて、語学教育に本當に困つた。契約の当事者の一方は、備う学校の校長、学長であるが契約のなかには、担当時間の極大数とか、住居とか、往復の旅費とか、何年サービスしたら何カ月月の休暇とか、その時の帰国の旅費とか、こまかな契約がある。

これに対して、講師・嘱託の方は学校かぎりの取り極めで、現在なら

大学の教授会の議を経て、学長が文部省に申請して承認をえる。昔なら緑丘でいえば、多分、名伯楽の校長が、外国語主任や教務課長の諸教授と相談して、教官会の議をへて、本省に申請、承認をえたものであろう。その費用は、おそらく、校費一般のなかの、教官俸給からでたのであろうから、その意味では、日本人教官のシエアは減るとはいえるが、だからといって、これら外人を減らしたからとて、年限や履歴にかかわらず、日本人教官がむやみに増給となる訳もなく、図書費に廻せる訳でもない。そのうえ、外人の先生がたを招くとすれば、多くの場合、その分だけ、本省から余計予算をとつてから、または実績をつくつてから、予算をとるのであろうから、結局、外人の先生は、おればおるだけ、その学校の株はあがる。利用者——といつてはすまないが——教わる者は、ありがたしい。

この理を知らず、せめよつた学生のため彼れ、渡辺校長に一喝されたとしても当然、「吾が輩の、手腕が判らんか?」といったところであつたであらう。

さるにても、明治四十三年、校長一、教授二、助教授二、書記二、をもちて出立した緑丘学園が、創立八年目の大正七年七月に、すでに教授十七人、助教授九人のほかに、かくも多くの外人教師をもつていたことは、まことに、驚異というべきであつた。そして、これを十分に活用した学生が、全学園でわずか五〇〇人であつたといふことは。

大学に申請して承認をえる。昔なら緑丘でいえば、多分、名伯楽の校長が、外国語主任や教務課長の諸教授と相談して、教官会の議をへて、本省に申請、承認をえたものであろう。その費用は、おそらく、校費一般のなかの、教官俸給からでたのであろうから、その意味では、日本人教官のシエアは減るとはいえるが、だからといって、これら外人を減らしたからとて、年限や履歴にかかわらず、日本人教官がむやみに増給となる訳もなく、図書費に廻せる訳でもない。そのうえ、外人の先生がたを招くとすれば、多くの場合、その分だけ、本省から余計予算をとつてから、または実績をつくつてから、予算をとるのであろうから、結局、外人の先生は、おればおるだけ、その学校の株はあがる。利用者——といつてはすまないが——教わる者は、ありがたしい。

△附、年譜によると、大正十年までの在任外人教師に

- F・W・ステッドマン (明治四十四年五月非常勤講師、大正元年十月解任)
H・W・テラー (大正二年四月非常勤講師、大正五年九月解任)
H・W・ウイルコム (大正三年二月備外国人教師、大正六年三月解任)
H・M・ケニヨン (大正六年四月教師として着任、同年八月解職)
などの諸先生があるが、筆者は知らない。どうも人事のことにとくとく、興味関心もない筆者は、これらの先生方について、中村和之雄先生にも、苦米地英俊先生にも、訊ねたことがない。おしいことをした。(つづく)

外人講師特集はⅢ号を終えⅣ号に続きます。次号をもつて外人講師特集を一応終らせていただきます。(編集部)

ニコライ・A・ネフスキーの生涯(蓋目英三記)は紙面の都合上次号に掲載いたします。

トモクの段ボール 東洋木材企業 取締役社長 手取貞夫 東京本社 工場 営業所 東京都千代田区丸の内二の十八(内外ビル五階) 電話(212)6811 手稲工場・綱島紙器工場・大阪紙器工場・小牧紙器工場・新潟紙器工場・山形紙器工場 小樽・釧路・函館・仙台・静岡

耐火煉瓦・不定型耐火物・クレー(製紙用) 各種工業窯炉の設計施工 OYT 大阪窯業耐火煉瓦株式会社 専務取締役 松村義公(大正15年) 本社 大阪市北区梅ヶ枝町164(宇治電ビル) 電話(364)352440 東京支社 東京都千代田区大手町2の8(日本ビル) 電話(270)896140 九州出張所 北九州市八幡区山王町1丁目 電話八幡(67)3070 工場 岡山県 日生工場・三石工場・吉永工場・岡山クレー工場

(注)

Arlington. 米国, Virginia州にある Arlington National Cemetery (アーリントン戦歿兵士の墓地)。 Cemetery. 墓地, とくに寺院に附属しない墓地のこと。(寺院についた墓地は, Churchyard)。埋葬地 共同墓地。これに対して, grave-墓は, なきながらを埋める墓穴または, 棺を埋めて, その上に高くつんだ土堆。

Pilgrimage. 霊地もうでにでる。

the Unknowns. the Unknown Soldiers の略, 無名戦士, もと第一次世界大戦に戦死した多くの兵士たちをさす。英国では the Unknown Warriors といい, London市内, Westminster Abbey にある。大戦中, ある人たちは, 英・米では, 無名戦士。わが国では, 一兵卒にいたるまでその名を誌るして……なぞといったが, 英・米だって, みなその名は録して, 手厚くまつり, 訪れる人も多い, 一将功ならず, しかも万骨枯るのおもむきある国は, そもいずこそ。

grave yard. graveyard とひと綴りにするのが, 普通であるが, ここでは, grave yard と, 両方に強勢をおくため, 分けた。

tomb. 発音は, [tu:m]. grave に同じ。

John F. Kennedy. 説明するまでもない。

with a heartfelt throb. 心のおく底から, throb は, 心臓の鼓動, ときめき。

on his burial place. その墓所 (はかどころ) に, burialの発音は, [berɪəl]

conflicting regimes. 相争う (政治) 体制, regime は, [reʒi:m] と, あとの方にのぼす。

so ideal and so ardent. 理想主義に熱くもえたその心。

keeping vigilance. 警羅して。

the Memorial. 記念碑。

coach-man. 御者, 自動車の運転手を, 詩語で, こういった。

When we assumed the soldier we did not lay aside the citizen. = When we took the position of the soldier, we did not put away the responsibility of the citizen. ということ。戦の場にあっても, つね平常の市民たるをすてない, 忘れない, 市民としてのつとめをほっておかない, の意。

These dead shall not die in vain. これらの死はむなしからず。

ex-serviceman. 戦地の経験ある退役軍人。

評 釈

At Arlington cemetery と, まず, 主題を, 明らかにして I came here to Arlington cemetery, far from over the ocean と, ゆっくりうたいおこして, to make pil gri mage to the unknowns in the grave yard と同じ調子で, つづける。歩みもゆるやかに, 広い墓地の入口に, 近よる気持ち。とりわけ, J. R. Kennedy の墓へと——急にリズムがはやくなる, 戦場にたおれた勇士にもまごうこのひと, わが心の底から熱愛するこの人——grave yard, in a battle field, over the world と, 尾韻を同じくして, 以下, 流れるような, 脚音 (rime) リズムは, よむものに, 心よい同感をよびおこす。so ideal and ardent, も [ə:] [ə:]と頭韻 (alliteration) が, おもしろい。本来なら ardent のかわりに eager というところ。

第二節 I stood and Watched と力づよい言葉ではじめて, 読む者の心をひきしめる, Their vigil is constant, night and day と脚韻し, a coach-man …… , standing nearby とおさめる。

見あげる記念碑の碑文, 建国の父ジョージ・ワシントンと, この国の分裂を防いだリンカーンの句は, 戦場の人は, また良き市民, よき市民こそよき戦士とうたい, また死も空しからず, Dead shall not in vain と 言いうる人の平生を説く。そして, この, かつては相戦える国の戦士の墓の前に立って, 思いは, 遠く去って きた祖国日本の靖国のやしるに祀らる同胞のうえに, はしらざるをえない, その生れた国をもっとも愛するこ の人こそ, もっとも強く, 世界はひとつと念う人であった。

作者は, 一日本人として, 世界連邦の実現に, 熱情をかたむける人である。

(昭和43年5月5日, 苦米地先生三周忌の夜, 改稿)

《吉岡義二氏, 大正8年卒, 元第一信託銀行専務取締役, 現朝日ビル管理KK取締役社長, 世界平和協会常任 理事, 緑丘会理事, 緑丘東京十日会監事》

吉岡義二 氏の作品 英詩一篇 (注・評釈 学習院大学・大谷敏治氏)

朝日新聞(東京)二月二十五日の「声」欄のトップに「神社でない招魂社」という寄書があった。署名は「吉岡義二」東京・会社役員とある。おやと思った方もあったろうが、地下の苦米地英俊先生は、さぞ、ほほえまれたことであろう。—— というのは、もう、三年の昔、緑丘同窓、大正九年卒の同氏が、外遊から帰られた時、次のような英詩一篇を、筆者にみせられた。ながく英語教師のはしくれにおつて、毎日、英語を、聴き、語り、読み、書きしては、おもしろいもの、そして、言葉のもつとも美しいものは、詩の世界にこそと、知りながら、おのが才のそこまでは、いたらぬを、もどかしく思う筆者は、ある日、この一篇を、当時在世の苦米地先生に、披露したことがある。意図したところは、「名は高等商業学校でも、学ぶところは、ソロバン、帳面付けばかりではありませんが、学問の世界とおして、人間形成へ、詩や歌の世界へも参入する、外国語のできる、識見ある、広い国際人こそ、緑丘人の本領、これが創立以来の建学の精神、ね、先生、いまもそうでしょ、そのひとつの作品、吉岡さんが、こんなものを創られました」というにあった。その時の莞爾して微笑された先生の顔が、いまも目に浮ぶ。そこで、先生のお心を忖度して、注をつけて、作品を紹介する。それにしても、母校、緑丘の学びの庭に、戦歿同窓の碑の建つとき、誰が、その霊を讃える言葉を綴られるであろうか。

At Arlington Cemetery
I came here to Arlington Cemetery, far from over the ocean
To make pilgrimage to the Unknowns in the grave yard,
Especially to kneel before the tomb of John F. Kennedy,
Whom I love and admire with a heartfelt throb,
For his soul shines even now over the world
To bring eternal peace on the earth
Like the eternal flame on his burial place;
There were no conflicting regimes, East or West,
In his soul, so ideal and ardent!
I stood and watched the guards keeping
vigilance before the Memorial,
"Their vigil is constant, night and day,
In storm and summer heat, all the year round",
A coach-man whispered to my daughter, standing nearby.
I looked up at the words carved in the dome of the Memorial,
WHEN WE ASSUMED THE SOLDIER WE DID NOT LAY ASIDE
THE CITIZEN - GEORGE WASHINGTON
--- THESE DEAD SHALL NOT DIE IN VAIN - ABRAHAM LINCOLN
These words of the founders live in the nation,
vividly at this place!
I came to this country, as an ex-serviceman in the Pacific War,
to honour the Unknowns,
But leaving, I can't help but love America,
at Arlington Cemetery!
(Alas! Remembering the Unknowns in "Yasukuni-Shrine")
Yoshiji Yoshioka July 6, 1965
Yoshiji Yoshioka
- a Federalist of Japan -

SはQに優先する

わが社は「最善の奉仕」をモットーにSRQ方式による営業の推進をはかっております

S=SERVICE(奉仕)
R=RESULT(貢献)
Q=QUOTA(割当)

第1……お取引先に奉仕(SERVICE)する

第2……その奉仕がお取引先の業績・成果

(RESULT)に貢献する。

第3……それにより初めてわれわれの割当

(QUOTA)が達成される。

わが社の使命はお取引先の技術革新・生産性向上・合理化に貢献することであり、SERVICEを第一義とし、SはQに優先するを合言葉といたしております。

丸嘉機械株式会社

大阪市東区豊後町41 <(941)-0271>

専務取締役 若山 永太郎 (S-13)

常務取締役 高野 憲一郎 (S-13)

「海軍主計大尉小泉信吉」とを比べて考えて見ました。等しく父君がその亡息を追慕して発行された著書であり、一人は戦後の学徒であり会社人となって間もなく電源開発の

△工事完成の約八年前の出来事で、電源開発の犠牲者として尊い先達となられたのであります。輪僅に二十五年、思いおこすも痛惜に堪えません。父君杉山昌作氏は本書発行にあたり序に代えて「辱知諸氏へとして「長男正見が亡くなって、はやくも一年の月日が過ぎ去ろうとしています。たった二十五年という短い生涯が如何にしても不慮でならず、せめて一人でも多くの方々に一日でも長く生前のすがたを彷彿していただきたい、そのよすがにもと考えてこの書を拝呈申し上げる次第であります。固より読むに値する書ではありませんが、故人の墓標に對うの思召を以って一瞥を賜りますならばこの上もない俤に存じます」と頗る謙虚な筆に托しておられます。

故杉山正見年譜

昭和五年 香川県坂出に生まる
昭和十二年 藤沢第一小学校に入學
昭和二十二年 中学四年課程を終え

犠牲となり天竜川畔にて不慮の死を遂げられた人、一人は戦時中、学徒動員に召され邦家のため南太平洋上に散華した人、共に俊秀の愛児を亡くした父の著書としてこよなく尊いものであります。またそれぞれの終えんの地より相起してその遺稿は一つは天竜川の清流を偲ばせ一つは世に喧伝せられた桜花の風情を思わせませぬ。何れにしましても共に春秋に富みながら世を去った方々であり惜しみても余りあることです。今更らに遺稿集を手にして哀悼の誠を捧げましょう。(非売品)

松井要吉

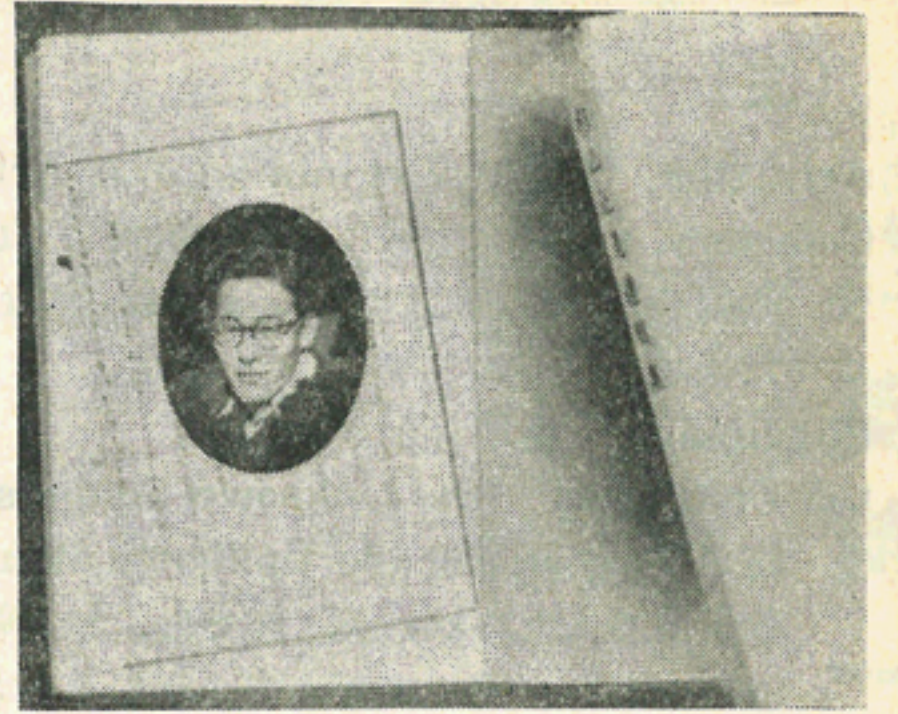
松井要吉氏は昭和八年緑丘人として地獄坂をのぼり二年間三箇教授の指導でドイツ語を学び、三年目には大阪外語のドイツ語科に転じた。「ドイツ戦時価格政策論」は表題

W・マインポルト博士著(翻訳)

静岡高等学校文科甲に入學
昭和二十五年 東北大学文学部社会学科に入學
昭和二十八年 同大学卒業、電源開発株式会社に入社
昭和三十年十一月二十七日 秋葉ダム工事現場出張中不慮の死

―本質と目的―

この著は著者のいうように原文の内容が示す時代的必要価値の稀薄性は自覚しているが、訳者として当然果すべき完訳とさらに進めてある著名経済学者の伝記と若干の著作(仮題)を併発すべく菱工務店(兵庫県西宮市)に勤務の傍ら寸暇を惜んで勉学中である。



◇◇旧刊紹介◇◇

杉山正見遺稿集
に就いて

宮地 邦介

本書は昭和三十一年十一月父君昌作氏により非売品として発行され関係知友の人々に読まれたことと思いますが、今日に至るも何人からも緑丘誌上に読後感らしい寄稿も見当らず、かねがね申訳けないことと考えていましたところ、先頃木本正次著「黒部の太陽」を読んで正見君のことが追憶され遅まきながら緑丘人の諸君に本書を思い出して貰うことに致しました。

正見君は昭和三十年十二月二十七日午前三時頃、秋葉ダム工事現場の天竜川畔の崖上にある寮舎にて不慮の死を遂げられました。即ち黒四ダ

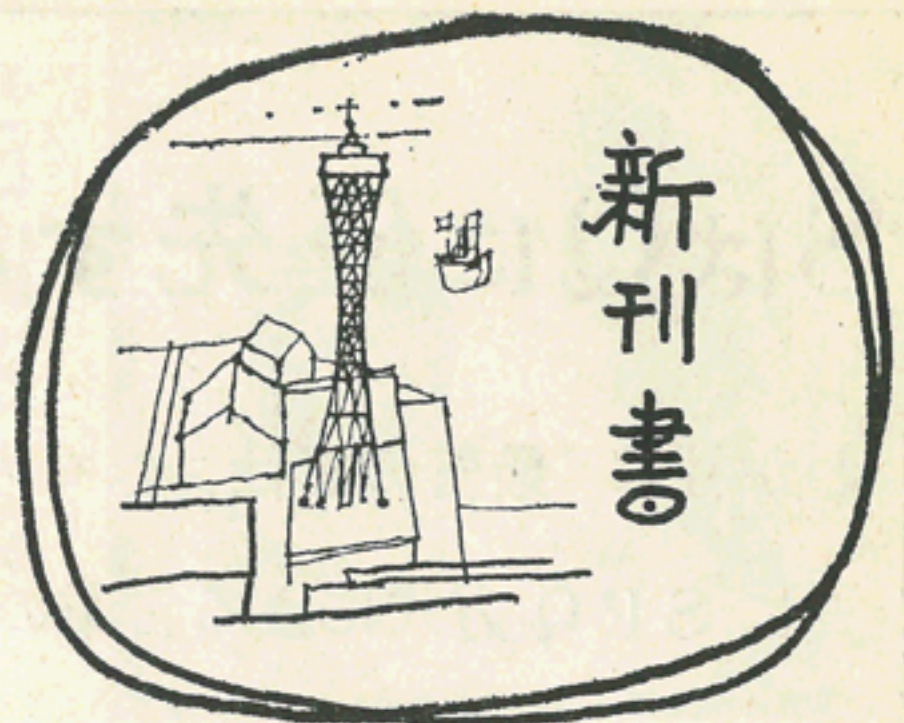
父子に通う愛情がにじみ出ていて思わず胸に熱きものを覚えます。説苑は静岡高等学校と東北大学時代の研究レポートや単位論文の中から撰ばれたものでありまして「軍備なき国の進路」を始め何れも堂々たる一家言をなし、真執な学徒としての道を活歩せられた姿が偲ばれます。また小説「武蔵野夫人」についての文芸評論に見るも鋭い批判力と情操の豊かさがうかがえまして、父君昌作氏も述べられている通り御本人は小さい頃から本が好きで、むさぼるように本買いに熱中され、読書に耽ることが何より楽しみだったそうです。書翰は友人の方々が保存されていたものを数十通も集められてありますが、友情の限りなき喜びと、御本人の人の柄がよく汲みとれます。

積水化学工業(株) 旭化成工業(株) 特約代理店 プラスチックの総合商社

田中弥商事株式会社

取締役社長 田中 弥三郎 (大12)

(本社) 大阪市東区北浜2丁目74番地 TEL 0655640~9
(東京出張所) 東京都千代田区神田淡路町2丁目19番地 TEL 032271・5259
(九州出張所) 福岡市奈良屋町2番19号 TEL 093391・6022



Realien

— I の序論的 Essay —

西川正己著

(大15)

五〇年の手習いだよといつてアメリカの経営学に關する原書を中心に大学院に通つて討論會に参加している一商社マンがおる。或る時「やっぱりアメリカの開拓史から勉強しなければならなくなつた」と洩らした。やがて新旧約聖書を読む必要にせまられたといつて来るのはなからうか。事を深めて行くならばやはりその根源にまで遡らねばならぬものであろう。

英文学には Realien の教授が必要

であるこの小論文は説いているが高商時代意識してこんな教育をしてもらつた記憶がない。しいていへば浜林生之助教授の「英文学巡礼」にその片鱗を見せられたような気がしないでもない。

この小論文は皇学館大学紀要(第六輯)に掲載されたものを一冊のパンフレットとして配布されたものであり、大学英語教育の観点から見て Realien (ドイツ語で語義は故実の實、故事の事の意)に重点を置く英語教育が考慮されるべきであらうといふ。そして Realien の教授は欧米日常生活の瑣事から文学・哲学・歴史・地理・民族学に括がる極めて中広い背景を語ることであつたと。

井上紫電著 (元母校教授)

優生保護法改正をめぐる問題と意見

「人工妊娠中絶によって労働力は不足しだし、風紀は頹廢し、次代を荷負う少年の非行は激増し、人口構成は急速に老齡化ははじめ、人口の純再生産率はここ十年來一を大きく割って、人口は潜在的には急速に減り出している。事態が改まらなければ日本民族の滅亡は必定であり、このような事態を招いた優生保護法の廢棄もしくは改正は憂うべき現状打開の努力の第一歩である」と叫び、この本は「優生保護法改廃期成同盟」からの委嘱を受けて急遽執筆したものであるといふが、井上紫電先生はここ数年この問題と取り組み昨年雑誌「自由」一〇月号に「大量中絶は医師の仕事か」一優生保護法は随胎天国ニッポンを生んだ。これは日本民族の消長にかかわる問題」といふ論文も発表されたことは御承知の通りである。

山本安次郎著 (昭二)

経営学の基礎理論を求めて

「資本論」から「経営論」へ

山本安次郎氏は三十七年(一九六二)から京都大学経済学部教授として勤務され、既報(六〇号)の通り四十二年停年退官、現在名古屋市立大学経済学部教授である。

この書では去る一月二十九日停年記念講演での原稿に多少加筆したもので経営学的考え方を説き、何故このように考えざるを得なかつたかを述べたと附記されているが、同教授は経営学の基礎理論を求めて歩いた三十九年のキャリアの持主。山本教授の講演は京都大学最後を飾るにふさわしいものであつたことは想像に難くない。以下京都大学経済学会

・経済論叢(第一〇一巻一三三) 抜刷から目次のみを紹介する。

I 序論

① 経営学者の弁明—基礎理論の一般的必要

② 経営構造の発展と経営研究の展開

③ 問題の提起と限定(経営学は経営学以外ではあり得ないと説く)

II 経営の経済理論と管理理論—テーゼ

一、経営学の二つの源流—ドイツとアメリカ

① ドイツ経営経済学—経営の客体的研究

② アメリカ経営管理論—経営の主体的研究

二、わが国の経営学の生成

① わが国の経営学の起源

② わが国経営学の三つの流れ

三、「資本論」から「経営論」へ

① 個別資本論の衝撃

② 否定説の根拠とその批判

③ 「資本論」から「経営論」へ

III 経営の組織理論—アンティ・テーゼ

一、経営と組織—経営の主体的構造契機

二、新しい組織理論の意義

① 組織理論の発展の概観

② 伝統的組織理論の特色

③ 伝統的組織理論の批判

IV 経営の経営理論—ジンテーゼ

一、経営の経営理論の必然性

二、経営の主体的構造

三、経営の経営学的把握

V 結言

頭脳の中」と、今一つ、テンニースやシュンペーターやオッペンハイマーやアルフレッド・アモンなどの外国の一流の学者と交わされた数え切れぬほどの手紙を取めた「五つの小箱の中」にこそあつた。

昭和四十年の五月のある日、北白川にお住いの小林象三先生をお訪ねした。今もなお英語学の御勉強に、恰かも「永遠の青年」のように打ち込んでおいでな先生の書齋には、数え切れぬほどの外国の書物が収められており、その蔭に先生のお机があり、そしてその入口近くにお訪ねした私たちの席がしつらえられていた。高田先生と小林先生とは御専門が違ふ。だから小林先生の書齋の大半が「書庫」である風景を私は当然のことと思つた。書物の数の多い、少ない、ということよりも、高田先生と同じように小林先生の書齋を學者らしい好ましい書齋と私が感じ入つたのは、先生の机が「蔭に埋れてあり」来訪者の席が「その一隅に設けられてある」点にこそあつた。

「僕の書齋について書こうとしてとりあげた私のペンは、私の尊敬するお二人の先生の「書齋」を拙い表現で書くことから始まつた。蓋目編輯子から何度か督促を受けて漸くペンをとりあげたものの、正直にいつて私の場合の「僕の書齋」については書きつづけるほどのものがない。養目兄がこの「緑丘」をどんなに苦勞して発行し続けていることか、それを僅かなりとも知っている積りの私だが「僕の書齋」だけは書きたくなかつた。

この三月、ある新聞に駄文を寄せた私はその本屋に「広島や長崎の犠牲者によって、そのほかの日本人のすべては現在のこの生命をあつたから救いだされたのである。それを思うときいままなお学問の道を行く私にいいようのない焦りがおそいかかってくる。それと同時に学問のありかたについての私なりの反省が強まってくる。学問の精密さと人間とともにある次元に直結できる精密さでなければならぬと私は考えつづけている」と書いた。

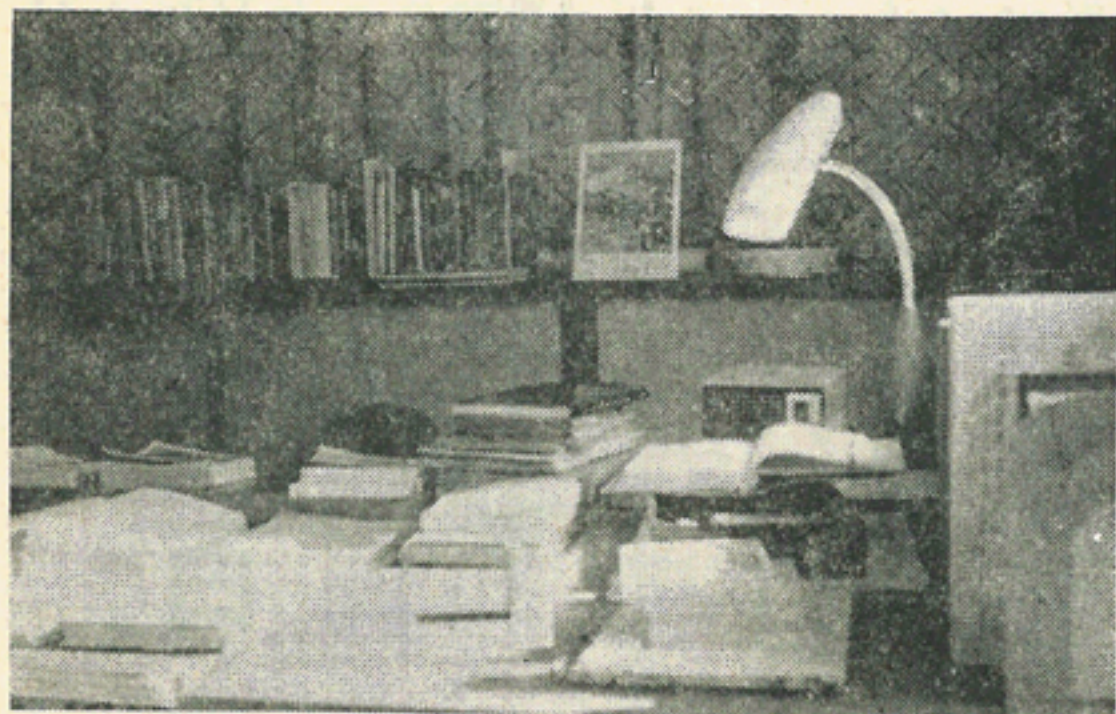
かような私にとって「僕の書齋」は有るといへば有り、無いといへば無い。養目兄がわざわざ撮ってくれたスナップに写っている本や資料は日本・西ドイツ・東ドイツの青年・少年労働者たちの「労働の移動と定着」に関するものが半ば以上を占めている。このテーマの吸収が終つたら、この写真が示す現状は別のテーマの故に変貌して終う。学生や広島からくる青年たちがこの本や資料を持ち去る場合もあるだろう。「僕の書齋」自体が「激しい移動と非定着」風景を見せていると苦笑する。

この家の今一つの一隅に、今一つのやはり流動性の高い書齋がある。京都の、大文字山をすぐ目の前に見ることのできる大学の個室には「民族」や「民俗」の資料若干がある。広島島の六人の青年たちのそれぞれの小さな家の片隅には今も若干つづの本や雑誌が置かれてあるだろう。何のことはない、私の場合「僕の書齋」は、空間的にも、そしてまた時間的にも「分散」、いや正確にいへば「分裂」しているのである。

僕の書齋

中野清一 (大正15年) 立命館大学教授

京都・塔ノ段に住つておられる高田保馬先生の書齋を始めて見せて頂



いたのは、昭和五年の早春だった。先生ご自身が公刊された百冊近い書物の他には、二十冊前後の内外の本が机の周囲に散らばつていた。「先生の持つておられる本はどこに収めておられるのですか」と尋ねた私の愚ろかな問いに、先生は柔和な微笑を浮べつつ、「大学の図書館が私の書庫ですよ」と答えられた。この答えは、先生の所蔵本が大学の図書館に委託保存されているとか、寄贈されてそこにあるとか、そういう意味でいわれたのではない。先生ほど、驚くべきほど早く本を読み、その大半を逸早く且つ正確に記憶に刻まれ幾分かはメモにとられる、というタイプの学者は他にはない。高田先生の「僕の書齋」は、先生御自身の「

税金百話 (二)



北條恒一
(昭一五 税政評論家)

ガサ入れの前夜

一昨年、某月刊誌(発行部数三〇万部)に依頼されて、東京国税局の査察部幹部六名を招いた座談会の司会をやった。この記事の全部が雑誌に掲載されるわけにはまいらなかつたが大変な苦勞をしてはいる事実を知ることができた。大衆雑誌に税務職員がとけ込んでくるようなことは、いままで全くなかつたことであるが私はあらゆる機会をとらえて、田中彰治事件について税務当局の怠慢を指摘し、租税負担公平の原則に顧みず、許し難いことだと、あちこちの報道機関で大同小異をうならせたりもして来た。泉国税庁長官を初めとし、当局は前から調査をやっていたと弁明これとめていたので、それじゃどのようなことをやっていたのか、ひとつ国民の前に明らかにしたらどうだと、私が企画をして実現したのである。

この秋、中国五県をしゃべり歩き、某日朝東京着、その日に二時間ちよつとの座談会をしたのである。私はいい勉強をさせてもらった。査察というとすぐ「ガサ入れ」といつて、強制調査を連想されるであろうが、何万件とある材料のうち、これは何と思うものを「内偵」に着手するのである。なぜかという、ひとつひとつの脱税の事実について、数字的にも確実な立証をし、裁判になつても、崩されないだけのものにしてゆかなければならぬのである。刑事事件であれば具体的な被害者がいるからすぐに告発して起訴などもできるが、脱税の事件では「どこの誰兵衛を殺しました。」

なんていう具体的な被害者はない。不当な手段によつて税を脱れていたものがいることによつて、負担の公平という点から考えると、善良な国民全体が被害者なのである。だからはっきりと数字的な証明をしなければならぬことになる。

この内偵の間は、特定の事件に取組んでいる何人かのグループ以外は同じ査察官の間でも隣はなにをする人ぞといった調子で、なにをやっているのかわからない。また、関係のある税務署にいつて申告書等を調べるときでも、上級の幹部にだけは申告書を見せてもらいにきたことを話すが、どこの誰、どこのなんという会社を調べにきたか絶対わからないようにし、味方である同じ税務職員の間もくまらせて調べるのである。このときは査察官としてつらい思いだと話していた。私が倉庫のなかで特定の申告書綴をひっぱり出して調べれば、埃がうすくなつたりして、どこをやっているかわからないかときいたところ、何冊かまとめてひっぱり出したところ、絶対わからぬように苦心することであつた。

史上最高の森脇脱税事件、そしてこれまた次の年におこつた田中事件ともに、こういう内偵をやっている段階であつたことは確実らしい。こういう目にはみえない苦勞を積み重ねて、確証がそろえば、いよいよガサ入れとなるのであるが、遺憾ながら紙数なし。

何年で退職なの」ときかれてまいつたよ。」

とある同窓生がいつていた。彼は某大会社の課長かなんかやつていて、五十いくつかでこの会社は停年なのだそうである。子供はまだ小さい、というのは戦争にひっぱられてたおかげで結婚がおそかつたわけである。結婚がおそければ当然子供は小さい。ようやく大学にゆく頃には停年が目の前に来ていてということになる。

別にこうしたことからもでもないが、最近文部省が大蔵省に対して、「教育費控除」を新設してほしいと申し入れた。大蔵省はあまりいい顔をしていない。高校や大学にいつていての子供があるときは、所得金額から所得控除の一種として教育費控除をする制度をつくつてくれという趣旨である。これをやってくれたら私は大蔵大臣に拍手をおくりたい。国立の大学へ入れば、それほど経費もかからないが、私立の大学へ入つたりますと大変なものである。教育費を国の費用でめんどうみてくれというのではなく、いくらか税金をやすくしてというのであるから話をきいてくてもよいじゃないか。

所得金額から税金を計算する前に所得控除をして税率を掛ける対象となる金額を算出する。その控除額が多ければ、税率を掛ける対象となる金額が少くなる。現在、雑損控除、医療費控除、社会保険料控除、生命保険料控除、損害保険料控除、特別障害者控除、障害者控除、配偶者控除、扶養控除および基礎控除といった所得控除があるが、そのなかに教

育費控除をちよこんといれてもらえはよいのである。

これらの控除がきめられるのにはいろいろ歴史的また政策的な過程がある。もっとも新しいのは特別障害者控除である。年十万円しか控除しなくてもええないが、それでもいくらか税金はやすくなつてはいる。税法が複雑になるおそれがあるが、税金をやすくしてもらつたためには多少我慢しよう。ぼいんと、教育費控除年十万円位やつてもらえないだろうか。国家百年の大計は教育の振興にある。

「競馬の大穴の税金はかかるか」という質問である。

もちろん税金はかかる。サラリーマンが、給料のほかに五万円以上の所得があれば、確定申告をしなければならぬのだから、大穴でもうけた人は、それを申告する義務があるわけだ。所得税申告書の八一時所得の項目にも、ちゃんと「賞金、懸賞当選金、競馬・競輪の払戻金、生命保険金などの所得……」と明記されている。しかし、正直に申告する人が、はたしているだろうか?

「実際の問題として現在の税務署の人手や予算等の関係から、どこの何某がどこの競馬場でいくらかもうけたということを把(は)握できないようです。これを把握したとしても、馬券などをいくら買ったかわかるようにしなないと紛争の種になりますし、なかなかむずかしい問題です」

(収入金額×1/2) - 所得として課税される金額

この式のうち、特別控除額が最高三〇万円だから、三〇万円までのものうけなら、税金はかからない計算になる。ここで必要経費というのは、

「家や新築するのに、父から五百万ほど資金を借りようと思ひますが、税金の関係はどうでしょうか。」という問に答えて

「ふつう、親子・夫婦間の貸借は、贈与とみなされ、贈与税を払うことになる。五百万円の贈与があつたとなれば、贈与税は百六十五万五千円になる。民法上の貸借については、親子間だろが、夫婦間だろが、問題がないが、常識的には通常あり得ないこととして、税務上は認めないことが原則になつてはいる。とくに親子が同居しているようなときは、家族間の現金の動きが、立証しにくいので、貸借関係は完全に認められないだろう。

貸借成立をさせるとすれば、親子別居で他人同士の通常の貸借と同じような条件がとつていなければ

「サラリーマンの給与所得控除の最高が二万円であり、しかもサラリーマンの給与所得は、ほとんどもれなく税務署がキャッチできるのに、競馬などの常連さんのもうけはそうはいきません。……こういうところにはいまの税法に考えてもらわなければならぬ点があります」と北條氏は指摘している。

先日の大穴でもうけた人も、来年の申告期までには「必要経費」がかさんで、身動きがとれなくなつてい

家の新築に父から五〇〇万円を借る場合は

「競馬の大穴の税金はかかるか」という質問である。

もちろん税金はかかる。サラリーマンが、給料のほかに五万円以上の所得があれば、確定申告をしなければならぬのだから、大穴でもうけた人は、それを申告する義務があるわけだ。所得税申告書の八一時所得の項目にも、ちゃんと「賞金、懸賞当選金、競馬・競輪の払戻金、生命保険金などの所得……」と明記されている。しかし、正直に申告する人が、はたしているだろうか?

「実際の問題として現在の税務署の人手や予算等の関係から、どこの何某がどこの競馬場でいくらかもうけたということを把(は)握できないようです。これを把握したとしても、馬券などをいくら買ったかわかるようにしなないと紛争の種になりますし、なかなかむずかしい問題です」

(収入金額×1/2) - 所得として課税される金額

この式のうち、特別控除額が最高三〇万円だから、三〇万円までのものうけなら、税金はかからない計算になる。ここで必要経費というのは、

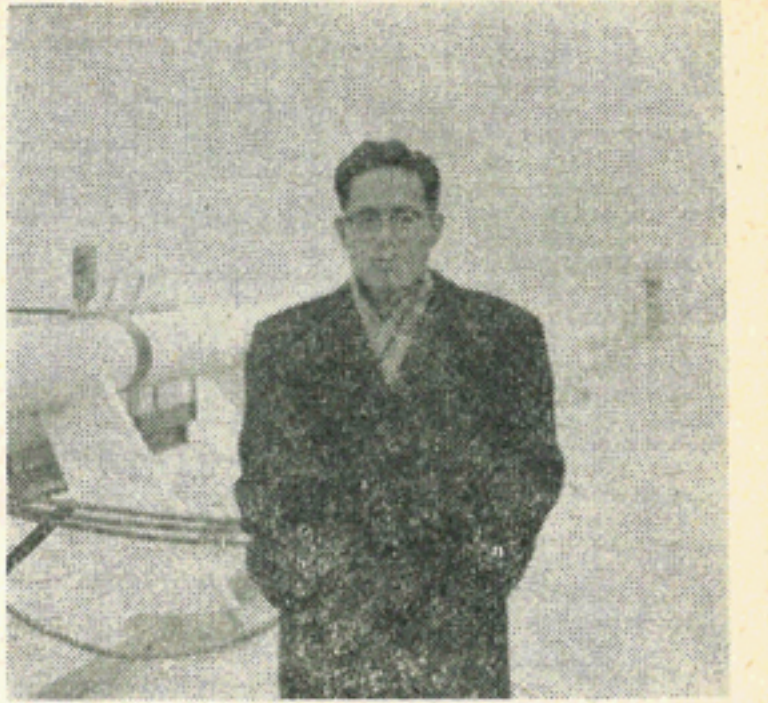
「家や新築するのに、父から五百万ほど資金を借りようと思ひますが、税金の関係はどうでしょうか。」という問に答えて

「ふつう、親子・夫婦間の貸借は、贈与とみなされ、贈与税を払うことになる。五百万円の贈与があつたとなれば、贈与税は百六十五万五千円になる。民法上の貸借については、親子間だろが、夫婦間だろが、問題がないが、常識的には通常あり得ないこととして、税務上は認めないことが原則になつてはいる。とくに親子が同居しているようなときは、家族間の現金の動きが、立証しにくいので、貸借関係は完全に認められないだろう。

貸借成立をさせるとすれば、親子別居で他人同士の通常の貸借と同じような条件がとつていなければ

「サラリーマンの給与所得控除の最高が二万円であり、しかもサラリーマンの給与所得は、ほとんどもれなく税務署がキャッチできるのに、競馬などの常連さんのもうけはそうはいきません。……こういうところにはいまの税法に考えてもらわなければならぬ点があります」と北條氏は指摘している。

先日の大穴でもうけた人も、来年の申告期までには「必要経費」がかさんで、身動きがとれなくなつてい



セ・シ・ボン・アイカイ

◇フランスに根をおろす俳句◇

—日本経済新聞 4月18日朝刊所載—

鎌倉啓三

(昭一五)

季語よみこむ本格派

わが国の俳誌で最も古い歴史を誇る「ホトトギス」の本年二月号にスリスに住むコントラッド・メイリスンという人の次の句が載っている。

秋晴れや金を帯びたる山の色
五・七・五の定型を守り、季語を詠みこんだ本格的な写生の句というべきであろう。メイリスンは、戦中、戦後のある時期幾年か鎌倉に住んでいたフランス人の画家で、高浜虚子先生のことを借りれば、「数年間日本の家屋に住み、日本人の生活をし、日本の花鳥風月に接し、日本の国語で、十七文字を並べ、俳句の大体の規則を了解し、俳句の大体の修辭を会得した」人なのである。フランス人でありながら、われわれと同様の感覚で同じような手法で、こうした句を日本語で詠んで、「ホトトギス」に投稿しているのである。彼の夫人は、日本人のキク・ヤマダさんで、つとにパリにおいて日本文化の紹介につとめている女流作家である。

さて俳句はご承知のように、日本人にとって最も身近な十七文字の、「季節」をよみこんだ短詩型の文学であり、すでに五百年以上の歴史をもつが、海外に俳句が根をおろしていることを知る人は意外に少ない。まして「アイカイ (HAIKAI)」と称する短詩の作者グループがフランスにあることなどはほとんど知られていない。

私がこの「アイカイ」作者グループに興味をもつようになったのは戦後まもないころのことである。その学であり、しよせんは外国人には通じないのではないか。しかし、もし最も理解しやすい外国人があるとしたら、それはおそらくフランス人であろうといわれた。

能を理解し、浮世絵を愛するといわれるフランス人が季節を通じて俳句のもつ象徴性や極端な省略の中に盛られる「余韻」ないしは「余白」のエスプリに最も共感を覚えてくれるかもしれない。四季の変化の最も顕著な日本においてさえ、最近はその季節感が次第に失われつつある。

われわれの周囲を見わたしても、小鳥の囀りや樹々の緑がその姿を消し、たべ物にしても一年中何でも食べられるかわりに鮮烈な季節の喜びを味わう楽しみが薄れていくのを嘆ぜざるを得ない。しかし、われわれがよし「都会のさばく」の中にその命をすりへらしつつあっても、ふと日常のひととき、スモッグのきれまの空の青さや街路樹の芽吹きに驚きの目を見はると、われわれのいのちの中に俳諧の根は絶えていないと思ふ。

メイリスンとは相へだつこと幾千里、まだ見ぬ同門の先輩ではあるが俳諧を通じて燃やし合う意欲と共感がこの距離を埋めつくしてくれている。(山下新日本汽船保険課長) 追記—この拙文を日経に出す様に勧めて下さったのは中野清一先生であり、この文章の基になった仏蘭西語のアイカイの熱中していた頃の私を御指導下さったのは松尾正路先生であった。又今ホトトギス誌を主宰しているのは高浜年尾先輩である。緑丘につながる縁といったものを私は深く感ぜずには居られない。

頃、俳句の実作を始めた私が「ホトトギス」を毎月読んでいたうちに前記のコントラッド・メイリスンの句が載っているのを知ったが、その後彼は「日本に残す言葉」を「ホトトギス」に発表して日本を去り、パリからの投句を続けた。私は虚子先生に住所を教えてもらい、たよりを交換し出した。一方フランスの「アイカイ」についていろいろ調べてみた。

パリの空の下で句会

また高浜虚子の「渡仏日記」(昭和十一年二月十六日より同年六月十五日にわたるヨーロッパ旅行の紀行日記で昭和十一年刊)によると、一九〇〇年ごろP・L・クレーシュというフランス人の医者が日本に来て、「俳諧」という詩のあることを知り、それをフランスの詩壇に伝えたい。この話を聞いて「アイカイ」という三行詩を作り始める人々が出て一時は好奇心で、ずいぶん仲間が出来たというアルベル・ボンサン氏のことばが記されている。当時のロマンチック時代の冗長性を打破して新時代の要求にこたえるのに俳諧の集中性をもってきたことは時代の要求

にマッチしたものであったらしい。しかし五・七・五のシラブルを採用してはいるものの、「季節」の問題にはふれなかったのである。「季節」が日本の風土と日本人の特性とから生まれたエッセンスであることからはすれば、けだし無理からぬことであつたらうと思ふ。

ローマ字で十七文字

「アイカイ」はこうしてフランスの一部でうけ入れられるようになったが、このなかから一歩進んでアイカイそのものに打ちこむ人も出てきた。冒頭にのべたメイリスンがそうである。彼は他のフランス人と違って日本語(ローマ字)で十七文字を並べ、そして季節をよみこんだ本格的な、われわれの俳句を作るようになった。夫人が日本人であったという強味があつたといふものの、日本語でなければ季節をよみこむ「アイカイ」は作れないと考へ

たのであらう。メイリスンの作品のごく一部を紹介しよう。

飛魚のはねたるのちの海静か
吾が友の出船待ちつゝ春寒し
山の雲のすそ明るみ昇る月
草の径ゆけばなつかし螢かな
彼は彼の周囲のグループの「アイカイ」を私に知らせてくれたが、思ひ出すままにその一、二を紹介しよう。

葉の筋に何よみとらんプラタナス

Que n'ai-je appris à lire
Dans les lignes de la main

Belle feuille de platane
Dominique Combette

春のバラ散りゆくときの吾がいのち
ジャリユ・バシヨファン

Que devient ma vie,
Si au printemps du jardin
Se defont les roses!
Chalut Bachofen

訳は私の拙訳であるが、この二句は季節をよみこんだ十七シラブルの「アイカイ」である。彼らが現在フランスの詩壇の中でどういう地歩を占め、どういふ作品を発表しているのか残念ながら今の私には詳(つまび)らかではない。かつて私はメイリスンのことや、彼のグループの「アイカイ」のことを故辰野隆先生に申し上げたら大変興味を示されたことを思い出す。

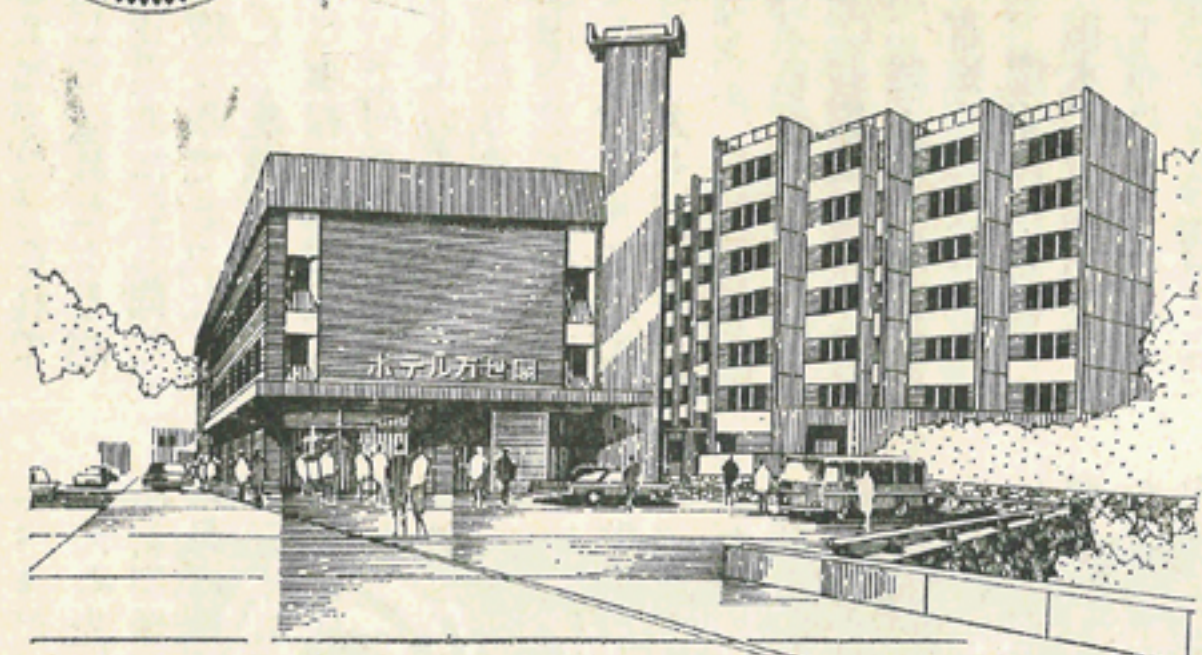
相通じる「余白」の心

先生は俳句は日本の自然風土を母胎として生まれた特異な短詩型の文



登別万世閣 新装オープン

湯の町登別にデラックスホテルが誕生しました。



洞爺万世閣のチェーンホテルが登別温泉に新しく仲間入りします。本館鉄筋4階新館鉄筋7階建。お部屋から望む庭園と溪谷のただずまいは静かな温泉郷の風情があふれることでしょう。

★ギリシャ風大浴場
古代ギリシャ風壁画を使って豪華な古代文化の雰囲気をお楽しみいただけます

★純和風のサービス
お食事はすべてお部屋へお届けし、家庭的なサービスでおくつろぎいただけます
お料理は万世閣自慢のひとつ、季節の味、郷土の味をぜひどうぞ

- 施設
(新館) 鉄筋7階建
(本館) 鉄筋4階建
平面建坪 920㎡
総建坪 4,810㎡
客室 70室(和室68 洋室2)
宴会場 大小3室
収容人員 200名
浴場 大浴場1(ギリシャ風呂)
湯入浴場1 家族風呂8
- その他
売店(土産品など)
喫茶、ダンスホール

ホテル (政府登録予定)

登別 万世閣

電話 登別(01438) 4-2266

●チェーンホテル洞爺湖万世閣・洞爺湖第一ホテル ●札幌案内所(25)8570 TLEX 932-379

戦塵録

(九)

|| 苦米地英俊日記 ||

(小樽高商三代校長)

八月四日

今日盛夏の感じ此の熱さが二週間前に来たらと愚痴めいた感想。食物の故か下痢続き肉体の衰弱目立つ。本土方面の空襲今日は低調、敵、次期作戦の準備期に入ったのかも知れぬ。夜襲かと覚悟して早目に床につく。

八月五日

「北方戦機動く」とある。我々何の資料なく判断はつきかねる。併しさもある可し所か、直観的にはとうから予期して居た。昨夜蚊の為睡眠を妨げられ一時過ぎに及び、今夜はもう来まいと話合間もなく警報月の出に合せた来襲。二機頭上をすぎ一機に一発宛二発の高射砲を聞く。霧の為敵機を見ず。

英外務当局が「ボツダム会談の公報から直ちにソ連が東部の戦いに参戦しまいと論拠することは出来まい」というたげな。それは正にその通り、話題には必ず上ったものと考えられるが公報に出る問題ではない。今朝の広告欄に(いのち) 捧げ運動という大きな広告、大日本必勝不敗連盟というのが出ている。大し

た広告費を出せる運動費を持つてい

るのだから。我々は命を捧げて国を守りについて居るではないか。こうした運動屋や所謂愛国者が国を亡ぼすのだ。近年その実例が余りにも多い。

「逃亡の二等兵死刑」の記事がある。兵が逃亡したのではなく罪人が兵に一時なつただけの事、兵となつたのではない軍服を着た罪人であったのだ。心は兵になつていなかったのだ。軍服の威勢で悪事を簡単にし遂げたのだ。それ程国民は軍服に委縮し言う可き事も言えずに居る今日だ。今日も学校の並樹を惜気もなく無断で軍服が切つて居る。電線を引く邪魔になるからだ、それでは何故学校の諒解のもとに必要程度に切らないのか、手間と労力を惜んで他人の物、実は国家のものを無益にきりとる。これまでにするに何年かかったかと思う。軍服ならば何をしても構わぬ占領地でもあるかの如き振舞、ここは皇土皇国民の住む所だぞ。

八月六日

沖繩水上部隊指揮官伊藤整一中将

内各所に火災発生」とあるが人命の多数失われたことは確実と見てよい。独逸のV一号その他に喝采を送った態度と敵の新兵器に対する態度とこれ程まで変つていたこと矛盾を覚えないのか知らぬ。

敵一機大空高く閃めきぬ

地軸くだけて阿鼻地獄

東京のラジオ放送が聞えない。ソ連宣戦その後の様子が判らない。ソ連の宣戦文を新聞で見ると「今年七月二十六日の三國即ちアメリカ合衆国、イギリス並びに支那の要求は日本の拒否する所となつた。従つて極東戦争に対する協定に関するソヴェト連邦に宛てられた日本政府の提案は一切の基礎を失つた」とあるが此の際何故にその提案を戦民に知らせないのか、

軍部で久しく恐れて居た最惠条件もこれで出揃つた訳。ほんとに「軍統帥部に神謀奇策」があり「敵撃滅の公算」が有りましたのか。どうも茫然自失の態に見受けられますが。釜石再度艦砲射撃せらる。何という事だ。今日も合計少なくとも一、五〇〇機位は来て居るらしい。

ソ連参戦と終日何も言わず、七時のニュースで陸相と情報局長との発言を聞いた。首相、外相、海相等当然発言す可き処、それに何を言わず何か割切れぬ感じ、それに両者の言亦「必勝」に触れず、必勝の信念など始めからつけ焼刃であつたのか。

大本営発表に「我が航空部隊の一部は九日午後宮城東東方海上の敵機動部隊を攻撃し、大型艦一隻の撃破を確認せるほか、相当の戦果を収め

が大將に特進、特攻隊で戦艦、巡洋艦、駆逐艦悉くが往きて還らぬ一戦隊であつたと初めて知つた。これでも沖繩で必勝を期して破れたことが判る。レイテ湾、比島沖海戦も同じく連合艦隊主力の特攻隊であつたとそれで初めて判つた。艦隊のなくなつたことも、こんな事報導班員をして今頃言わしめないで何故もつと早く、又此の機会でもよい大本営が国民に明かにしないのだろうか。

米將の一人が陸海空三軍の最高司令官、設置の説をなす、歐洲に於て効果も挙げたとある、尤もだ。日本でも出来ぬものか。

B29四一五、内二八五、今治、宇部、西宮へ、一三〇群馬県南部へ、前橋を筆頭に館山、銚子にも被害。尚B29三〇羅津、若狭湾に投雷。九州へは戦艦三三〇、関東にはP51一二〇埼玉、群馬、栃木、帝都地方、千葉等へ、かくして戦は日々消耗、戦力は蓄積されつとあると。信じないのが非国民!

八月七日

終日曇り、昨日に続き強風、夕刻快晴。社説「見事に等しい宣伝ビラに惑わされたり神経戦に打負かされるものはない筈である」と、そんなものない。何もこうビクビクしてあれこれ言う事はない。見ないから知らぬが実際は恐るべきものではないか。兎に角「治むべし知らしむ可からず」がついて来ている、何ということだ。

英彦、和夫より葉書、何れも無事学徒義勇隊を明八日に挙行せよと軍からいつて来た。妙な話、学徒隊がそれに移行することになつてい

たり」とある。解説によると九日夜十二時前後金華山東方百数十海里の洋上に空母や是を基幹とする敵を攻撃したのであると。先月以來あの暴状を見て見ぬふりをした来たのは上陸して来た時の備えに小出しをせぬのだと軍部の人々が様々に説明し、誘の手に乗らず「見事に敵所期の目的を失敗に期せしめた」のが今頃何で小出したのだろうか。やっぱり口実で有つたのか。

阿南陸相布告「ソ連遂に我を執りて冠す。名文如何に粉飾すと雖も大東亜を侵略制覇せんとする野望歴然たり。事茲に至る。又何を言わん。断乎神州護持の聖戦を戦い抜かんのみ、假令草を喰み、土を嚙り、野に伏すとも断じて戦うところ死中自ら活あると信ず。是れ即ち七生報國「我一人生きてありせば」こそ捕公救国の精神なり」と共に時宗の「莫煩惱」「奮直進前」以て醜敵を撃滅せる闘魂なり。全軍將兵宜しく一人も余さず捕公精神を具現すべし、而して又時宗の闘魂を再現して驕敵撃滅に奮直進前すべし!

八月十一日
帝國政府は新型爆弾に抗議した。それを見ると一弾克く広島を潰滅し爆風、放射熱で阿鼻叫喚修羅の巷を現出せしめたことが判る。「其の被害の範囲も全的にして且つ甚大なるのみならず、個々の傷害状況のみに見るも未だ見ざる惨虐なもの」であり「従来の如何なる兵器投射物にも比し得ざる無差別性残酷性を有す」とあるから大本営でも面を喰つたのだらう。然るに第一回の発表で「敵はその威力を誇大に宣伝して居るが

るのだ。結成を必要としない。学徒隊長以下の役員はその儘その職につくべきだ。所が軍から戦闘隊にもなしえぬ先に任命があつた。B29広島に新型爆弾投下。

八月八日
三十九回の奉戦日、学徒義勇軍戦闘隊結成式の代りに編成完了式を挙げた。「神機到る」「待望の決戦」「鉄壁の要塞」「敵の補給線」そんな負惜みの言葉は聞いても気が持たない。

閣退治、インフレ防止、大いによい。が出来たのか。閣と言つても構造が複雑。権勢の閣、機構の閣、心の閣、物の閣、ああ考えても論ずるに益なき腹立しき。ボツダム会談が何の為秘密に附せられる必要があつたのか、思摩臆測を逞しくする訳ではないが、それは対日攻勢が重要問題になつて来たからではなからうか。モンクワ電によれば、「会談の内容は単に歐洲に限りならず全世界の問題にふれた」とある。ソ連のそれと合衆国のそれと対比、ソ連の動き大いに注目。

八月九日

六時頃警報、終日連続、軍がむしる神経質に思われた。夕刻子供の間際にソ連対日宣戦を知る。運命の日。八月は危機と数ヶ月前からいうて居た言葉が不幸にも適中。

連日の空襲二千機に及びアノルドは三千四千機に達するも近き将来、それから本格的爆撃だ。総合戦力はかくして消耗される。その速かな進行がソ連をして早目に参戦せしめたものであらう。東京ラジオも入らず、中央での声明対策も知る

こんな謀略にかかつてはならぬ。戦訓に基く軍の指示により毅然として居れ」というている。

緑 丘

に由なしてあるが、御前会議、大本営会議その他で混乱しているのだらう。ソ連も歐洲で相当弱つて居る筈、それに国民もホット一息している所、極東の兵は兎に角、歐洲から繰出しても大した力はない。それと船も不足、上陸作戦などは急に出来まい。併し米がシベリヤの基地を使用となると、これは容易ならぬ事になる。とは言うものの運命は定まりぬと考えればそれ以上の事はない。

新聞、ラジオで発表された以外は言うことはならぬと言論の自由はない。そこに心の闇がこもる。考えてはならぬとはまさかいかえまい。訪問客の一人曰く、「市中では一、二ヶ月中には何とかなるだろうと言う人が多い」と、何とかなる。それは勝ち抜ける意に解して然る可きや。

八月十日

四時四十分警報、一夜寝れずに過しての警報、疲労重なる。現在九時迄の所東北地方で道内には近寄つていない。B29少数機が去る七日新型爆弾を以つて広島を攻撃した由久し振りに大本営の発表があつた。二千機空襲、本土艦砲射撃何れも重大な出来事、それにも拘らず大本営は口を緘して一言も語らなかつた。然るに此の少数機爆撃を発表したのは、余程面を喰つたものと想像したが、八日の新聞を見ると所謂新型爆弾なるものは極めて有力恐る可き新兵器である事が知られる。決してそうは書いてないが「米戦民の惨虐性」「嗜虐的な新兵器」「人類正義の反逆者」など凡ゆる悪罵を与えている点から判断された。「家屋倒壊し又市

内各所に火災発生」とあるが人命の多数失われたことは確実と見てよい。独逸のV一号その他に喝采を送った態度と敵の新兵器に対する態度とこれ程まで変つていたこと矛盾を覚えないのか知らぬ。

敵一機大空高く閃めきぬ

地軸くだけて阿鼻地獄

東京のラジオ放送が聞えない。ソ連宣戦その後の様子が判らない。ソ連の宣戦文を新聞で見ると「今年七月二十六日の三國即ちアメリカ合衆国、イギリス並びに支那の要求は日本の拒否する所となつた。従つて極東戦争に対する協定に関するソヴェト連邦に宛てられた日本政府の提案は一切の基礎を失つた」とあるが此の際何故にその提案を戦民に知らせないのか、

軍部で久しく恐れて居た最惠条件もこれで出揃つた訳。ほんとに「軍統帥部に神謀奇策」があり「敵撃滅の公算」が有りましたのか。どうも茫然自失の態に見受けられますが。釜石再度艦砲射撃せらる。何という事だ。今日も合計少なくとも一、五〇〇機位は来て居るらしい。

ソ連参戦と終日何も言わず、七時のニュースで陸相と情報局長との発言を聞いた。首相、外相、海相等当然発言す可き処、それに何を言わず何か割切れぬ感じ、それに両者の言亦「必勝」に触れず、必勝の信念など始めからつけ焼刃であつたのか。

大本営発表に「我が航空部隊の一部は九日午後宮城東東方海上の敵機動部隊を攻撃し、大型艦一隻の撃破を確認せるほか、相当の戦果を収め



東罐倉庫株式会社

本社 大阪市北区中之島5丁目17番地
大阪支店 電話 大阪 (443) 8731 (代表)
取締役会長 佐藤 栄 治
相談役 堂 城 不 二 人
茨木支店 青森支店 東京 営業所

緑丘

緑丘会理事長佐々木周一氏

日本原子力船開発事業団理事長となる



緑丘会理事長 佐々木周一氏(大)が五月一日付で日本原子力船開発事業団理事長となられた。

力子とは無縁でした」と、あっさりしている。しかし「わたしは船の商売が本職、なんとかして原子力船を採算ベースに乗せたい。イギリスでは二、三十年後でないかと、原子力船は黒字にならないといっているが、陸上の原子力発電所がソロバンにのっているのに、海上の原子力船がいつまでも赤字という道理はない」と、就任の弁はなかなか明快だ。

大阪は南河内、金剛山のふもとで、農家のひとり息子として育った。北海道のおじさんを頼って小樽高商にはいり、大正四年、卒業と同時に三井物産入社。大正九年から昭和五年までシアトルやロンドンに駐在した。手がけた仕事は、船を買ったり雇ったりの海運関係ばかり。昭和十七年、三井船舶株式会社を創設して専務取締役。昭和十九年には三井本社の代表取締役常務理事、翌年五十二歳で三井船舶社長。「出世が早かったのは、ロンドン時代の上役がほとんど出せし、わたしを引上げり上げてくれたから」と、だそうだが酒を飲まないのがたまた一つの欠点といわれるような人柄も手伝わっているのだろう。戦後、公職追放。「勉強する機会に恵まれ」て「海運問題」という本をまとめ、すでに第四集まで出版した。

昭和十八年に夫人をなくしたが、「息子三人、娘三人のことを考える

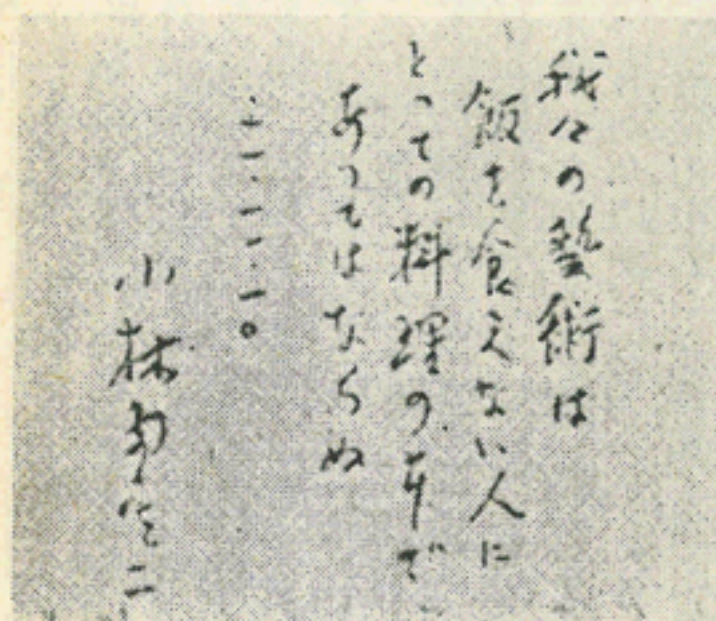
と、プラスとマイナス、相殺すればゼロになる。どうせゼロなら面倒くさいことはせんほうがいい」と、とうとう再婚しなかった。その子どもたちも博士になったり、賢母になったりで、お孫さんもはや十人。

相次いで発見

小林多喜二の遺稿や色紙のほかに短冊も

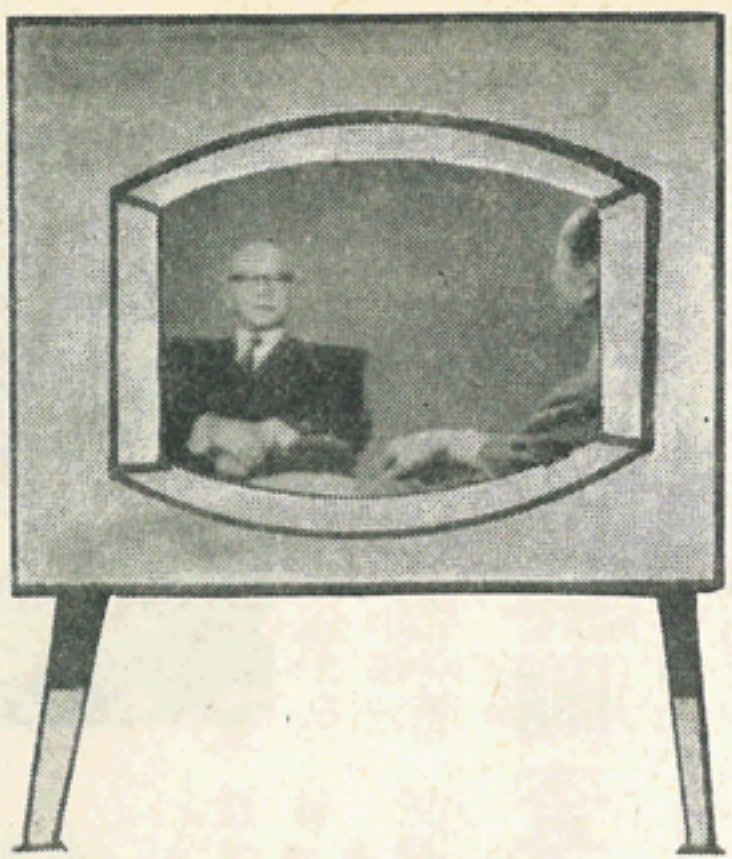
小林多喜二の創作原稿が出て来たことを川並秀雄氏から緑丘編集部へ電話がかかって来たのは、前六〇号の編集途中であった。そして小林多喜二は色紙など書いたことがないという定説をくつがえす新事実も発見されたとのことであった。然しこの発表は一新聞にだけ発表せず各社を呼んで近く一せいに発表する予定であるとも聞いた。

その後大一二菅野祐治氏(福岡)から四月二十五日付の西日本新聞を届けられてその詳細を知ることができた。左の記事は同紙の転載である。



「五月に入ってから再び川並氏から電話がかかり多喜二の短冊も朝日新聞社某氏の努力によりその所有者が判ったとのニュースを伝えられた。警察の拷問で殺されたプロレタリア作家、小林多喜二(一九〇三—三三)の創作原稿や、いままで無いといわれていた色紙が相次いで発見され、多喜二研究の貴重な資料として注目されている。

科学史学会々長加茂儀一先生(前学長) NHK教育テレビで「科学と知性」について語る(対談)



五月一日午後八時から前学長加茂儀一先生NHK教育テレビで東京工大教授川喜多二郎氏と「科学と知性」と題して一時間にわたって対談。「科学を発達せしめるにはどうしたらよいか」との質問に答えて曰く、「一つは国際関係が落付かなければ総合的な考え方はできない。次に文化を認め合うことがなければなら

二日の朝日新聞は同氏にインタビューを求め左記の生いたちを紹介した。年配の卒業生は佐々木さんの人となりをよく承知されているが若い緑丘人には東京支部総会や通常総会の時以外お会いする機会がないばかりでなくお人柄を承知することもないであろう。お読みにならなかつた緑丘人のために敢えてここに転載することにしました。

去る四月だったと思うがある週刊紙のゴルフ欄に同姓同名の佐々木周一さんのゴルフ談が出ていた。或る先輩は「それは佐々木さんですよ」という。来る六月七日通常総会が開催されたが、それに先立って緑丘人のゴルフ大会が催され、佐々木杯の争奪戦が行なわれたとか聞く。「原子力の世界では、あまり聞かれない名だが、ご本人も「これまで原

で探っている。日本人には世界性に通じる要素がありません」と日本民族の長所を褒めたたえていた。

全道大学野球で
小樽商大が初優勝
全日本大学選手権に道代表で出場

第十七回全道大学野球選手権兼全日本大会道予選最終日は五月二十七日午後一時半から札幌・中島球場で決勝戦が行なわれ、樽商大が札幌大の中陣投手を打ち込み七回に大量7点を入れるなど、一方的に勝った。樽商大は初優勝。六月十二日から、東京・神宮球場で開かれる全日本大学選手権に道代表として出場したが東海大に破れた。

杉並区西萩北四の五、会社員、平林浩介氏が亡父の収集品を整理中、偶然見つけた既刊本の伏せ字の部分が確認されたほか、既刊本で雑夫となっているところが、元原稿は「漁夫」と書かれていることなど、新しい事実がわかった。

一方、色紙は愛媛大学教授唐津秀雄氏が医学生当時、左翼運動の資金カンパに応じて買ったもので「我々の芸術は飯を食えない人にとっての料理の本であってはならぬ。三一・一一・一〇」とある。

小林多喜二全集編纂(さん)委員会の手塚英孝氏は「多喜二の作品は、大学ノートに書かれた草稿が残されているが、原稿用紙に写されたものは、ほとんど消滅している」とみられ今後これだけ残って発見されることはあるまい」といっている。(西日本新聞所載)

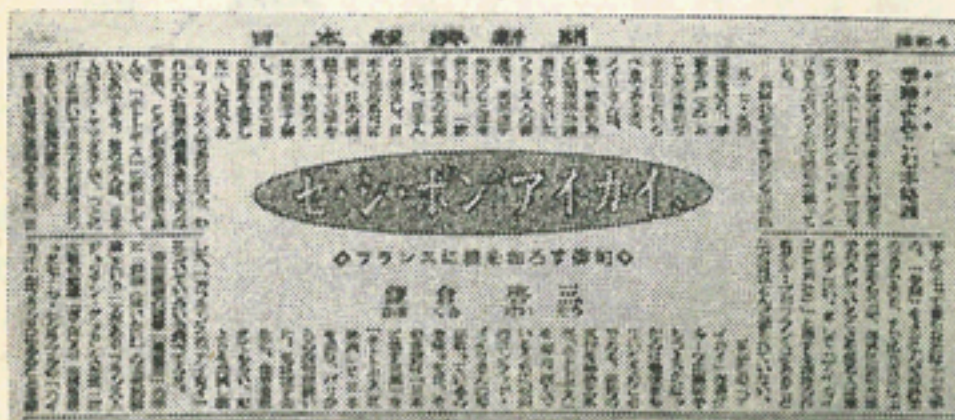
緑丘

春の叙勲

勲四等 瑞宝章
大山不二太郎 70 大正七年
元県会議員

佛天童木工製作所社長

五月一日午後八時から前学長加茂儀一先生NHK教育テレビで東京工大教授川喜多二郎氏と「科学と知性」と題して一時間にわたって対談。「科学を発達せしめるにはどうしたらよいか」との質問に答えて曰く、「一つは国際関係が落付かなければ総合的な考え方はできない。次に文化を認め合うことがなければなら

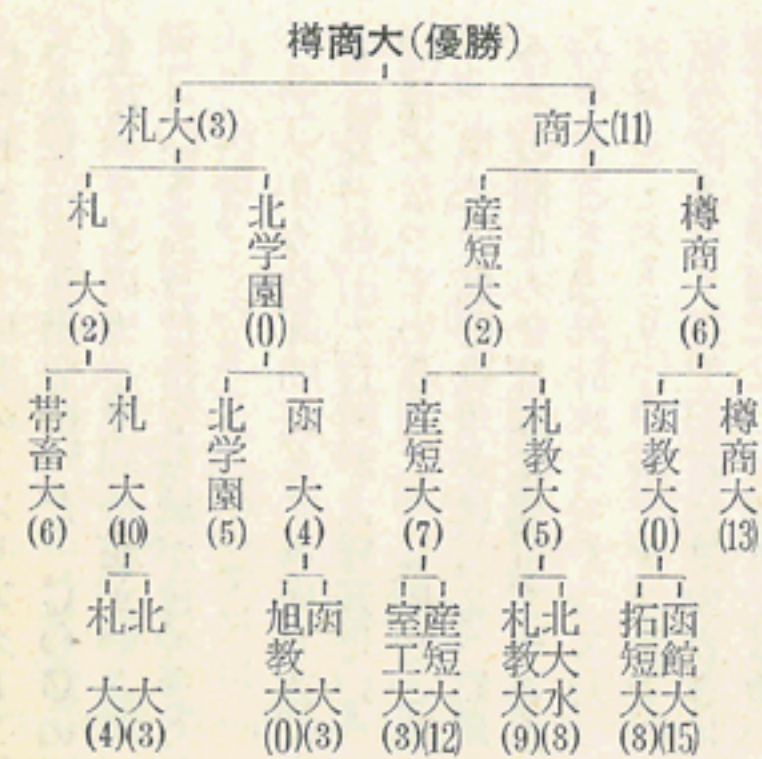


日本経済新聞

セ・シ・ボン アイカイ、執筆者

鎌倉啓三氏(昭15)

四月十八日、日本経済新聞朝刊に「セ・シ・ボン アイカイ」鎌倉啓三氏の一文が掲載された。昭和十五年卒、山下新日本汽船に勤務されているがフランス語は松尾先生に師事、俳歴は昭和二十三年頃から高浜虚子門下に入り句作をはじめたという。高浜年尾氏(大一一三)の主宰する「ホトトギス」や星野立子さんの「玉藻」にも現在尚投句を続けておられるが「いやあ腕前の程はさっぱりですよ」と謙遜して語っていた。



北海道・東北の大地震 (5月16日) で

函館大学校舎(野又貞夫)被害

(学長・大13)被害

得ない。全般を通じ地震の大きさにくらべて東北を除いては被害がそれ

ほど大きくなかったのは不幸中のさ
いらいであった。しかしそれにして
も現実の被害者の不幸に対しては全
く同情にたえない。
緑丘人の被害状況は野又貞夫さん
の他に入って来ない。特に人身事故
については何も聞いていないのは幸
である。

北海道・東北地方に大地震



死者・不明二一人

北海道函館東大震災並み

各地で倒壊津波火災

総理も知らぬ日米秘密協定の危険

“宝石”で語る 岡田春夫氏

岡田春夫代議士(昭一二)は雑誌
“宝石”(五月号)の日本の防衛問
題についての田英夫氏との対談で次
のように語っている。

佐藤内閣の基本線は対米従属、ア
メリカのドルと核に依存する考え方
であり、今やドルの傘も核の傘もす
でに破れてしまっている。その破れ
傘をよって歩いていくのが佐藤内
閣の実態である。前提し、沖繩につ
いて、沖繩はアメリカの極東戦略の
要の役割をしている。日本に在る第

五戦術空軍の管轄地域は韓国、沖繩
を含むことになっており、フィリッ
ピンの第十三戦術管轄下には、フィ
リッピン、台湾、ベトナムが入って
いる。

この第五と第十三の戦術空軍の背
後にあるグアム島の第三戦術空軍の
前進基地が沖繩である。このこと一
つから見ても沖繩が極東戦略の要石
になっていることは明かである。そ
の狙いは中国封じ込め体制である。
ベトナム戦争が終つたら返つて来る
だろうと考えるのは甘い。日米軍事
協定を見ると(一九五九年の協定)
戦略・戦術における指揮権は依然と
してアメリカが握っている。

日本のレーダー・サイトの中で、
指揮権があるADCC(エア・ディ
フェンス・コントロールセンター)
というのは三沢と入間、板付と三ヶ
所であり、それから南朝鮮の鳥山と
沖繩にもADCCがある。これを統



岡田春夫代議士

だけは事前協議するなどということ
は絶対に書いてはならない。だか
ら非常に危険な関係だ。

秘密協定は日本の航空総隊司令官
とアメリカの在日米軍指令官、軍人
同志の協定で国会にもかけられず防
衛庁の内局もあまりくわしく知らな

い中に結ばれていると指摘し、非常
事態が起こったときに日本の防衛庁
長官はアメリカ国防長官の指揮下に
入るなど秘密協定の危険性について
まだまだわれわれの知ることの出来
ない秘密があることを述べていた。

轄しているのが府中のCOC(コン
バット・オペレーションセンター)
つまり「戦斗指令所」だ。COCの
上にハワイの太平洋司令部官がいる。
こういうふうな指令系統がはっきり
している。
アメリカを師団長とすれば日本が
連隊長、韓国・台湾が大隊長という
関係になっているんじゃないかと思
う。第二の朝鮮戦争がはじまった場
合その抑止力を日本に期待すること
ができる。三矢計画をつくって帰っ
たギル・パトリックがワシントンの
海外記者クラブで記者会見のときに
洩らして問題になった。アメリカの
軍事情報が足りなくなってきた。朝
鮮地域だけを日本に分担させるだけ
でなく太平洋も日本の自衛隊にやら
せようという線が具体的に小笠原返
還となつて出てきた。小笠原が日本
の領土となると安保条約でいう極東
の範囲というのは日本ならびにその
周辺ということになるからグアム島
もマリアナ群島も入ることになる。
日本自衛隊の軍事行動地域はぐん
と広がったわけである。

北海道開発調査会

毎日新聞政治部記者 波多野裕造氏を迎えて

四月十日(水)午前八時三〇分
銀座東急ホテル二階会議室

・ケネディとユージン・マッカー
シー)の調整による勝利は望みなき
しも非らず。

ジョンソンはケネディ一家、グル
ープに対する非常な憎しみをもって
いて、ジョンソン大統領の席を他の
誰に譲ってもケネディにゆずりたく
ないと考えているようだ。今度の大
統領不出馬声明にあたっては次期大
統領候補にはハンフリー副大統領を
考えている。しかし、ジョンソンは
「指名」されれば受けるのではない
か、ジョンソンという男はそういう
男だ。一方共和党のほうはニクソン
が最も有力といわれていると語った
後、アメリカの黒人問題について

波多野裕造氏は毎日新聞社元ワシ
ントン、前ニューヨーク特派員で三
年半滞米して一ヶ月前に帰つて来ら
れた記者である。同氏の講演要旨は
和平に追い込まれた米国の裏には
アメリカはこれまで国際収支は赤字
であるが貿易収支は黒字であった。
ところが最近では貿易収支でも赤字
になる始末で、また、ベトナムの計
画書によるとアメリカがあと五十
万、百万の軍隊を投入してもベトコ
ンは勝利するという。△計画書とは
ベトナム人の記者(フランス、カン
ボジャなどの新聞に記事を送ってい
る記者)が昨年チエッコのプラハで
ベトナムの武器買入れに立ち合い、
今年の一月ニューヨークに帰つて来
たとき持ってきた作戦プログラム△
そこでジョンソンとしては和平に踏
み切らざるを得なかった。という。
次いでジョンソン声明と大統領選
挙について語り、民主党(ロバート

一九七五年にはアメリカ十大都市
で白人より黒人の数が多くなり、す
でにワシントンでは黒人の数の方が
多くなっている。黒人が大量に都市
に入ると所得の低い黒人によ
って都市の税収入が減り、いっそう

緑丘通信

その後、質疑応答があつて本日の
会合を終った。
(出席者)
佐々木周一氏、進藤孝二氏、能沢正
義氏、野口正二郎氏、北条恒一氏、
奥沢栄一氏、北村太治郎氏、高橋正
敬氏、石川孝一氏、根田順治氏、桜
庭幸雄氏、岡田春夫氏(順不同)

大都市のスラム化が促進され、都市
機能を死滅化へ導くため、この黒人
問題こそはいまアメリカの大きな悩
みの一つになっている。
最後に日本の対米外交にふれ、日
本は国際政治とか国際条約について
非常に甘い方方で対処していると
思われる。ことに今後の日米関係の
うえでは日本はアメリカによりかか
って甘えている態度は改めなければ
ならない。アメリカ側は日本はアメ
リカに守ってもらっているのに文句
をつける、虫がよすぎると考えてい
る。逆に日本は、安保はアメリカの
ためにもなっているのだから日本の
利益も保障してもらいたいと考えて
いる。これらの日米間の喰い違いは
将来大きな問題になるのではないかと
指摘している警告を引用して日本外
交の甘さを批判した。

四月二十六日国際学生反戦統一行動日としてベトナム戦争反対などを行なわせた学生デモが全道的に行なわれ、小樽ではその日二時半ごろ、稲穂町東六、都通でもみ合った際、学生一名が公務執行妨害現行犯で小樽署に逮捕されたが二十七日には不当逮捕反対、ベトナム反戦などを訴え、三派系(社学同)学生約五十名は小樽市内をデモ行進したがまたも

**大西猪之介先生
特集号原稿募集**

佐々木理事長も「週刊新潮掲示板」で協力を要望。

経済学者大西猪之介に関する写真、書簡等どんな資料でもご所持の方はご提供くだされば幸いです。

私は小樽高商時代三年間、この大西先生から経済学を習いました。若くて元気ハツラツとした授業をされましたが、三十年代という若さで惜しくも亡くなられました。経済学者としては将来を嘱目された偉才で、生前すでに大西全集が編まれ、また、「イタリヤの旅」などでは非常な美文をヒレキしていました。現在、教えを受けた者たちが集まって、先生の追想録を作成する計画を立てています。
(原子力船開発事業団理事長)

四人が逮捕されたという。氏名は明らかになっていない。
☆「アジア開発シンポジウム」が五月二十日から三日間、内外の権威十三人が集まり、東京・大手町の経団連会館で開催された。日本代表としては中山伊知郎一橋名誉教授をはじめ一橋教授板垣与一氏(昭四)など六人であった。

週刊新潮掲示板



大西猪之介先生は明治四十四年七月講師として小樽高商に赴任した。そして大正二年教授となり、六年までヨーロッパ諸国に遊学し、ディーツェル、ジンメル、クロイツェ、パントラオニら諸教授のもとに学び、

緑丘戦歿者慰霊碑 建立募金に

戦後派緑丘人も二十数名の協力

緑丘戦歿者慰霊碑建立募金は四月末で四七二万円と目標まであと二十八万円であるが、三月十五日から見れば僅か十五日間で約九〇万円の増である。
次頁で見る通り昭和十五年、十六年(前後)、十七年、十八年、十九年で三百十五万円と大量成果を挙げているのは見事である。
また昭和二十一年以後の卒業生がこの趣旨に賛同して応募された美わしさはまことに賞讃にあたいする。
大正時代、昭和中期までの卒業生も同期や後輩が護国のため身代りに散華されたことにおもいをいたし、あと二十八万円への目標に協力いただければ幸いです。

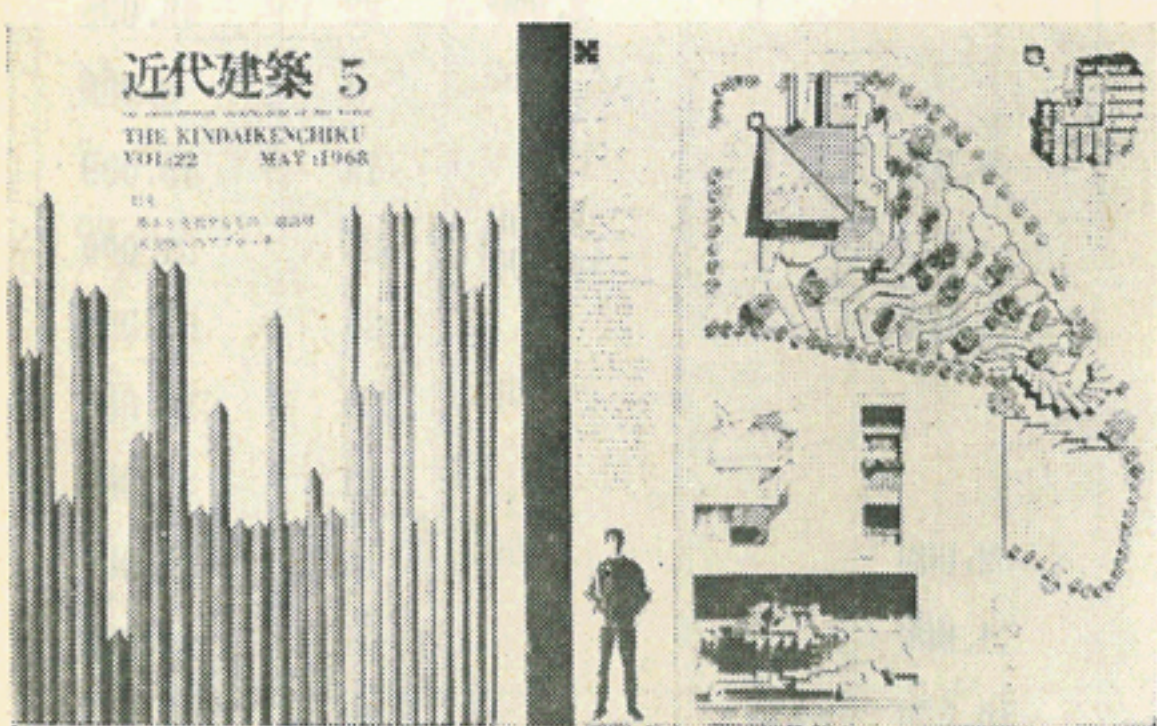
前号この「緑丘」に同封した青色振込用紙をご利用下さい。
大阪支部

緑丘会大阪支部も緑丘戦歿者慰霊碑建立募金の促進に一役かって四月から大阪支部会員に関係資料を送り、募金応募の報告書を受けるとともに、まだ払込未済の会員には直ちに払込みするように働きかけて五月末現在で二〇万二千元に達するといふ効果を挙げた。

近代建築 五月号

緑丘戦歿者慰霊碑デザイナー
竹山実氏を紹介

近代建築五月号は緑丘戦歿者慰霊碑デザイナー竹山実氏の独特の建築デザイン「状況体へのアプローチ」の全貌と彼の経歴を紹介している。有名な作品には国立劇場がある。



帰国後、大正二年不朽の名篇とうたわれた「囚はれた経済学」の続篇「生と学の距離」を執筆し、これを前篇とまとめて公刊し(大正八年)、同時に燃ゆるが如き憧憬をいだいて訪れたイタリアの旅の思い出を流麗の筆に托して「伊太利亜の旅」(大正八年)をあらわした。
高商にあっては経済学、商業学、商業史を担当したがそのするどい観察眼はひろく政治、経済、社会、芸術、文化の全領域におよんでおり、諷刺とユーモアをまじえた巧妙な話術は学生のみでなく一般市民のあいだにも親しまれたという。
惜しくも大正十年末、社会政策学会に出席のため上京した大西教授は旅先に病をえ、帰郷後も高熱をおして登校をつづけていたが翌年一月末腸チフスと診断され、長橋町の伝染病院にうつされた。二月八日、病勢悪化し、家族、同僚に見守られつつ午後十時三〇分、三十四才の若さでついに息をひきとった。
先生が世を去って四十五年を迎えた。「緑丘」は大西猪之介先生の思い出、大西猪之介全集発刊にまつわる憶い出などをひろく緑丘人から原稿を求め、ここに特集号として一巻に纏めて発刊の計画である。皆様の御寄稿をお待ちしています。
【原稿締切】八月十五日
【原稿内容】一行十六字詰で願います。四〇〇字詰市販の原稿用紙は下四字あけてお書き下さい。執筆希望の方はお申込いただけば原稿用紙をお届けします。
【写真】お手持の写真相借したいものです。すぐ複写して責任をもつて返却いたします。



東栄段ボール株式会社

本社・工場 埼玉県越谷市大里688番地
電話越谷(0489)62代表2111番
東京工場 埼玉県草加市弁天町482番地
電話草加(0489)2-3320・3330番

高級金属の立体経営

精鈹◇鉄鋼用酸化物◇工業薬品
フェロ・銅・アルミ系母合金
KSブロンズ



太陽鈹互株式会社

本社 神戸市生田区京町72(クレセントビル)6階
電話 神戸(33)3281~8
大阪支店 大阪市東区北浜3-5(大阪神鋼ビル)9階
電話 大阪(231)7535~7
東京支店 東京都千代田区丸の内3-2(新東京ビル)8階
電話 東京(216)6041(代表)

鋼・鉄の品質向上に!

Mo

高純度硫化モリブデン
酸化モリブデン(ブリケット・クリンカー)
フェロモリブデン
カルシウムモリブデン

V

酸化バナジウム(“サン・バナケット”ほか)
フェロバナジウム

Nb

フェロニオブ

Ti, B, Zr

フェロチタン
フェロチタンボロン
フェロボロン
フェロジルコニウム

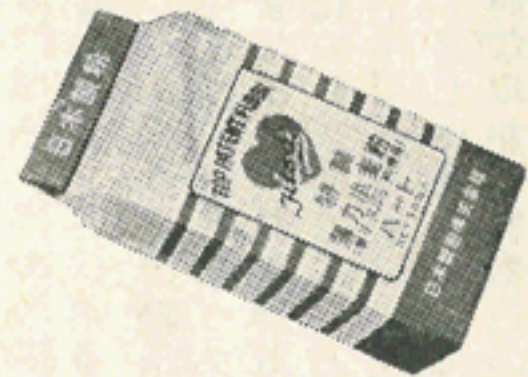
R.E

鉄鋼用希土類添加剤(サン・メルト)
鋳型塗剤(サン・キャスト)

	本 部		東京支部		札幌支部		同期会保管		合 計		
	人	円	人	円	人	円	人	円	人	円	
24	3	9,000							3	9,000	
25	2	4,000							2	4,000	
26	2	4,000							2	4,000	
新1 28	1	1,000							1	1,000	
29	2	4,000	1	1,000	1	2,000			4	7,000	
30	1	2,000			1	2,000			2	4,000	
31	1	2,000							1	2,000	
32	1	2,000							1	2,000	
33	1	2,000							1	2,000	
34	1	2,000							1	2,000	
35	2	4,000							2	4,000	
36							1	2,000	1	2,000	
37							1	2,000	1	2,000	
38	1	2,000							1	2,000	
39											
40	1	5,000							1	5,000	
41)											
42)			2	2,500					2	2,500	
松尾教授		33,460									
苦米地先生御遺族		函館ドック緑丘会		母校仏語2年学生		土橋千代子		雪印緑丘会(27)		23,000	
マッキンノン先生招待委員会		117,000		札幌トヨタ緑丘会ほか7件		10,000		(10,000)		合計 183,400	
総合計		1,693,460		477,500		254,000		2,296,000	1,052		4,720,960

緑丘戦歿者慰霊碑デザイン
 ナー 竹山実氏のうごき
 竹山実氏、急用でデンマークへ出発、デンマークから第二回目の試案(A案B案)のデザインが到着。
 札幌の小委員会にて検討中である。同氏は五月二十四日デンマークから東京へ帰着、直ちに來札の予定。さらに現場を視察の上、委員会で説明応答の結果、東京へデザイン試案を持参する。(五月十八日現在)

ほか代表等11件



東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目27番5号

日本製粉株式会社

副社長 伴 素彦

みんな健康
 粉食で……
 小麦粉なら
 ハートED
 (ビタミン入)

緑丘戦歿者慰霊碑建立募金

昭和43年4月30日現在

	本 部		東京支部		札幌支部		同期会保管		合 計	
	人	円	人	円	人	円	人	円	人	円
大 3	4	19,000							4	19,000
4	4	32,000	2	10,000					6	42,000
5	4	9,000			4	4,000			8	13,000
6	2	4,000	代	10,000					2	14,000
7	6	13,000	2	8,000					8	21,000
8	5	12,000	16	32,000			1	2,000	22	46,000
9	4	8,000							4	8,000
10	8	34,000	1	4,000	1	5,000			10	43,000
11	10	27,000	11	22,000			1	2,000	23	61,000
12	12	42,000	3	8,000	5	18,000	1	10,000	20	68,000
13	8	24,000	1	2,000					9	26,000
14	9	28,000	1	2,000					10	30,000
15	5	10,000	5	13,000	1	2,000			11	25,000
昭 2	9	21,000	4	16,000	3	14,000			16	51,000
3	11	31,000	19	46,000	7	16,000			37	93,000
4	14	49,000	7	16,000	8	50,000			29	115,000
5	9	19,000	代 2	24,000					11	43,000
6	6	30,000	12	21,000					18	51,000
7	15	46,000	代	30,000					15	76,000
8	9	32,000							9	32,000
9	8	29,000					25	53,000	33	82,000
10	8	18,000	26	42,000					34	60,000
11	16	36,500							16	36,500
12	14	42,000	4	8,000					18	50,000
13	36	61,500	2	4,000	14	77,000			52	142,500
14	14	36,000			8	18,000			22	54,000
15	15	33,000					54	369,000	69	402,000
16前	26	156,000			2	26,000	56	366,000	84	548,000
16后	13	38,000					86	434,000	99	472,000
17	100	563,000	1	3,000					101	566,000
18	19	50,000	1	10,000			80	629,000	100	689,000
19	14	38,000			5	20,000	94	413,000	113	471,000
20	4	8,000	1	2,000					5	10,000
22	4	16,000	1	1,000					5	17,000
23	1	2,000					2	4,000	3	6,000

まんびつ五人集

次回

岡野 浜 実 太

田	中	中	方	田
榮	雅	正	省	三
吉	夫	学	雄	(大)
(大)	(昭)	(昭)	(昭)	(二)
(七)	(一)	(一)	(一)	(一)

はまなす

松岡 俊一

(神戸支部)



うかうかしている間に古稀を迎える齡となつて終つた。そろそろ第一線を退くべき時期であろうと考へている。退く時は

深く引退し度いものである。

然しまだ引退後の生活設計を樹てている訳ではないが、幸い関西に在住しているので暇を見付けては京都や大和路などの古寺を巡り有名なみ仏を拝観して廻つて見度いと思つている。それに是非やつて見度いのは好きなバラ作りであるがこれは市の中に住んでいては所詮夢でしかない。猫額大の庭の一部を芝生にし一部を花壇にしている位では精々十数株のバラしか作れない。好きなバラを一通り揃へ度いと思へば少くとも数十株を植へるに足る面積が必要になつて来る。老妻は芝生をなくして全部バラにしようというが芝生も魅力があつて中々捨て難い。

東京に住んでいた時はよくバラ園を巡つたものである。東京は実にバラ園に恵まれてゐる。東京都立の神

代植物園、向ヶ丘バラ園、五島ローズ・ガーデン、谷津のバラ園、それに等々方のバラ園等がある。それが皆それぞれの特徴を持つていてバラの楽しさを満喫させて呉れる。東京ではよしんば自分の家の庭が狭くとも淋しい思いをする事はない。春秋二回のバラのシーズンがある。全部のバラ園を見て廻る事は結構忙しい。

また関西の事はよく調査出来てないので解らないがバラ園が非常に少ないのでなかるうか。京阪沿線の枚方のバラ園位のもではなかるうか。枚方のバラ園にはシーズン中一、二度は出掛ける事にしてゐるが次々と新種が入り入れられたりしていて充分楽しまれる。

バラの花は花容が豪華のものから清楚のものまで品種が非常に多く、花色も千種に及ぶと謂われる程豊富であり他に類例がないのでなかるうか、又バラ程世界中に於て広く栽培されている花も他にはないのでなかるうか、それだけにバラの愛好人口は圧倒的に多く花の王者と称えらるる所以でもある。

それにバラの歴史は相当に古い、少くも数千年以前より栽培されてゐるようである。それだけにバラに纏

わる伝説を調べて見るのも中々興味深い事である。エジプトの女王クレオパトラがアントニウスを其の王城に迎へるに当り其の王宮の床にバラの花を数十センチの厚さに引きつめて歓迎したという話などはあまりにも有名である。フランスの皇帝ナポレオン一世の皇后ジョセフィンが近代のバラの改良発達に尽瘁した大功労者であつた事実は誰しも御存じの事と思ふ。

近代のバラは旧くから西洋に於て永い年代を費して改良に改良を加へられ発達して来たものであるだけに誰しもバラは西洋の花、西洋の原産のものであるうと思われがちであるが実は近代のバラの原種は殆んど大部分が東洋産のバラであり其の意味に於てバラは元來東洋の花であると断言出来るのである。

日本の原野に自在する、野いばら”は有名なバラの原種 “Rosa Multiflora” であり、北海道或は東北地方の海岸地帯に群落をなして自生する、はまなす”がこれまた重要なバラの原種 “Rosa Rugosa” である。知つた時は一入バラに対する愛着の深まるのを覚えた。北海道のはまなすに付いては懐しい思出を持つていらる方もさぞ多いことと

北斗寮残飯の思い出

陸田 清

(東京支部)



思い出と言つても残飯を喰つたのじやない。残飯を造つた思い出だからおかしな話である。自分は街の下宿屋の独り生活の間北斗寮で過してしまつた。そして

飯有力メンバーであつたことを付記する。次回は実方学長さんをお願いします。(昭二 流体工業株式会社)

赤岩の頂上に立つて

福田 政治

(栃木支部)



中沢、石川、寺田、木内、長谷川、本間、田中、松井(旧姓)の諸氏と既に取毀された第一寮跡で記念写真を撮つた。昨年八月末の卒業三十周年記念同窓会の時の事である。昔のままの校舎もなつかしかつたが寮の跡は一入格別な感慨で眺めたまかないの小父さんも鼻の高子さんも居なかつたが私は忽ち三十年のタイムトンネルの入りこになつた。

首藤御大の声が聞こえ、島崎、三崎、土屋、櫻村、中道各氏の顔すら浮んで来る、夏目さんの声もする磯部、皆川、田中の諸氏も思出されてならなかつたがもう会う事は無い。裏の土手の上につつて暫く現在を忘れた。祝津天望閣での懇親会は又飛び切り充実したもので、紅の応援旗を体に巻いて壇上せましまし活躍する室谷先生の若さには恐れをなした。先生

生偶作の和歌を凄くエネルギーな声で吟じられた。これを見て詩吟部出でずんばあらずと早速いい気持ちでやらかした。後で先生にテープに吹込んで送れと御注文を戴いたが未

まんびつ五人集

思う。

北海道北見の網走の近くにある原生花園には数十ヘクタールに亘るはまなすの大群落があり六月下旬頃が花の最盛期であると聞いている。数千年に亘る永い年代、神の創造しましたままの姿にて今も尚あの可憐な単弁の紅紫色の花を咲かしている数十ヘクタールにも及ぶ大自然のバラ園が存在する事は全く奇蹟であり日本の誇りでもある。其の盛花期の景観は実にすばらしく想像するだけに胸の高鳴るのを覚える。この原生花園だけは是非とも一度訪れ度いと念願している。

次は同期の太田省三君に御願ひします。(大一一 太陽鉦工株式会社)

オデン”には恐れ入つた。三十年前の闘志満々の加藤氏を目のあたりに見、終始心を込めた厚遇に甘えて名残惜しく小樽を後にした。スプリンターの加藤君から漫々的に私にパトンをタッチである。漫筆ならばとペンをとつては見たもののそろそろ息が切れそうである。浜中学氏にタッチしよう。よろしく。(昭一二 福田工業株式会社)

忘れえぬ日々

大橋 啓男

(東京支部)



緑丘時代は忘れえぬ日々として強く胸に残つてゐる。岩田先生とは、下宿の近くの風呂屋でお目にかかつたのが御縁となつて二年の時から緑町の同じ下宿で起居することになった。教室における教授はポルテールを教え、ニーチェを論じ、若き向学心にもえる学生達の胸に喜びと希望を与え、ユーモアに満ちた楽しい授業をして下さつた。普段サボル学生ですら先生の授業は欠席せず、楽しい学生生活の一面であつた。授業中の先生は、ユーモアをまじえたセンスのある会話が生徒の心をつかみ、チャンスを探え、「閑話休題、話はさておき」とスマートに授業の本題に戻る話術に生徒は酔いしれたものだつた。

下宿における裸の先生の生活を知らぬ人は少ないであらう。先生の日常生活は、勉学に暮れ、先生の部屋の

加藤氏と私は卒業すると大阪安治川べりにあつた若田商店に就職、同じ下宿に居て仕事も重油のセールスをして、大阪市内は勿論、堺、神戸、枚方あたり迄自転車とどび廻つた。彼の厚意で積丹半島迄ドライブを楽しむ事が出来た。塩谷の「旅路

緑丘三ヶ年の数々の思い出の内忘れ得ぬ苦心談。四十年前残飯を喰い喰い青春を楽しんだ彼氏達。自分に感謝状でも出して欲しいものだ。末尾に今を時めく実方学長も当時の残

二年生三年生の二ヶ年間は寮の賄いと会計を一手に引受けさせられて何かと苦勞させられたものだ。毎月の賄費や菓子代の意納の多いこと。催促すればいやな顔をされ。舎官の指示で掲示を出したらけしからんとがなられた。いくら安いおかずでも多少目先を変えたらと思つて校門前のミルクホールのおばさんをコーチに頼んで苦心して見ても余り喜ばれない。

それにも増して困つたのが残飯だ。初めは賄費を安くする為成る可く残飯を出さないことに設計してたら大分機嫌の悪い御連中があるらしい。御機嫌だけで済むうちはよかつたが朝になって見れば翌日使うおかずの材料が大ねずみに盗まれておまけにねずみがご飯やおかずを炊いて喰つた足跡があるではないか。ねずみの正体段々わかつて来たが。曰くT氏、曰くO氏、曰くA氏、曰くM氏、……其の数の多いこと。自分も夜中の一時過ぎに活動するねずみ族との争いは勝負がないし、それに地獄坂を十二時過ぎて帰つて来る愛すべき友や深更まで勉学にいそむる学友の腹のかげんも考えに入れて、寮の台所を経営するのが政治だと柄にも無く悟りを開いて、それからは何のことはない残飯が出るように出るようにと設計を立てたものだ。

緑丘三ヶ年の数々の思い出の内忘れ得ぬ苦心談。四十年前残飯を喰い喰い青春を楽しんだ彼氏達。自分に感謝状でも出して欲しいものだ。末尾に今を時めく実方学長も当時の残

灯は、夜三時以前には消えたことがなかった。当時の私は、初めて接した先生の猛烈な勉強ぶりに驚愕すると共に自分も負けずに限界まで勉強をしたかった。猛烈なフアイトを燃やした。家事の都合で人より二年遅れて入学した私が一番苦痛であったのは、英語であった。又、上級学校への進学希望のあった私は、英語の個人教授を先生にお願いした。先生は、「君は英語が苦手というが僕は経済が苦手ですよ。お互いに交換教授をしよう」といわれ、二人の奇妙な英語対経済の交換教授が始まった。

週三回の授業はテキストとして、ミルの経済原書を用い、毎回40ページずつ、先ず、先生が出す二つの問題に英文で答を書き先生の添削が終わると私が先生にその部分の理論を説明し質疑応答をした。英語が苦手であった私は毎回その宿題をこなすことは他のいかなる試験準備より苦痛だった。何とかノルマを達成する為に己むを得ず毎夜二時、三時まで辞書と首つびきをせざるを得なかった。夢のような数カ月が続いた後、先生は再び病に倒れ、横浜の自宅で療養なさるようになった。先生が休まれても先生に目覚められた勉強心と先生の勉強ぶりに負けまいとする意地が進学という目標に我が青春をぶつけさせた。芥川賞の候補にもなった文学肌の先生と語学が嫌いで文学的センスの皆無の私との奇妙な関係は誰もが想像しがたい事でしょう。先生と私の生活を語れば大きな

まんびつ五人集

いが「今だから語る」今一つの真相をお伝えします。

卒業式の前日の早朝、高商クラブのおぼさんが下宿を訪れた。おぼさんの話では岩田先生が前夜遅く怪我をされ、高商クラブに泊まれている先生のいつつで私を呼びに来たとの事であった。寝ぼけ眼でクラブへ行き、広間に寝ておられた先生から事情をうかがうと、卒業式に出席の前日の朝、小樽へ帰られたが、下宿へも寄らずにその足で長期欠席中先生の授業に協力された英語関係の各教授の自宅を終日挨拶廻りをされた疲労と空腹が重なり、その上、夜遅くひどい雨の中を玉井教授宅に向う途中、校門横の深い溝に誤まって落ち、失神された由である。先生の言葉借りると「夢心地の中で、カラスがカアカアと鳴く声で気がついた時は顔面を川の流れが音をたてて流れていた」。そうだ。この事故の為、膝の皿を割られたが、幸い通りがかった三寮生に助けられ、夜中遅くクラブにかつぎこまれたとのことであった。早速、休日にも拘らず松尾教授にクラブまで御足労を願う善後策につき御相談し、同氏の御尽力により、校長の車を拝借し(当時は戦時中の為タクシーはなかった)、小樽病院に先生をかつぎこみ即時手術を受けた次第である。私の肩に背負った教授の体の軽かった事が強く印象に残っている。

翌日は卒業式、その翌日は帰郷という忙しいお別れとなり先生とはゆっくり話す時間もないまま、お別れ手に何か下げて近づいて来ました。彼は歩いて来たのでしよう、少し汗ばみ顔で先生の前に来ました。そして一礼後「先生これは弊社が今売出して居る瓶詰生ビールです。船中のお慰みにして下さい」と体裁よく包装された二リットル瓶を差し出しました。すると先生は「こんなものは要らない。僕の靴はまだか。それだから言わないこっちゃない」お叱りになりました。高橋君は今の雰囲気は何も知らなかったのでアツクに取られて居た。私と小森君とで「先生時間は充分にあります靴は大丈夫間に合います」とおなだめ申上げるのに精一杯でした。

後数分待ちました宿の女中さんが急ぎ足で靴を持ちながら近づいて来るのが見えました。先生の靴が間違ひなく歩いて来ましたよ。と冗談口が出る。先生の御気嫌も忽ち直られ、「高橋君、君が折角持って来てくれたんだ、此は内地へ持って行くよ」と言ってお下さいまして一同やっとな胸を撫で下したのであります。警えず分と雖も先生に御心配をかけたことは私の到らぬ罪申訳なしであります。私等は漸くホットして先生を見合せた様な次第であります。然し私に取っては之が伴先生に最後の御別れになったのであります。あれから三十三年余過ぎた今日あの時の光景がはつきりと眼に浮び何んと昨日の様に思われます。次回回は東京支部の同期岡田栄吉君に御願います。(大正七)

まんびつ五人集

然し待つ時は長く感じられるもので先生は御気嫌少し斜めになられたので、こちらも内心気が揉めて来ました。その時向うの方から高橋君が

一曲やって貰いました歌の文句は忘れたが面白い文句口調であったので先生もこりや面白い僕も覚えておこうと同じ文句を幾度か繰返し一座は雀の学校見たいでありました。先生は明朝関釜連絡船で内地に帰られるのだから余り遅くまで居ては御迷惑と挨拶も草々に失礼しました。私等の先生歓迎会はこのまでは難及第点戴けたでしょうが、翌朝はへまをやりいけませんでした。私と小森君とで波止場を御案内すべく先生を御迎えに参上しました。先生は時間は正確な方であることは学校時代によく知って居りましたが少くも時間を早めに行つたのですが、先生はすでに服装を整え私等の来るのを待って居られました。「サアどうぞお車に」と申上げた時「僕の靴を自分で持つと仰せられました。靴には何が入って居るか知る由もないが可成り重そうでしたから、これは番頭に運ばせることにしました。私等は連絡船に送迎の際は必ず小使を連れて行き手荷物を運ばせる慣習に馴れてましたからその様に取計い平気でした先生は幾分不安を感じられた御様子でした。波止場に着くと「僕の靴は大丈夫かね」と念を押されました。出帆まで時間は充分あるし昨夜の宿からはそう遠くないから直きに靴が来ますよと私等は安心して居りました。

次回回は東京支部の同期岡田栄吉君に御願います。(大正七)

したが、一カ月後、入営直前、入院中の先生と再会することができた。先生が怪我された事は御存知の方々も多数あるが、当時一旦卒業すれば殆んどが直ぐ入営入隊しなければならず、生きて再会できないかもしれないなかつた教え子達の卒業式だけは出席してやりたいという願ひから病気をしておして不便な戦時中の汽車旅行をされた事が返って大きな事故になつたという事を知る方は少ない。戦後、保土ヶ谷の御新婚宅に、一度お訪ねした事があるが、その後は海外勤務、転勤等の理由もあり、いまだに先生にお会いする機会はない。いつか先生にお会いする日を楽しみにしながらも世事に明け暮れている私としては、先生におわびしたい気持ちです。

以上、学生生活の幾多の思い出の中で特に「忘れ得ぬ日々」を挙げるならば前述の事が思い出されてならない。

次回は野中雅夫君どうぞ。(昭一八後 伊藤忠商事株式会社)

伴校長先生と私

松浦 文太郎 (大阪支部)

突然編集部長兼目さんから速達便が届きました。次回執筆者は大山不二太郎君であるが病氣のため執筆出来ぬと本日電報で申出あり五人の中一人欠けては編集に差支えるからピンチヒッター

で私に何か書けと御下命ありました。私はバットならぬ筆を振るなんてそんな文才はありません。だが五七会(大正七年卒)の名譽の為に三振覚悟で私の想出の一駒を綴り責任を果したいと存じます。

私は昭和八年十二月から同十二年六月まで四年半朝鮮釜山港に於いた第一銀行釜山支店に勤務して居りました時の事でありました。当時釜山港は朝鮮、満洲国の玄関口と言われ日本朝野の名士が釜山通過が盛でありました。恰も昭和十年の夏でありました或日の午後突然伴校長先生が銀行に来られました。公用で満洲国視察の帰途だが時間があるので街を歩いてたら第一銀行の前に来て居た。此銀行には教え子が多数入って居るから、ひよっとすると一人位居るかも知れんと立寄つたのだが「君が居たか、元気でやつてるか」と、学校を出てから十八年振りでも海を越えた釜山で恩師にお目にかかるとは思議と云うか夢でないかと思ひました。

此店には後輩小森治樹君が居り、朝鮮麦酒会社釜山出張所には後輩高橋君が居りましたので、私等三人で伴先生の旅愁をお慰め申上げ度いと南浜の某料亭に御案内することに致しました。先生は心よく御承諾下さい其夜更けるのも忘れ雑談に花を咲かせました。互に盃を重ねる程に先生もおくつろぎになり無礼講で歌でも歌うかと言ふことになりました。その頃当地では鹿兒島小原節が流行して居た。そこに侍って居た老妓に

洋酒の中の個性派



〈城〉生まれの高級ブランデーがたっぷり。スッキリした飲みくち。飲みあきしない洋酒の個性派。あなたの洋酒棚に欠かせないユニークなお酒です。冷たくして、爽快に、愉快地、おたのしみください。



合同酒精

720 ml.....500円

(まんにつ執筆者)

- (客員) 松尾教授
- (大六) 高橋徹男、下吹越栄吉
- (大七) 八木康之助
- (大八) 伊東小四郎
- (大九) 白瀬治三郎、金栄西吉、草野義一、松浦文太郎、
- (大十) 戸井正三、大野純一、三好長次、増井得三、谷本朋次、郡菊之助、西村百太郎、松本義一、大山謙吉、広岡一男、福田誠、藤居元三
- (大十一) 菅谷重平、奥村義信、小島憲市、奥田直
- (大十二) 宮地邦介、小橋庸三、杉山昌作、神沢重治、梶川亨司、功刀素重、越崎宗一、大泉行雄、中田新平、中瀬秀一、松岡俊一
- (大十三) 田中弥三郎、塩谷精一郎、大久保鹿次、大井義郎、渡辺一夫、小河成美、池田繁正、田中実、穴釜升夫、玉井武、日南田美文、佐藤信雄、若林周五郎
- (大十四) 古関周蔵
- (大十五) 畑信太郎、片岡亮一、小武海鉄郎、松原治郎、森下弘、北村良吉、桐田鉄郎
- (大十六) 増田常次郎、中野清一、白木小一郎、近藤徳弥、津久井七雄、大平善梧、西野嘉一郎、竹内隆、吉田荘太郎、祐村脩平、松村義公、川上貞光
- (大十七) 黒羽秀夫、牧野吉男、岡田政治郎、堂城不二人、友沢和一郎、小貫武、手島恒二郎、山中晴雄、太田英治、広瀬久一、石田平八、中沢勝平、加藤正善、古川敬止、清水文男、茂垣英夫、岩岡秀三
- 小西征夫、矢野健太郎、陸田清
- (昭三) 佐竹繁寿、樋山三郎
- (昭四) 小山健児、湊静男、高橋一男、玉井英雄、宇山慶三
- (昭五) 池田啓助、井藤久也、吉田友記、北村太治郎、横井七之助
- (昭七) 八家要、鹿島景策
- (昭八) 土岐秀雄、本間広松、小池三郎、高見美雄、会津幸雄、鈴木三七
- (昭九) 梅野弥太郎、塚越誠、本田正一
- (昭一〇) 篠崎万治郎、若月雅司、北村匡弘
- (昭一一) 浅野潔、土屋龍郎、木下春雄、三崎嘉郎、島崎保信、中尾弘、中道良徳、川原俊一、松井要吉、進藤彰、越崎清二、中木平三郎、丸山一郎、紫竹亜津視、秋葉隆一郎、葺目英三、本間誠一、鎌田正三、木村頼雄、小林啓作、角谷栄作、上野茂、村山重三郎、国安猛、小島典春、砂子沢正
- (昭一二) 内藤好生、皆川荘一、矢野正郎、宮内美雄、木内武之助、牧田恒雄、本間英作、森川正明、石川孝一、浅田厚、岡田保司、山村太兵衛、佐々木成彰、岡本元次、立石市郎、佐藤清治、山下政道、高橋景則、金三郎、須永誠一、白瀧良造、曾根重四郎、大井健一、梅原音次、森川正明、岡田春夫、加藤勇、福田政治
- (昭一三) 江川裕一郎、若山永太郎、木村章三、山本俊雄、松野野寿夫、丸山弥、平木勇三、金垣英雄、柳川憲夫、西谷作太郎、森川正明
- (昭一四) 井原利勝、大沼誠治、北村幸、谷英純、沼田博、太田正勝、老岐隼雄、河西辰男、沢村重一、石黒政夫、北条恒一、三浦正飛塚誠一、竹島篤二郎、金井勇、八木安、野村鉄太郎、福地貞雄、櫻村久好、尾崎哲平、沢井道成、隈田鑽三、市橋宏一郎、内藤義信
- (昭一五) 柿本恒一
- (昭一六) 相原正美、相田正、河上鎮男
- (昭一七) 中村平之助、小林芳美、松村克己、山内孝、杉原貢、久保宗司、若林幹一、阿部英一
- (昭一八) 梶谷真一、長尾昌弘、桑野泰次郎、阿部敬作、越智直行、山田光男
- (昭一九) 亀井尚一、湊誠、島田恵治、田森誠一郎、七戸真次、松沢久隆、一柳悦蔵、大橋啓男
- (昭二〇) 高山博男、荻村茂雄、赤津俊樹
- (昭二一) 牧口富伍、福田和、服部奎吾、北野巧
- (昭二二) 我満博仁
- (昭二三) 古内一成
- (昭二四) 石津洋三
- (昭二五) 小田島和夫
- (昭二六) 佐藤良雄、本前勝支朗、長津行高、猪浦淳一
- (昭二七) 神田隆志

△お願いします▽
 まんにつ執筆者よ
 バトンを受けたら責任の回避をやめ
 ましょう。バトンを渡した方は次の
 方へ執筆するようす、めて下さい。
 若しその方が困難な場合は執筆者交
 更をすぐ編集部へ連絡願います。

広告マツクと美術印刷・紙工品

三優社

株式会社

京都市下京区寺町通松原下ル
 TEL (361) 8171 (代表)
 取締役社長 山村太兵衛 (昭12)

是非一度皆様からの御用命を……特別奉仕

異動

栄転

- 馬場 正治(昭一三) 北海道拓殖銀行総務部長(審査部長)
- 安田 正義(昭九) 北海道拓殖銀行常務取締役(総務部長)
- 太田 正勝(昭一四) 住友海上火災保険株式会社東京支店長(四国支店長)
- 福田 耕作(昭一一) 住友銀行本店支配人東京駐在(調査役)
- 板垣 与一(昭四) 一橋大学付属図書館長(一橋大学教授)
- 山崎 靖也(昭三二) 北洋相互銀行本店営業部
- 札幌市大通り西三丁目十一番地
- 伏見 滋夫(昭一〇) 社団法人日本農村調査会
- 東京都千代田区霞ヶ関一―二 農林省内
- 佐藤 庄一(昭一五) 帝人岩田工場長(化繊販売部長)
- 神田 隆志(昭三六) 日本新業株式会社東京支店調査渉外課(本社外国部)
- 東京都中央区日本橋本町三丁目一
- 花村 哲夫(元母校教授) 東京外国語大学付属図書館長(同大学教授)
- 山崎 均(昭一七) 日本銀行熊本支店
- 岡部 良造(昭三三) 田中弥商事株式会社管理室長(東京出張所)
- 大阪市東区北浜二丁目七四
- 会田 勝(昭一七) 東邦銀行会津支店(宇都宮支店)
- 桑島 喜助(昭二) 日本貿易協同組合連合会
- 東京都中央区日本橋本町一―六
- 服部 奎吾(昭二三) 東海銀行高田馬場支店長(広島支店)
- 武知 鉄郎(昭一三) 北海道拓殖銀行取締役(小樽支店長)
- 林 晃(昭三三) 日本勧業角九証券株式会社京都支店(豊橋支店)
- 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾通二十八
- 山本 健一(昭一六後) 株式会社主婦と生活社経理局(西日本紡績)
- 東京都中央区京橋三一―五
- 木嶋 正(昭三五) 日本新業株式会社外国部輸出課(東京支店調査渉外課)
- 柳沢 靖三(昭一七) 富士化学工業株式会社東京支店長(札幌支店)
- 東京都千代田区内神田二丁目一五
- 司ビル別館
- 対馬義一郎(昭一一) 佛東京機械製造所本社(神戸銀行)
- 東京都中央区日本橋室町四の四
- 大塚誠四郎(昭一三) 第一銀行北九州支店長
- 北九州市小倉区鳥町三〇番地
- 木村 清蔵(昭九) 大阪商船三井船舶取締役油送船部
- 寺尾 八郎(昭九) 江別高等学校(長万部高等学校)
- 江別市向ヶ丘二六
- 松岡卯之典(昭一一) 神戸銀行監査役(本部勤務)
- 飯川 益男(昭一一) 三井銀行船場支店長
- 横川 義雄(昭六) 北海道旭川商業高等学校校長(札幌東商業校長)
- 吉田 剛(昭三四) 日立工事株式会社中国出張所(東京営業所)
- 広島市基町十一番十号(千代田生命ビル五階)
- 石津 洋三(昭三〇) 北海道拓殖銀行丸ノ内支店(事務部電子計算課)
- 中尾 雄平(昭三四) 日本生命保険相互会社品川支社大崎支店長
- 東京都品川区大井一丁目三四―八
- 日生大井町ビル内
- 宇佐美俊彦(昭六) 乾汽船専務取締役(常務取締役)
- 井上 巖(昭一一) 有限会社村田取締役
- 神戸市生田区山本通四丁目九七
- 栗山 秀雄(昭一一) 阪神相互銀行(社名変更)庶務部長
- 三崎 嘉郎(昭一一) 三和銀行常務取締役(取締役庶務部長)
- 福田 耕作(昭一一) 中外製薬専務取締役(常務取締役)
- 栗野 俊助(昭一一) 丸紅飯田常務取締役(取締役)
- 高千穂交易佛東京本社人事部次長
- 東京都千代田区麹町一の七
- 渋川陽一郎(昭三二) 三井ポリケミカル佛千葉工場(同社大竹工場)
- 岩城 留吉(昭四四) 岡崎城西高等学校(二宮高校)
- 丹羽 功一(昭三九) 三井物産札幌支店(名古屋支店)
- 志摩 角美(昭一三) 日本製粉佛大阪営業所次長(神戸工場)
- 小林 昌夫(昭三八) 東海銀行尼ヶ崎支店(名古屋大船町支店)
- 中本 毅彦(昭三二) 今井金商佛建築部課長
- 山本 宗二(昭七) 東京急行電鉄佛専務取締役(取締役)
- 武岡 達良(昭一一) 住友石炭鉱業佛常務取締役(取締役)
- 中道 良徳(昭一一) 十条製紙佛総務部(東北パルプ合併)
- 東京都中央区銀座東三―四
- 太田 正勝(昭一四) 東京都中野区中央四ノ二五―五
- 藤井 幸男(昭九) 吹田市泉町一丁目八番五号
- 山崎 均(昭一七) 熊本市水前寺本町一四七―二
- 菅原 英信(昭一六後) 東京都調布市染地三丁目一番地

住所変更

- 山崎 均(昭一七) 熊本市水前寺本町一四七―二
- 菅原 英信(昭一六後) 東京都調布市染地三丁目一番地

多摩川住宅ホー九一五〇一号
山崎 靖也(昭三二)
札幌市東月寒三四の二二 北洋相
互銀行羊ヶ丘アパート二一四
田中弥三郎(大一一)
吹田市千里山東二丁目一五番二四
(表示変更) TEL三八八(吹田
局)三一四三
岡部 良造(昭三三)
兵庫伊丹市宇伊丹南本町二丁目
二番地
会田 勝(昭一七)
会津若松市宮町五一四五
金吉 忠吉(大九)
小樽市稲穂二丁目十一五(表示
変更)
大島 晃(昭一九)
千葉市柏市旭町六丁目一八
高橋喜久雄(昭二〇)
小樽市富岡一丁目十三一〇(表
示変更)
井出富太郎(昭一七)
小樽市長橋三丁目八十一
鈴木丙午郎(昭三)
小樽市緑三丁目一六番二五号(表
示変更)
服部 兵吾(昭二二)
東京都小金井市中町四丁目一八番
五号
町野 勉(大一一)
函館市柏木町十二番八号
菊地 敏夫(昭二〇)
奈良市南永井町一五四一四
新春日団地三四号地
横川 義雄(昭六)
旭川市曙三条四丁目
今井 徳弥(大一一)
小樽市入船五丁目六番十三号(表
示変更)

石津 洋三(昭三〇)
千葉船橋市西船六ノ九 拓銀ア
パート一ノ三〇一
戸谷大通三(昭一三)
札幌市平岸三条一丁目
井上 保(大一一)
函館市時任町三一一一(表示変
更)
小林 啓作(昭一一)
小樽市緑二丁目一八(表示変更)
角 栄(昭一八)
小樽市色内一丁目一〇番二号(表
示変更)
神田 隆志(昭三六)
千葉市松戸市常盤平二丁目二八一
二 日本新築常盤平社宅
木嶋 正(昭三五)
京都府乙訓郡長岡町字開田 日本
新築朝日園社宅A一
柳沢 靖三(昭一七)
川崎市明津二四三番地
苦米地正昭(昭一八)
東京都杉並区西荻北一の八の一三
商船三井西荻第一社宅四九号
山本 健一(昭一六後)
東京都杉並区神明町一五、
寺尾 八郎(昭九)
札幌市麻生町八〇一―一四九
桑島 喜助(昭二)
東京都豊島区南池袋四一七―一七
(表示変更)
丹羽 功一(昭三九)
札幌市琴似町山の手三の五 三井
物産社宅三〇九
渋谷陽一郎(昭三二)
千葉市原市有秋台東三の二
三井有秋社宅
中道 良徳(昭一一)
横浜市保土谷区中沢町九九の一九

林 源太郎(大四)
函館市松陰町六の八(表示変更)
中本 毅彦(昭三二)
江別市大麻中町一の四
屋代栄三郎(大一一)
芦屋市平田町六番三号
大沢 三男(大一一)
新潟県五泉市宮町一の一
高崎 徹(元講師)
札幌市西岡三六九―九四札幌大学
校舎A一―一九(但し東京の留守宅
はそのまゝ)
大崎 康市(昭一九)
大阪府高槻市奥天神町一丁目一六
―一九
林崎 二郎(昭一一)
藤沢市辻堂東海岸二丁目二一三
六
永井 静男(昭八)
千葉市習志野市袖ヶ浦一―九一五
佐藤 庄一(昭一五)
岩国市岩国一丁目二〇番地三五号
橋田 和道(昭三四)
奈良市中登美ヶ丘二丁目中登美第
三団地C一―二〇一
乗金林之丞(大六)
神戸市灘区篠原木町四丁目四一五
(表示変更)

越崎 宗一(大一一)
昭産(小樽支店常務取締役(佛越
崎商店合併)
小池 輝男(昭一一)
大阪市西区西道頓堀三丁目二ノ三
佛浅沼商会

社名変更
越崎 宗一(大一一)
昭産(小樽支店常務取締役(佛越
崎商店合併)

事務所移転
小池 輝男(昭一一)
大阪市西区西道頓堀三丁目二ノ三
佛浅沼商会

某雑誌に有村順氏(ペンネーム)が
「酒場新規開店の引札」と題する一
文を掲載している。
銀座一等地に帝国ホテル解体時の
地下のホテルバアを大谷石の仕組み
もろとも、いっさいをバラして準
備、十人程のチーク材のカウンター
をもうけてその足場は真鍮ビカビカ
の横棒をとりつけるという構想。
おつまみのことも面白い。そして
この酒場の名が CHOTT-IPPYER
であり、その名づけ親がなんと前号
「外人講師特集号九頁のゾルさんこ
とレオン・ゾルプロット氏」とは、
全く奇しき縁である。
有村氏曰く、彼(ゾルプロット氏)
は小生の友人で、まあいわば悪い仲
間である。小生の仲間がやっている
小唄の会に入って、しばらく苦勞し
ていたが、物にならず、里見八犬伝
にコッていた揚句、今アメリカへ帰
っている。又来るかも知れぬ。彼は
小樽で教師だったとは小生には言わ
なかった」と
さて近日開店というこの酒場のサ
ービスの一端を披露しよう。
カウンターのしかるべきところに
銀平盆に美しく盛り合せてあります
のは、次のようなものであって、い
っさい無料。タダ、ロハです。(オ
ードブルを、タダで喰わせて、いっ

たいどこでモウケルのかな)と驚く
ようでは、これはもう、本格バアに
無縁の徒輩である。まあとにかくお
聞きなさい。
一、肉類。鳥薄切り、ローストビ
ーフ、スペアリブ伊太利風、ソーセ
ジ、ハム類各種。
二、海産物。アンチョビ各種、鱈
の酢め、生鮭刺身マリネ、エビ各
種、時季鮮貝各種レモン酢。
三、野菜、レタス系、かぶら系、
葱類、アルテシヨ、各国風ドレッ
シング。
四、パン、クラッカー、黒パン、
クロワッサン、チーズバター。但し
レンボルクチーズは除く。乾果。
大体このようなものが主であるが
すべて冷製。カウンターでは、煮た
きをしてはいかぬ。
肴のとりかたは、紙、アルミ製の
皿を充分備えてあるから、お客さん
は、各自お好みを大いにやって下さ
い。但し、此処が肝心。タダで、腹
ごしらえをしようかと、あまり大量
に採り込もうとすると、練達のパー
テンダーが、銀皿をスッと引きま
す。これをやられると、紳士上客の
体面にかかわるから、ほどよくが大
切。しかし、これで、タダとはビッ
クリしたな、もう。
本邦では、往年の横浜グラントホ

CHOTT-IPPYER

ペンネーム
有村 順
(昭二)

テルのバアが、これ式であったが、
充分採算に会った実績がある。すな
わち、「タダほど高くつくものはな
い」という、紳士の心得によって、
紳士上客は、これに見合ったチップ
を置いた。
営業時間、午前十一時より午後十
時まで。土曜、日曜はお休み。婦女

子従業員ナシ。
店名ですがブリチッシュコロニー
ヤ大学助教授、極東アジア原語文学
者、エルゾロプロット氏撰、
「CHOTTO IPPYER」とする。
東京弁で発音しても、また大阪弁で
いってみても面白い。採用しました

穴は穴でも

寺尾 八郎
(昭九)

終戦後「小樽は穴だ」と一海員が言っていたのけ
た記事を読んだ。校庭からは頻りに港をふかん
したものの海上から小樽を拝んだ事はないので
果してそうかと心に残った。その後海博博を機
に埠頭祝津間を態々舟で通った。製粉工場あた
りからじつと目をこらした。右手からは手宮の
崖が、左手からは若竹町の山腹が湾入する港を
両手で抱きかかえるように囲み、正面には天狗
山が巖と立ちはだかつて居る。正しく穴だ。函
館と室蘭は脇は別として前方は平地なのでかつ
然と開けて居る。小樽は人情がこまやかなので
やさしくもなつかしいお袋の懐を想わせる。居
る時は知らなかったのだが各地に転任した経験
から比較するとこの事がよく分る。海上からの
印象といい、お袋の懐をつくりの人情敦厚さ
といい、全く良い穴に三年間育くまれた
ものだとつくづく悟った。



技術革新時代を生きる

ナイス低温溶接棒

製造元 **ナイス低温溶接棒株式会社**
 総発売元 **協和商事株式会社**
 取締役社長 四谷 宗義 (大11)

本社/尼崎市北大物町1番地 電(481)822100
 富山出張所/電(31)1425 東京支店/電(52)871100 九州支店/電(76)688040
 名古屋出張所/電(91)3063 仙台出張所/電(22)9549 小倉出張所/電(56)5648
 高松出張所/電(31)4747 静岡出張所/電(85)2675 広島出張所/電(21)1073
 姫路出張所/電(22)7331 新潟営業所/電(66)2295 水戸出張所/電(24)4611 長崎営業所/電(44)6345

「緑丘」43年度申込者氏名

(三)

(六月五日現在)

- (あ) 有我栄一、相沢健一、浅野輝彦、天野雅司、阿部忠、赤津俊樹、有磯成令、安達常夫、青木勇夫、荒木慶司
- (い) 井須莊二、伊原利勝、板垣与一、今井四郎、伊東吾一郎、石黒政夫、池田繁正、板谷鶴太、伊藤幸平、飯島幸雄、井上勲、飯坂久男、今井慎一、井藤久也、岩井雅昭、石田興平、飯野直義、伊部政次郎、岩岡秀三、井上保、五十嵐世次、稲川直孝、池田雄亮、石川孝一、石崎静夫、伊藤整
- (う) 宇尾五郎、薄井晴次、植田英次、上田一喜、上村甚四郎、梅田正二、魚谷源兵衛、宇美第藏
- (え) 越前谷順治、江川裕一郎、遠藤真吾、江原利夫
- (お) 大津利隆、及川哲哉、大泉行雄、大友敏弘、小野寺佐、大野陽之助、小河成美、黄地幸造、岡本元次、大村博、大田未穂、小田島和夫、近江光喜、大沢三男、岡田弘三、岡林宏、大関勝美、大本良一、太田省三、奥井康夫、近江慎二、岡林昂男、小原寿、越智易延、大崎康市、小田茂、大井義郎、奥原貞三、大嶽英雄、大滝正八、大津博士、大庭定男、太田正勝、岡田栄吉、尾崎哲平
- (か) 鎌倉啓三、笠木申一、金吉忠吉、加賀保広、龜山英夫、鎌田卓
- (キ) 笠原章雄、海崎臣一、香木正雄、亀井尚一、川原俊一、神部健之助、川島道明、河信一郎、金津良三、菅孝夫、河野祐二、河西豊太郎、加藤誠一、神田徳造、勝海隆、加藤敏、川久保恒雄、川田建二、神田文逸
- (キ) 木島忠男、木村俊也、木村誠藏、菊田小太郎、紀野重仁、木村実、菊池隆、北村良吉、木立哲夫、木下春雄、木全三郎
- (ク) 黒木敏雄、桑嶋喜助、桑野泰郎次、久保大亮、窪田信一
- (ケ) 計良大介
- (コ) 児玉廉平、小島典春、郡菊之助、小網善吉、小池省三、小林啓作、駒井幸一、河野通雄、根田順治、古関周藤、小島東、小林芳美、小寺三郎、小林備信、小島貞三郎、近藤恭成、小池三郎
- (カ) 佐藤功、沢登義隆、佐々木明、佐藤良雄、佐々木成彰、西条正博、佐々木周一、齊藤進、佐竹繁寿、佐藤正人、桜井純一、桜田総之丞、佐藤虎夫、佐藤清定、佐々木利七、佐々木光雄、桜庭幸雄、佐藤庄一
- (シ) 六戸市太郎、柴田敏宏、新谷昌明、紫竹徳津視、清水貞雄、志摩角美、進藤彰、柴田静一、白方与次郎、白濁良造、白石琢二、篠田正男、進藤孝二
- (サ) 杉中弘吾、鈴木三七、杉原一男、鈴木幸太郎、助川哲郎、鈴木丙午郎、須藤一郎、菅谷重平、鈴木博、杉江雄太郎、杉山修一、杉本敏雄、鈴木弘一、菅井長平
- (セ) 関沢伊織、千野秀夫、千田良作、瀬尾幸三郎、瀬下雅也
- (タ) 高坂恒一、武智次郎、玉井武、田中滝一、田中繁良、高橋文雄、高橋勇、竹山博、高野治作、田代耕二、玉井英雄、竹内宏、竹内英三、高田正明、武林俊三、竹島旬、武智鉄郎、武田知之、谷村龍雄、谷弥太郎、田中慶四郎、高橋政雄、田沢貢、高見美雄、田所良徳、高木正夫、竹中大毅、谷英純、高橋徹男、高原一雄、武智敏、谷黒正二、田村正司
- (チ) 地主忠次郎
- (ツ) 津島正雄、土橋千代子、塚越誠、津久井七雄、津田武男
- (テ) 寺田茂己、寺尾忠明、寺尾八郎、手取貞夫、手嶋恒二郎、手塚寿一郎
- (ト) 苫米地正昭、土岐秀雄、富永義、富田博夫、苫米地和夫、豊田正、鳥栖六郎、戸井正三、道善宇内
- (ナ) 永倉正美、中野武雄、中村正治、仲尾弥之助、中木平三郎、那須国典、中村哲喜、中川和行、中村哲夫、中島与市、仲谷泰郎、名畑政雄、長岡鉄雄、中川精一郎、中田左内、中川春雄、中沢勝平、中川正定、中野祐良、中尾雄平、中里豊、永井敏太郎、永井正一、長尾利二、中道良徳、永井久、永井民一
- (ニ) 西村正一、西田英夫、西村保、西谷作太郎
- (ネ) 根元敬二
- (ノ) 乗金林之丞、野村鉄太郎、能沢正義、野沢悌三、野界作成、野村正己
- (ハ) 八家要、服部奎吾、浜井清一、萩田梅三、萩尾英彦、馬場清義、原貞二、林崎二郎
- (ヒ) 平井庸雄、平塚達夫、日西一雄、広岡一男、足田吉晴、曳地金治、樋口幸治
- (フ) 藤原武次、藤田枝郎、深宮郁郎、藤井幸男、福島常弘、古沢精吉、藤吉一男、福田耕作、福田誠、藤木歳久、福原省吾、藤井忠信、藤城敏雄、船津卓二、藤田精一、藤原愛子、古屋隆作
- (ホ) 本間正一、細江昌輔、本多春男、本間諄一、本間毅郎、細川信四郎、星野治
- (マ) 町野正雄、前田良章、牧野栄二、松林敏、松岡俊一、松村清一郎、増田常次郎、前田重郎、前山龍男、松本義夫、松村義公、牧野正治、松井要吉、丸山伝治
- (ミ) 三浦寿夫、宮崎三善、三浦強太、宮尾茂、宮崎靖、宮袋虎雄、宮下新太郎、三沢秀雄
- (ム) 向田辰雄、室秀夫、村岡英一、村井弥三治
- (モ) 森保、森本秀男、門間冬見、諸橋昌保、森田幸平
- (ヤ) 山本繁雄、八木四郎、山本安次郎、山本健一、八木勇平、屋代栄三郎、山本義宏、山崎真治、柳沢靖三、柳川憲夫、山田武、柳瀬伊蔵、八尾勝郎、山崎均、山口秀雄、山下秀三、山口淳司、山下政道、矢野正郎

- (中) 湯川勲、遊佐憲三、弓削為一、弓削実
- (よ) 横山秀男、米林丈夫、米田隆吉、吉田剛、吉川優幸、横山為祐、吉田曠、横井七之助、吉田忠
- (正) 渡辺羊三、亘光雄、和田善四郎、渡辺一雄、若林敏、渡会丑春、渡部裕彦、渡辺金之助、渡辺金吉

名古屋支部総会

名古屋支部長浜井清一氏(昭一二)に決る

そのあと支部規約の説明と、副支部長加藤敏氏(大成建設、昭和十五年卒)以下幹事の発表があり、懇親会に移りました。最も適温に吟味されたビールが次から次へと飲まれる間に、当日の特別出席者元教授の井上柴電先生が特に発言され、先生の年来の研究であり最近では大きな社会運動にまで発展しつつある優生保護法改正をめぐる問題とそれから派生される労働人口減少の問題、また起因する所のいわゆるバラ色のマイホーム主義の是非等、これから結婚する若い同窓にも、また人手不足にならぬ経営者乃至は会社幹部の同窓にも多くの示唆を含む問題が提起され、それをめぐってひとしきり議論花咲き、改めて濃厚な井上先生の学殖の深さと問題の多岐さに感銘を覚えたものでした。終りに新支部長の音頭で進軍歌。若い人達のリードで校歌を力一杯合唱し新支部長推薦の意義ある総会を閉会致しました。

緑丘会名古屋支部総会は四月二十三日夜六時から、サッポロビール名古屋工場隣の浩養園で開かれまし。私達が学んだ北国の、あの長い冬の後の五月、待ちに待たれた目に泌みるような新しい緑に比すべくもありませんが、都会の中としては木立の多い庭園として折柄の若葉のむせるような香りに、工場直送の新鮮な生ビールを求めてたくさんのお客が其処此処で談論風発の光景の中、特別会員井上柴電先生(現南山大学法学部教授)、名誉会員増田常次郎氏(大正十五年卒)を始め、前支部長で長い間緑丘支部のために力を尽され現在は当日の会場である浩養園にお仕事を持たれる高橋一男氏(昭和四年卒)等、二十八名の同窓生が集いました。前支部長高橋氏の軽妙にもしかも誠意溢るる新支部長推薦の弁があり、東和金属株式会社代表取締役浜井清一氏(昭和十二年卒)が若き学窓時代の応援団長の熱情そのままに新支部長就任の挨拶と同窓諸君の鞭達の盛り上りを大いに期待さ

昭七会 35周年記念誌刊行

去る四十二年卒業三十五周年を迎えた昭七会は四五頁からなる記念誌をこのたび発行した。編集は小樽市史編さん室長松井勲氏が担当している。「多くの投稿希望者に対し在在時を過ごすことの無責任さに耐えられずやっとならぬように余程の根気あるお世話がなければ困難な仕事である。エメラルドグリーンに銀文字の表紙は編集者の配慮がうかがえる。この記念誌は(思い出・近況・随想)に二十四名の方々が三十五年の歩みを追懐している。

「一月二十五日頃に願書をだして送られてきた受験票が「NO.1」で驚いたことでした。受験番号順に席を占めるので私は試験の間中ずっと最前端的の机でした。試験のあとの身体検査では、男性たることの象徴を具さに点検せられたことも、徴兵検査前の私にとっては生れて初めての経験であったことを覚えております」

「フランス語を第二外国語に選んでいました私達が、デーゲン先生が速記を教え、それを試験するというので、まわらぬ英語で先生と争い、とうとう教務課まで乗り込んで苦米地先生に事情を訴え、それが通って速記の試験は取り止めになりました。このことがあって間もなく、デーゲン先生が教壇を去られたことは誠に

名残惜しいことでした」

「ノモンハン事件、ハロアルシャン駅近くで馬上髭ゆたかな砲兵隊長K君と偶然逢い、しばしお互に目を疑い、声もなかったのです。荒涼たるホロンバイルの草原に張られたテントの中で、当時の激戦の跡を省みてお互の武運の長からんことを祈りました」

「入学口頭試問の日、故K君が煙草を手に持ち小生が煙草を耳にはさんでいたのをガンちゃんに見つけ「入学試験を取り消す」とドナられたこと。

第一寮全員が毎月のように吉田屋でソバパーティーを開き、セイロを天井まで重ねて喜んだこと。

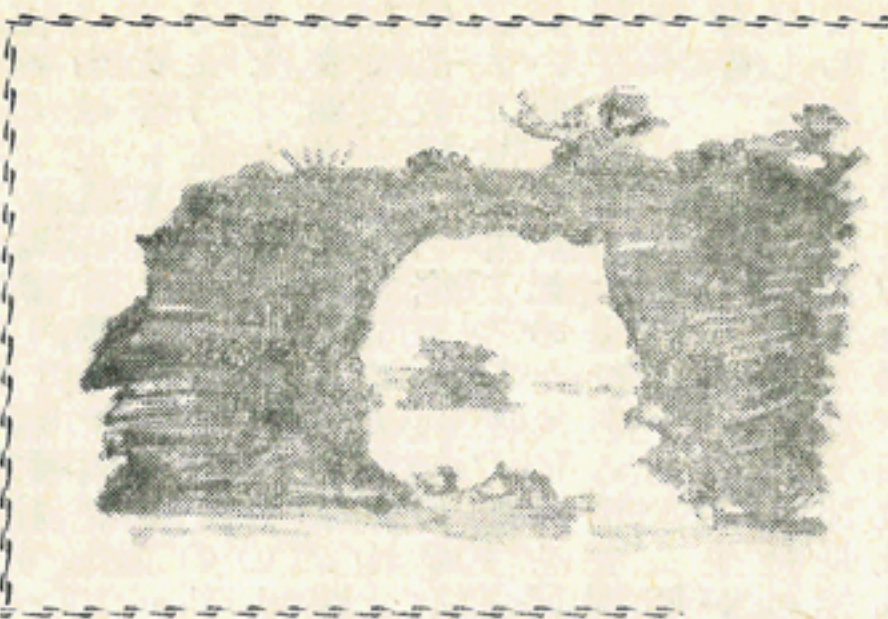
高橋ビヤホール(後のナポリ)、十八番のビール。親孝行二人娘のパナ屋さん。ロシア人の喫茶店の紅茶とケーキ。④デパート内の散策、妙見川の出雲屋のソバ。蛇の目ずし。駅前前のモンパリーetc, etc, ...すべて懐かしい当時の思い出ですが今はどうなったことやら?」など面白い記録集でもある。

(表示変更)

小樽商科大学
小樽市緑三丁目五番二十一号

緑丘十三会(四十四周年全国大会)

日時 昭和四十三年四月十三・四日
場所 松島海岸 白鷗楼

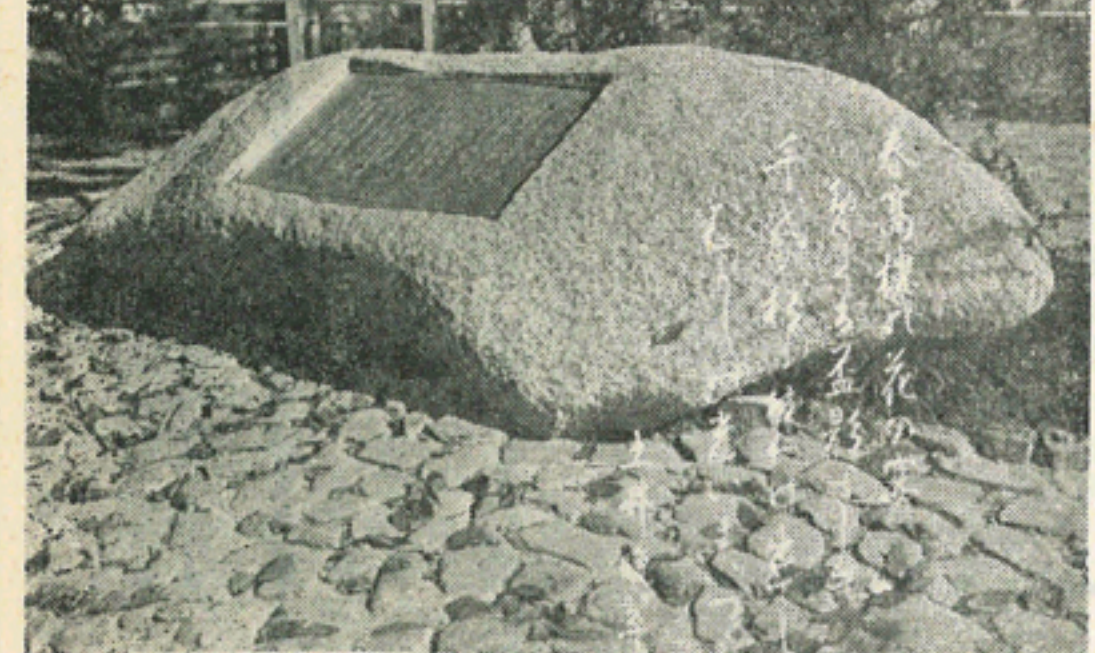


郎の作曲を得て、不朽の名曲となつたが、今しがた見てきた青葉城跡の
晩翠碑の

春高樓の花の宴……
バス嬢の音頭で、車中の老董たち
まちハッスル絶妙のコーラスとなり
一路仙塩国道を快適なドライブ。塩
釜神社の「紅しだれ」はちょうど見
頃、程よい旅づかれを船に託して、
うつらうつらと大島小島の点綴する
松島湾をよぎる。五大堂を背景に一
同記念撮影。瑞巖寺を見物して、夕
頃今宵の宿白鷗楼にくつろぐ。

一服して樓の窓に寄れば、暮靄よ
うやく立ち初めた湾上の濤に白く航
跡を残して、福浦橋あたりもそこは
かたなく暮れかかっている。
六時開会、出席者以下二六名
北海道 桜井長徳、寿原九郎、茶谷
豊彦、宮尾藤之助、湯口善太郎
(令嬢同伴) 伊部政次郎、東口環
東京及びその周辺 徳橋周吾、古関
周蔵、谷弥太郎、広田刀一、久保
田敏三、田中修吾、立花英二、門
間冬見、高浜年尾、渡辺清、水上
貞、二馬吉郎、近藤勇
名古屋 服部兵吾、蓮田勉
仙台 中島烈勇、山田季郎、佐藤虎
夫

開宴に先立ち、古関幹事より昨年



(上) 青葉城跡 (下) 荒城の月碑

の暮亡くなった福田勇一郎君の追憶
談あり。天下の耳目を衝動した「朝
日騒動」渦中の人物、飽くまで節を
曲げず筋を通した、その進退の立派
であったことは、敵味方を通じ均し
く認めるどころと聞き、故人の在り
し日を偲んで、級友一同愛惜の情切
なるものがあつた。
次いで佐藤幹事より在米四十余年
の矢島喜市君よりの来信披露あり。
(前略) 先達古関兄から贈つて戴い
た名古屋城の前で撮られた写真(注
昨年の名古屋大会記念撮影)を拜見
して、御壮健に御活躍の諸兄の御姿
を拝し、昔を思い合せて感慨無量
として諸兄の御尽力によつて、過去
二十年間に祖国が目覚ましい勢いで
進展し、世界の人達をアッと驚かさ
せたことに想到して偉いものだと思
つて頭の下る思いでした。御蔭で鼻

を高くして「日本人は偉いだらう」
と米友人に語つて歩けるようになり
ました。全く祖国の Gross National
Products は米露に次いで世界
で第三位で威張つたものだと思います。
(中略) 芭蕉が「あゝ、松島や 松島
や」と読んだ名所に集つて、昔の緑
丘時代を楽しく語り合われる諸兄の
情景を思い浮べて、切に御盛會を祈
上げております。
(中略) 小生は五月頃商用で五ヶ年
ぶりで、訪日する計画です……(中
略) 有名な東海道線(新幹線)に乗
つて快適さを味わいたいと楽しみに
しています。汽車の快適さは、日本
が世界一の好評がありますね。
考えて見ると紐育に来てから四十
三年目になります。髪が白くなった
のも無理ないと思ひます。しかし氣



持は至って若く、地獄坂を上つた当
時と殆ど変わらぬ積りです。……(後
略)
宴に移つて地元の正調「さんさし
ぐれ」「斎太郎節」等披露、真打の
高浜「松のみどり」「伊部」「やりさび
」「寿原」「山中節」等々素人にして置
くのは勿体ない芸術、最後は例によ

って「今はハヤー」「夕焼け美はし
」でめでたくシャンシャン。
明けて十四日も快晴。おつもりの
お銚子で機嫌さん。来年は「We
Meet Again at Midori-ga-Oka」
で別れを惜しみながら三々伍々散つ
ていった。(佐藤記)

- 後列右より
- 佐藤 斥夫 前列右より
 - 門間 冬見 田中 修吾
 - 山田 季郎 近藤 勇
 - 徳橋 周吾 渡辺 清
 - 谷 弥太郎 水上 貞
 - 中島 烈勇 二馬 吉郎
 - 茶谷 豊彦 古関 周蔵
 - 桜井 長徳 高浜 年尾
 - 立花 英二 宮尾藤之助
 - 蓮田 勉二 東口 環
 - 久保田敏三 湯口善太郎
 - 広田 刀一 同 令嬢
 - 服部 兵吾
- (注) 寿原九郎、伊部政次郎、
次郎両君は白鷗楼直行の
ため不参

千代田火災海上

企業と家庭を守りつづけて71年

- 本店：東京都中央区京橋1-3 (535) 4671
- 名古屋支店：名古屋市中区上前津町66 (331) 8411
- 大阪支店：大阪市東区大川町66 (203) 2161
- その他支店：全国主要都市

昭一二同期会

戦歿者慰霊碑建設募金の件で集る

三月二十一日午後六時から、北区お初天神の中華料理桃源で同期生が集まった。

議案は東京の牧田君から連絡のあった戦歿者慰霊碑建設の件であったが、同席していただいた墓目先輩から、募金方法その他について説明せられたので、昭一二年関西地区としては取纏めて東京へ送り、一括募金する方法をやめて、各自が、直接、



左から 八尾勝郎、林武、森川正明、横山為祐、山村太兵衛、墓目英三

建設本部へ送金することとした。

当夜は、東京から転勤早々の横山為祐君が参加され、また京都から、忙しい中を山村太兵衛君がかけつけてくれ、少数ながら和気あいあい裡に解散した。

出席者
墓目先輩、林武、八尾勝郎、横山為祐、山村太兵衛、森川正明

昭12卒 関西銘々伝(一)

関西銘々伝は次号へも続けますがその次は関東にバトンを渡しますのご準備願います。(森川正明)

学校卒業以来、目かくされて馬車馬のように走り続けて来たために、同期生の諸君の卒業以来の足跡や現状については昨年同窓会に出席する迄は、特定の友人を除いては全く無関心だった。否、無関心だった訳ではなく、太平洋戦争という暗い期間が、そういう「関心」を無理におし殺していったのだといえるかも知れない。そこで、関西在住の同期生の足跡や現状

状の素描をお知らせし、又他地方の諸君の消息も知らせていただきたい。

今井一雄君

同窓会名簿の住所、勤務先も空白のまま三十年を経過し、今度の戦歿者名簿作成で、その生死を確かめることを東京から要請されたのを機会に京都の山村太兵衛君を煩わして、同君の出身校膳所中学まで尋ねていただき、生存を確かめることが出来た。

その勤務先である今井京阪神運輸船をお訪ねした処、相憎、大阪市内の他の事業所へ転動された後で、面接出来なかったが、尠くとも、生死不明の同期生の生存を確認出来たことは、何にもまして嬉しいことであった。近況については、いづれ同君とお会いした上、改めて報告する。

田中 彰君

この人も亦、我々同期生とは、疎遠であった。

小樽卒業後神戸商大へ入学。昭和十六年同校卒業と共に満洲電線へ入社して奉天で活躍。十九年三月、現地召集となり東滿北支に在隊の後二十年四月見習士官として札幌師団に転属。終戦を迎え、二十一年六月倉敷紡績へ入社、本社、岡山工場に勤務、四十一年九月円満退社の上、協栄へ入社、現在、同社大阪出張所長として、波瀾の繊維業界に活躍されている。往年の美青年も今や、房々たる白髪となつて居るが、話の端々には、闊志満々たるものがあり、時に老い込み易い私などは、適当に刺戟されている。

(つづく)

昭和十四年卒 在京の集り

(日時) 四月二十三日 (場所) 四谷・司

去る四月二十三日、在京メンバー十七名四谷の司に集まる。

なお、来年は卒業以来満三十年になるので、全国に呼びかけ盛大にクラス会を開催することにしました。

幹事は三浦正、中曾貞一、大沼誠治および太田正勝の四氏ときまり、なお卒業生で住所氏名のわかつて居るものは、是非知らせてほしいと話し合いました。

- 出席者(順不同)
- 相羽清一郎(住友海上)
 - 相田 正(日本楽器)
 - 樋口 直之(東洋高圧)
 - 生田 千秋(公認会計士)
 - 小村 賢治(東北砂鉄)
 - 三浦 正(日本自動袋詰機)
 - 野村鉄太郎(丸善設備)
 - 中曾 貞一(東京藤室)
 - 中野 祐良(住友海上)
 - 太田 正勝(住友海上)
 - 大沼 誠治(伊藤忠)
 - 尾崎 哲平(食信協)
 - 沢井 道成(雪印)
 - 下矢 鉄男(雪印)
 - 飛塚 誠一(名商)
 - 湯浅 肇(玉川大学)
 - 北条 恒一(公認会計士)

緑 丘



昭和13年 札幌だより

△大野君の長男商大入学と同君の来道▽

埼玉県在住の大野陽之助君(東京芝浦・富士倉庫運輸勤務)の長男正明君(東京城北高出身)は、この度芽出度く小樽商大合格、入学式参列の為同君も共に来道、札幌まで足を伸ばし、30年ぶりの対面となった。佐藤勇君を混えて四人で食事を共にし、旧懐談に花を咲かせた。

△武知君取締役に▽

当の新聞報道によれば、さきに本店の審査部長、総務部長を歴任し、最近小樽支店長となった武知鉄郎君は、こんどの株主総会で取締役に選任された。

△戸谷太通三君いよいよ結婚▽

四月馬鹿わが結婚はまこととなり室谷賢治郎先生のご媒酌で四月十八

日、斎藤菊さんと華燭の典を挙げられた。

寒灯下結婚約す掌のぬくみ

ふたり行く雪解路つづく社(やしる)まで

ふたりしてかしわ手打てば春の音

銀婚のごとき新婚春の宵

いずれも戸谷氏の句である。お二人のご幸福を祈る。

大阪だより

△若山永太郎君渡米▽

日本能卒協会主催によるセールスマネジメント研究チームメンバーとして約一ヶ月の視察旅行に発った。(五月三十日〜六月二十五日)

○訪問地

サンフランシスコ・ロスアンゼルス・シカゴ・ミルウォォーキー・グリーンランド・バッファロー・フィデルファイアー・ニューヨーク・ボストン

昭和十三年卒

卒業三〇周年記念全国大会

六月十五日(土)

伊豆・稲取温泉

赤尾ホテル

△地区委員▽

(北海道) 鎌谷勤

(東北) 木幡清南

(北陸) 高杉隆平

(東京) 木村実、小田乾三、高野憲一郎

(中京) 鈴木啓介

(関西) 若山永太郎

(中国) 和田益太郎

(九州) 野沢義人

楽しいくらしのショッピング

東急百貨店

電話本店・東横店(463)0111日本橋店(211)0511本郷定休
贈りものに東急百貨店の商品券を
新宿小田急 函館棒二森屋 札幌五番館でも
お使いいただけます





五月十日ニューヨーク支部長宅で
緑丘会の集いももちました。

丸紅飯田ニューヨーク社長栗野俊
助氏(昭一二)の丸紅飯田本社
の常務取締役昇進したのを祝い、安宅
産業ニューヨーク社長取締役田中康
夫氏(昭一三)夫妻をはじめ十名の
集いで、高商時代の懐かしい話に花を
咲かせ全員時を忘れて夜の十一時頃
まで楽しい語りが続きました。

田中康夫氏は同期の丸紅機械専務
取締役若山永太郎氏が渡米されると
の報に是非とも日本に於ける緑丘会
の近況をうかがいたい、そのため再
び同氏の渡米を機にニューヨーク緑
丘会を開催したいとの提案があり、
全員賛成ということで本日の会合を
散会しました。

(勝股記)

昭和十一年卒 北海道地区ニュース(鉄道関係)

金井英明君
四十一年国鉄退職、爾来療養に
専念しているが、長女寛子さんが
近く御結婚の由、おめでとう。

池野竜雄君
四十一年国鉄退職後鉄道貨物混
載協会にて活躍中。

高橋好弘君
この三月苦小牧駅長を最後に、
国鉄を退職し、第二の職場として
苦小牧港開発KKに入社、臨海鉄
道部次長兼営業第二課長として活
躍中。

住所は
苦小牧市幸町 加富十郎方(六
月未まで)
苦小牧市糸井三三番地(七月
以降)
国安猛司君
昨年二月道都札幌の玄関番とし

て着任以来、相変らず張り切って
活躍中。

財田良弘君
札幌在住三十年に及ぶ太平の夢
を破られて遠軽に赤帽子を被る運
命となったが、この二月、二年間
の地方名士(迷士?)生活に別れ
を告げ、道北随一の都、旭川に住
みつき、目下独身生活をつづけつ
つあり、月二回程度家内の来訪監
査を受けるが、監査の結果は概ね
良好である。たまたま畏友飯島氏
の近隣に住むあり、ときおり麻雀
をたのしむ。

勤務先 旭川鉄道病院事務局長
住所 旭川市宮下通四丁目
国鉄AP一九の四〇一
(この後は小島典春さんに東京地
区の近況を流して貰いましょう)

(飯島記)

会津若松支部から

去る五月十四日、鶴ヶ城内でこの
たび東邦銀行会津支店長にご栄転の
会田勝氏(昭一七)の歓迎会を開き
同窓生全員参集しました。

(飯塚久男記)

五〇周年記念

五七会(大正七年卒)集る
学窓を出て五〇周年記念会を去る
五月十一日、東京・雅叙園で開催し
ました。

大山不二太郎君は十二日朝、日大
病院で亡くなりました。同君は五七

「緑丘」綴込表紙は品切れ
でございます

会に出席予定であったが、胃潰瘍が
重く出席はとて困難とのことで遂
に欠席されたのであったが、吾々が
五〇周年の会を開いているその間に
他界されたことは不思議な因縁とい
うべく、ただご冥福を祈るのみで
す。

(松浦文太郎記)

原稿募集

同期のニュースはこの緑丘
で交流しましょう。
一行十六字で原稿を書いて
下さる。

大山不二太郎氏(六七)

山形県農協中央会会長、同県農協
共済連会長、天童木工所社長、十二
日午前五時二十分、胃かいようのた
め東京・文京区の日本医大付属病院
で死去、七十歳。自宅は山形県村山
市橋岡五四。告別式は十九日午後一
時から山形県村山市民会館で行な
われた。喪主は長男勝太郎氏。

齊藤武雄氏(昭一九)

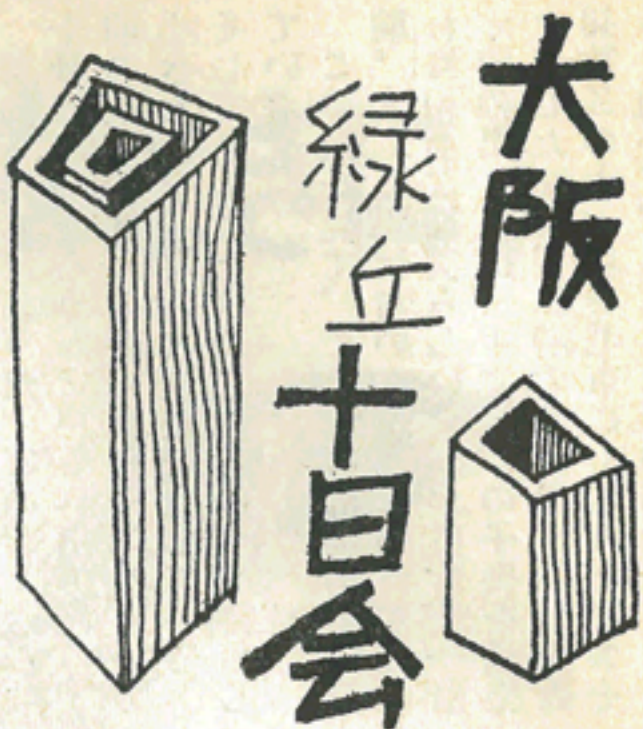
仙台、聖書図書刊行会に勤務中の
齊藤君は病氣中のところ去る四月十
日逝去しました。

寺山朝氏(昭五)

太平洋炭礦社長、十五日午前四時
七分、肝硬変のため東京・湯島の東
京日立病院で死去、六十歳。葬儀は
十八日午後一時から東京・築地本願
寺で社葬により行なった。喪主は長
男の邦昭氏。自宅は東京都杉並区松
ノ木町二二〇。

関口武男氏(大五)

昭和三十八年十一月二十六日死亡
(同期桜田総之丞氏の所望により掲
載す)



三月例会

東海銀行経営相談所泉安治氏(昭
二八)の好意により教育映画「あな
たも管理者」の見学会を開催、今月
は約二十名の参加であった。
新人としては、山本陽治氏(昭一



六)八日棉実業取締役内地繊維本部
長Vの挨拶があり神戸支部から水垣
敏正氏(昭五)も御令息と共に参加
するなど、大正十一年卒から昭和三
十四年卒まで社員教育に関心のある
緑丘人の集いであったが何れも約一
時間に亘る映画に片唾をのんで見入
っていた。

(出席者)
宮地邦介(大一一) 田中弥三郎(大
一一) 香川清夫(大一一) 石田平八
(昭二) 渡辺祥吉(昭二) 樋山三郎
(昭三) 堀池善弥(昭五) 水垣敏正
(昭五) 八水垣宏隆(昭五) 進藤彰(昭一
一) 若山永太郎(昭一三) 松本義夫
(昭一五) 山本陽治(昭一六) 亀山
英夫(昭一六) 大崎康市(昭一九)
泉安治(昭二八) 剣物資郎(昭三
〇) 工藤昌久(昭三四) 角响(昭三

四月例会

四月の例会には伊勢から今度神戸
市有限会社村田の常務さんになつ
た井上巖さん(大一一)が参加され
た。

井上さんは本日の参加者全員に伊
勢名産赤福あんころを一折宛ご寄贈
下さった。神戸のさんちかに店を構
えるムラタの真珠、舶来婦人服飾、
毛皮など紹介パンフレットや春の展
示会の招待券(大阪ロイヤル・ホテ
ル二階楓の間)まで添えていたれり
つくせりの御案内であった。

(出席者)
井上巖(大一一) 田中弥三郎、大久
保鹿式(大一一) 石田平八(昭二)
水垣敏正(昭五) 田代耕二(昭八)
藁目英三(昭一一) 若山永太郎(昭

五月例会

大阪支部総会六月十日
今月も特に議題はなく集つたので
あるが戦死者霊碑募金が大阪支部と
して集計のところ五〇名で二十八万
四千円(五月十日現在)その後毎日
報告書が到着するため三〇万円を超
えるのでなろうかとの若山幹事長
の見透しであった。

停年制の問題や健康管理の問題な
ど漫談の懇親会であった。その間大
塚武雄氏(大一一)から四十年振り
で大野先生邸を訪問してあまりのな
つかしさに話は尽きず深更に及んだ
と語っておられた。

大阪支部の総会は六月十日に内定
し、学長の都合をうかがうという事
になった。

(出席者)
四谷宗義(大一一) 大竹政雄(大
一一) 大塚武雄(大一一) 石田平八
(昭二) 渡辺祥吉(昭二) 樋山三郎
(昭三) 玉井英雄(昭四) 藤井幸男
(昭九) 藁目英三(昭一一) 若山永
太郎(昭一三) 亀山英夫(昭一六)
角响(昭三四)

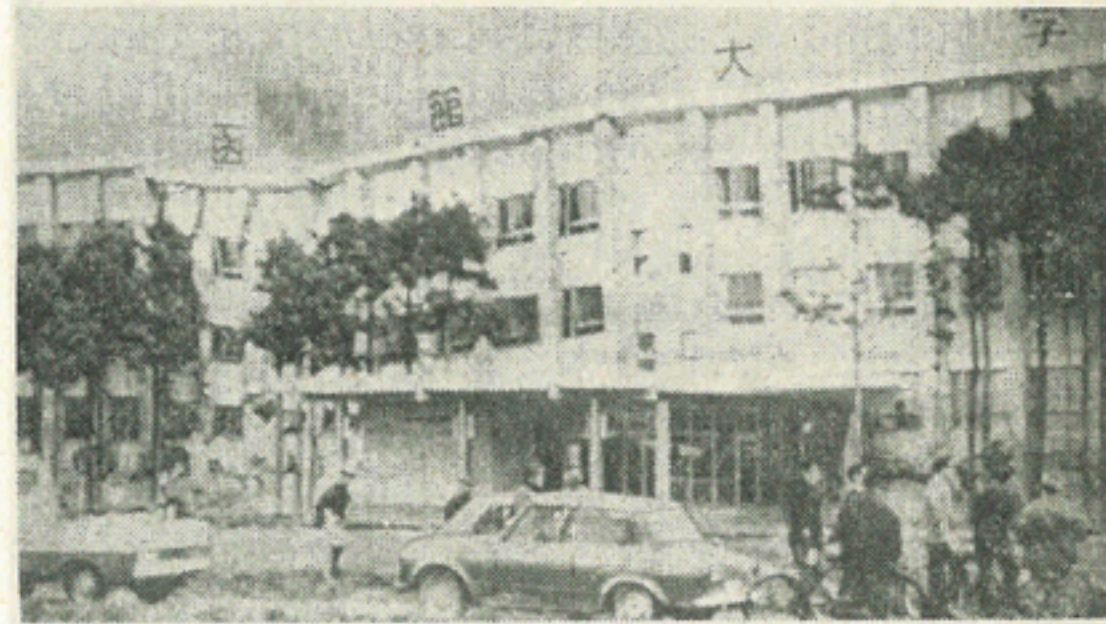
写真説明

(上) 山本陽治氏(昭一六)の挨拶
(下) 三月例会出席者
(左) 石田支部長(右)

某月某日

△十勝沖地震▽

トイレの壁が動く感じだなあと思っ
いたら、床が上下に動き出した。尾籠な
話だが、地震は私がトイレに入っていた
時であった。私の今の家のトイレは、男
便所なしの大便所だけのので、立ったま
ま便器を動かして、ホースを持ってま
まに放尿し始めた時なのである。今に治ま
るだろうと、タカをくくりながらの放尿
は、ますます激しくなる上下動のため
に、右に行ったり左に行ったり、ともす
れば、便器を越えて床にかりそうにな
る。



同じ。地階のテナントのおでん屋ゴタッ
べさんから電話で「異状はないか」との
問い合わせがあったとのこと。早速甥とカ
ギを開けて入ってみる。
お銚子の棚を見る。一本も落ちてはい
ない。徳利も無事。お銚子は逆様に立て
られたまま、鎮座ましましていた。

△ゆり返し▽

市郊外の平岡団地ではガケ崩れがあり
数戸がつぶれたとか、ひばりが丘団地で
は水道本管が故障し、もらい水をしてい
るとか、札幌の被害は軽微らしい。

北海道新聞夕刊には、六段ぬきの大き
な写真入りで、先輩の野又貞夫氏経営の
函館大学校舎が大被害を受けたことを報
じている。

某月某日

(編集部)

「お隣の奥さん、まあ子供をおろしな
さいよ」と声をかけてやる。家に入り、
トランジスタラジオをかけてみる。N
HKは本州からの回線が故障とかで、雑
音が入って聞きにくい。札幌局単独に切
替えて放送を始めた。道内各地は震度5
前後の強震、道南の苫小牧、函館などが
強かったらしい。津波警報が出た。

△鎌谷君を訪問▽

十一時半頃、約束によりゴードー溶剤
会社に同期の常務鎌谷君を夫婦で訪問す
る。同社では、シンナーや塗料などの危険
物を取扱っているため、地震被害を問う
と、北広島の工場も異状はないとのこ
と。

△戸谷ビル▽

正午、鎌谷君の車に乗せられて出勤。
途中街の様子を別状なし。戸谷ビルも

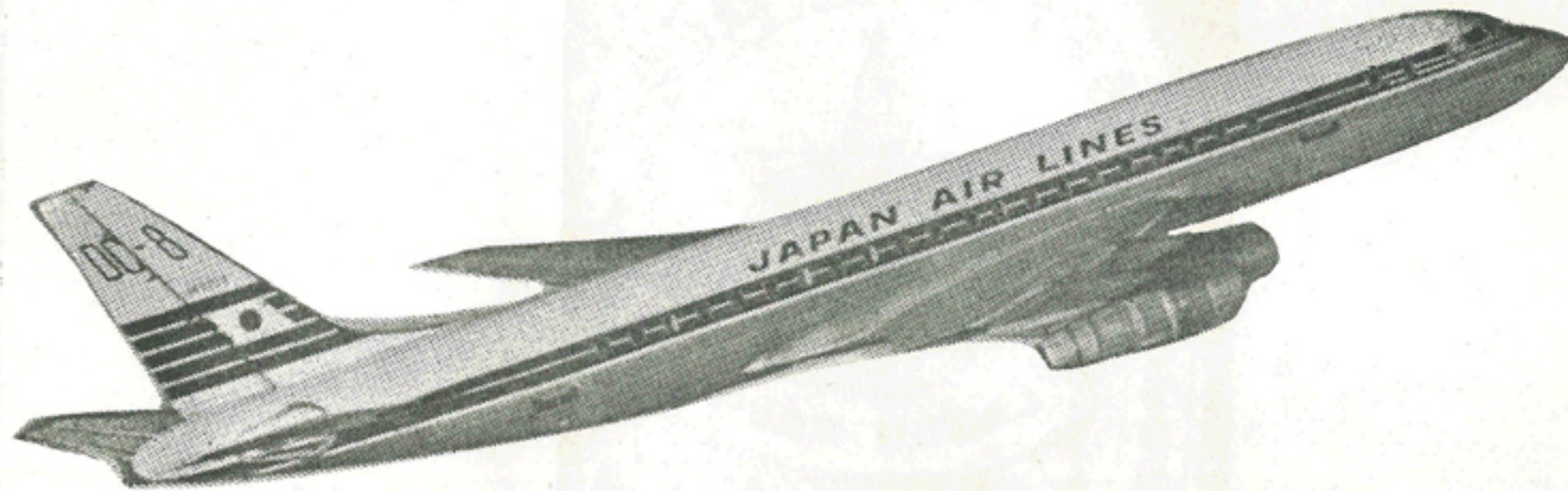
☆とうとう奇数月発刊の緑丘の看板
を下げてしまった。今月も遅れて申
訳ありません。然し奇数月を目標
に絶やさない努力を続けましょう。
☆外人講師特集号もⅢとなり、さら
に大谷敏治先生の続編が次号にも続
きます。
☆緑丘申込みについてどうもスピー
ドが落ちて来ました、何か名案はあ
りませんか。二、三の方々からは三
人分の申込みを代表で纏めて振替で
お届け下さいましたが、編集部とし
てこんな嬉しいことはありません。
☆週刊新潮に掲載された大西猪之介
先生の資料(理事長佐々木さん)の
反応が忽ち現われてきた。「早速あ
ちからもこっちからも云って来ま
した」とは佐々木さんの話。

編集後記

「大学の外人教師」
国際理解につくす
は、国際理解につくす
取組まれました



世界のどこへでも お好きなときに!



'68 バイキング ツアー

ヨーロッパの旅 22日間 旅費：¥598,000

出発日 7月17日・7月24日・8月7日・9月11日
(水曜日)

(旅行コース) 東京・コペンハーゲン・ストックホルム・ロンドン・
ブリッセル・パリ・マドリッド・ジュネーブ・ローマ・
ミュンヘン・ウィーン・アテネ・東京

太平洋観光株は大阪営業所を新設致しましたので
国内旅行、海外旅行、何んでもご相談下さい。

IATA (国際航空運送協会) 公認代理店

世界中の航空会社の代理店です。日航, 全日空, 国内航空はもちろんです

JATA (国際旅行業者協会) 会員

ASTA (米国旅行業者協会) 会員

PATA (太平洋観光協会) 会員

UFTAA (国際旅行業者連盟)

太平洋観光株式会社

本社 / 東京都千代田区丸の内2-18 岸本ビル TEL(281) 9864~5
 銀座営業所 / 東京都中央区銀座5丁目2番地 TEL(573) 5416 ㊦
 札幌営業所 / 札幌市北2条西3丁目(越山ビル) TEL(24) 7913
 大阪営業所 / 大阪市東区北久宝寺町2-13(マエダビル) TEL(271) 6481~2